

**平成 25 年度
男女共生社会に関する市民意識調査
報告書**

**平成 26 年 3 月
和歌山市**

はじめに

少子高齢化が進み、社会経済情勢が急速に変化する現代社会において、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現は、二十一世紀の我が国社会を決定する最重要課題と国は位置づけています。

和歌山市では、すべての人がいきいきと心豊かに暮らし、家庭・職場・地域等のあらゆる分野においても男女が共に参画できる社会「男女共生社会」の実現をめざし、平成11年度に「和歌山市男女共生推進行動計画」を、平成21年度には「第2次和歌山市男女共生推進行動計画」を策定し、それぞれの計画に基づき各種施策を推進してきました。

今回、現計画の期間満了を平成26年度末に迎えるにあたり、「第3次和歌山市男女共生推進行動計画（仮称）」策定の基礎資料とするため、「男女共生社会に関する市民意識調査」を実施しました。この調査結果から見えてきた新たな課題やニーズなどを考慮し、男女共生社会の推進のための施策を総合的、計画的に進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました市民の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも男女共生社会の実現に向け、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成26年3月

和歌山市長 大橋 建一

～目 次～

I. アンケート調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査内容	1
3. 調査方法	1
4. 集計について	1
II. 調査の結果	2
1. 回答者について	2
2. 男女平等について	6
3. 高齢期について	19
4. 家庭生活、子育てについて	23
5. 就労について	28
6. 防災意識について	41
7. 地域活動について	44
8. DV（ドメスティック・バイオレンス）について	46
9. 男女共生社会について	57
10. 男女共生社会をさらに推進していくためのご意見（自由意見）	64
III. 調査結果の概要	68
IV. 語句の解説	73
V. 調査票	75

I. アンケート調査概要

1. 調査の目的

和歌山市の男女共生社会を推進のため市民の意識を調査し、今後の行政施策、次期行動計画策定への基礎資料にするために活用していく。

2. 調査内容

- (1) 回答者について
- (2) 男女平等について
- (3) 高齢期について
- (4) 家庭生活、子育てについて
- (5) 就労について
- (6) 防災意識について
- (7) 地域活動について
- (8) DV（ドメスティック・バイオレンス）について
- (9) 男女共生社会について

3. 調査方法

- ◆調査区域 和歌山市全域
- ◆調査対象 平成25年9月1日現在、和歌山市に居住する満20歳以上の男女を等間隔無作為抽出
- ◆調査方法 郵送による配布・回収
- ◆調査期間 平成25年9月16日（月）～同10月4日（金）
- ◆回収率 発送数 3,000人
回収数 1,011人 回収率 33.7%
- ◆調査機関 和歌山市男女共生推進課（対象者の抽出及びアンケートの策定）
(株)都市空間研究所（配布・回収・集計・取りまとめ）

4. 集計について

○図および表中の比率は、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。

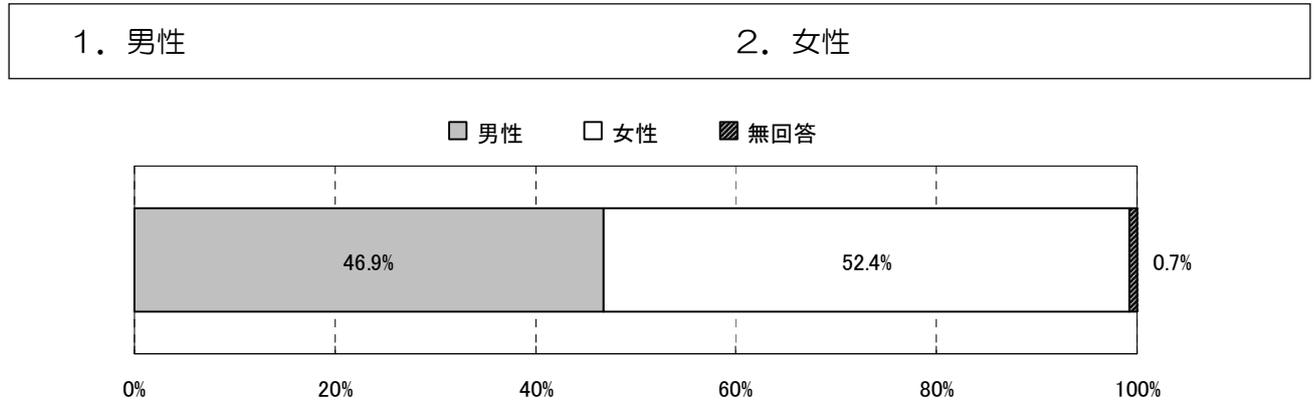
○複数回答がある質問では、比率の合計が100%を超えている。

○図中の「n」とは、分類別の該当対象者数を示し、比率は「n」を100%として表示している。※「n」が調査母数の場合は表示しない。

Ⅱ. 調査の結果

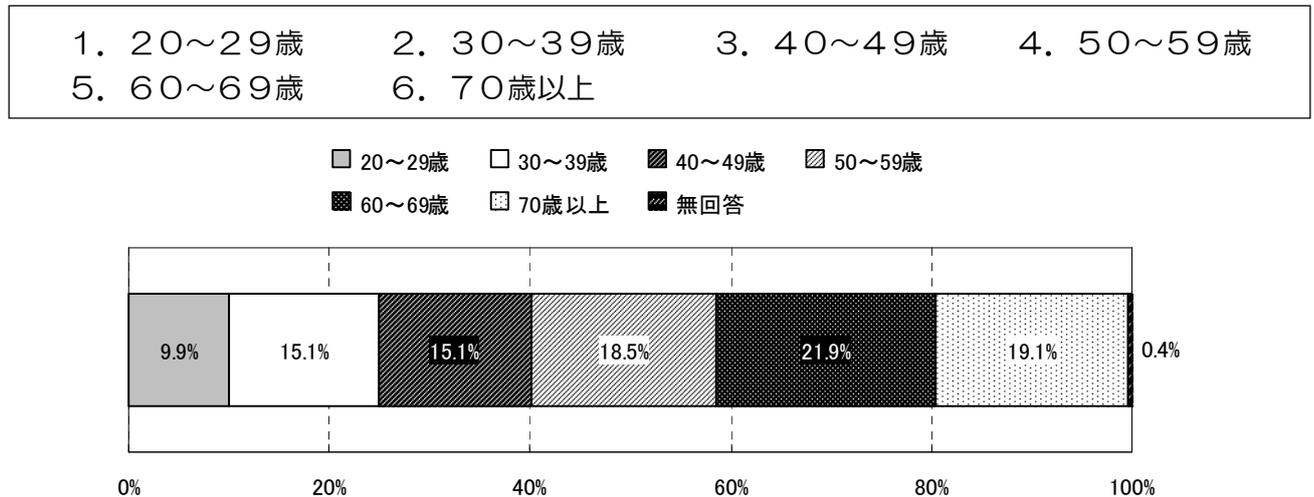
1. 回答者について

問1. 性別



回答者の男女別構成比は、「女性」が52.4%、「男性」が46.9%と女性の回答がやや多くなっている。

問2. 年齢



回答者の年齢別構成比は、「60歳代」が21.9%と最も多く、次いで「70歳以上」(19.1%)、「50歳代」(18.5%)の順となっている。

○回答者の属性について

平成22年度「国勢調査」との男女の比率にみると、いずれも男性より女性がやや高い割合となっており、国勢調査の性別、年齢別人口と概ね同じ比率となっている。

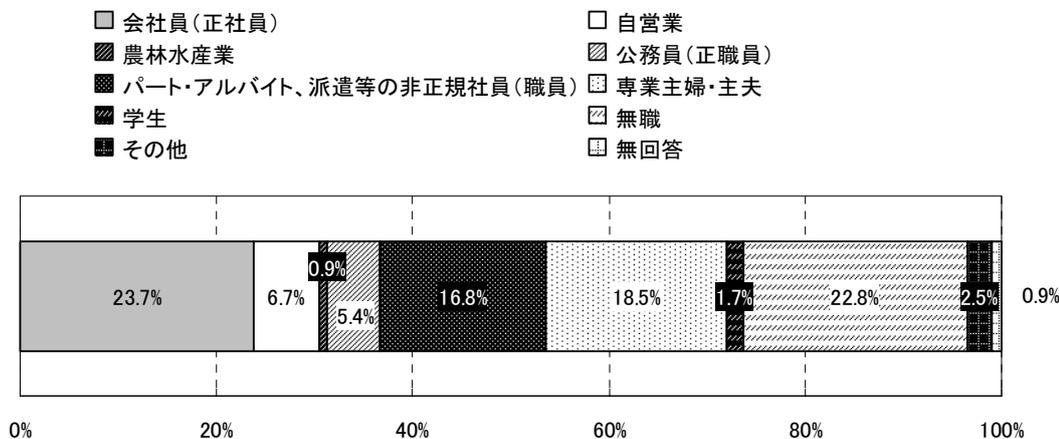
性別、年齢別人口(20歳以上)

性別	人口	%
男性	139,074	46.0
女性	162,975	54.0
合計	302,049	100.0
年齢	人口	%
20歳代	35,374	11.7
30歳代	48,038	15.9
40歳代	47,352	15.7
50歳代	46,218	15.3
60歳代	58,062	19.2
70歳以上	67,005	22.2
合計	302,049	100.0

平成22年10月1日現在、和歌山市「国勢調査」より

問3. 現在の職業、勤務形態

1. 会社員（正社員） 2. 自営業 3. 農林水産業 4. 公務員（正職員）
 5. パート・アルバイト、派遣等の非正規社員（職員） 6. 専業主婦・主夫
 7. 学生 8. 無職 9. その他（ ）



回答者の職業は、「会社員」が23.7%と最も多く、次いで「無職」(22.8%)、「専業主婦・主夫」(18.5%)の順となっている。

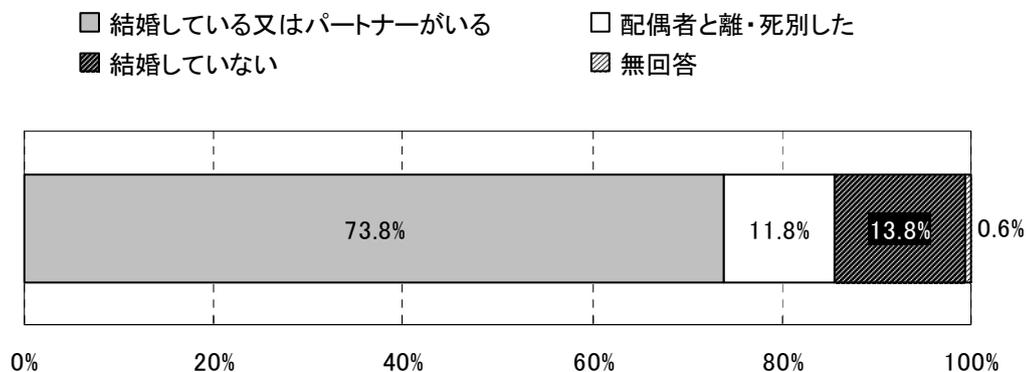
<回答者の属性>

○回答者の属性一覧表（問1から問3の結果を集計）

区分		総数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
総数		1,011	100	153	153	187	221	193	4
性別	男性	474	33	65	69	87	111	108	1
	女性	530	67	88	83	100	110	82	0
	無回答	7	0	0	1	0	0	3	3
職業別	会社員（正社員）	240	37	57	60	58	27	1	0
	自営業	68	0	5	9	19	22	13	0
	農林水産業	9	0	4	0	2	1	2	0
	公務員（正職員）	55	6	18	10	20	0	1	0
	パート・アルバイト、派遣等の非正規社員（職員）	170	26	24	41	39	38	2	0
	専業主婦・主夫	187	11	40	23	30	55	28	0
	学生	17	15	1	0	1	0	0	0
	無職	231	0	4	8	13	66	140	0
	その他	25	5	0	2	4	9	5	0
無回答	9	0	0	0	1	3	1	4	

問4. 結婚について

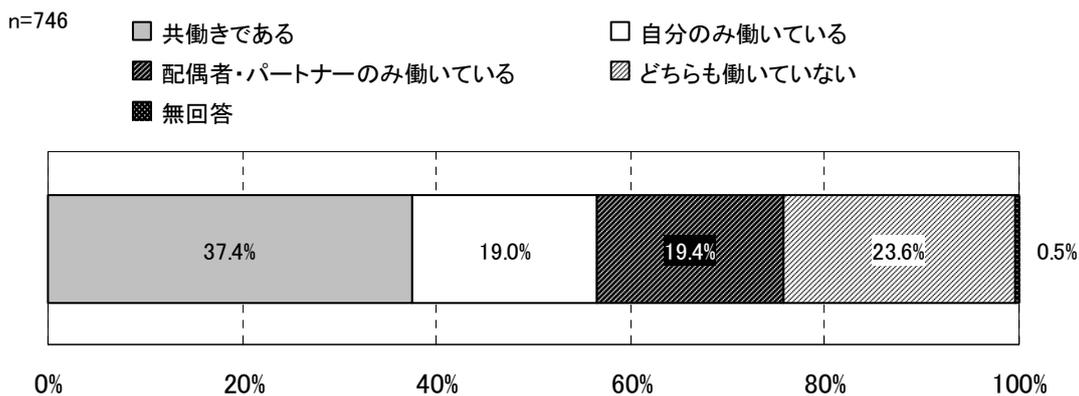
1. 結婚している又は※パートナーがいる ※パートナー：事実婚の状態と共に暮らしている方
2. 配偶者と離・死別した
3. 結婚していない



「結婚している又はパートナーがいる」は 73.8%、「結婚していない」は 13.8%、「配偶者と離・死別した」は 11.8%となっている。

問4-1. 就労について

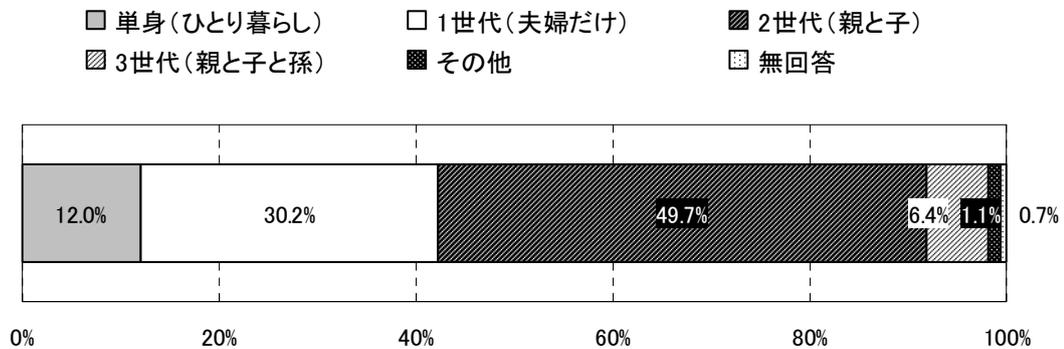
- 問4で「1」と回答された方のみお答えください。2人とも働いていますか。
1. 共働きである
 2. 自分のみ働いている
 3. 配偶者・パートナーのみ働いている
 4. どちらも働いていない



「結婚している又はパートナーがいる」と回答した 746 人のうち、「共働きである」が最も多く 37.4%、次いで「どちらも働いていない」(23.6%)、「配偶者・パートナーのみ働いている」(19.4%)、「自分のみ働いている」(19.0%) の順となっている。

問5. 現在同居している家族構成

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 単身（ひとり暮らし） | 2. 1世代（夫婦だけ） |
| 3. 2世代（親と子） | 4. 3世代（親と子と孫） |
| 5. その他（ | ） |



回答者の同居している家族構成は、「2世代（親と子）」が49.7%と最も多く、次いで「1世代（夫婦だけ）」（30.2%）、「単身（ひとり暮らし）」（12.0%）、「3世代（親と子と孫）」（6.4%）の順となっている。

その他の家族構成では、「4世代」、「兄妹・姉妹」の回答があった。

○回答者の家族環境について

家族環境については、既婚者（結婚しているまたはパートナーがいる）が最も多く、その中で「共働き」（37.4%）より「既婚者のいずれかが働いている」（「自分のみ働いている」と「配偶者・パートナーのみ働いている」の計[38.4%]）割合がやや高い。

家族構成は、2世代が約半分を占め、1世代は約3割となり、約8割が核家族世帯となっている。

2. 男女平等について

問6. 男女の地位の平等

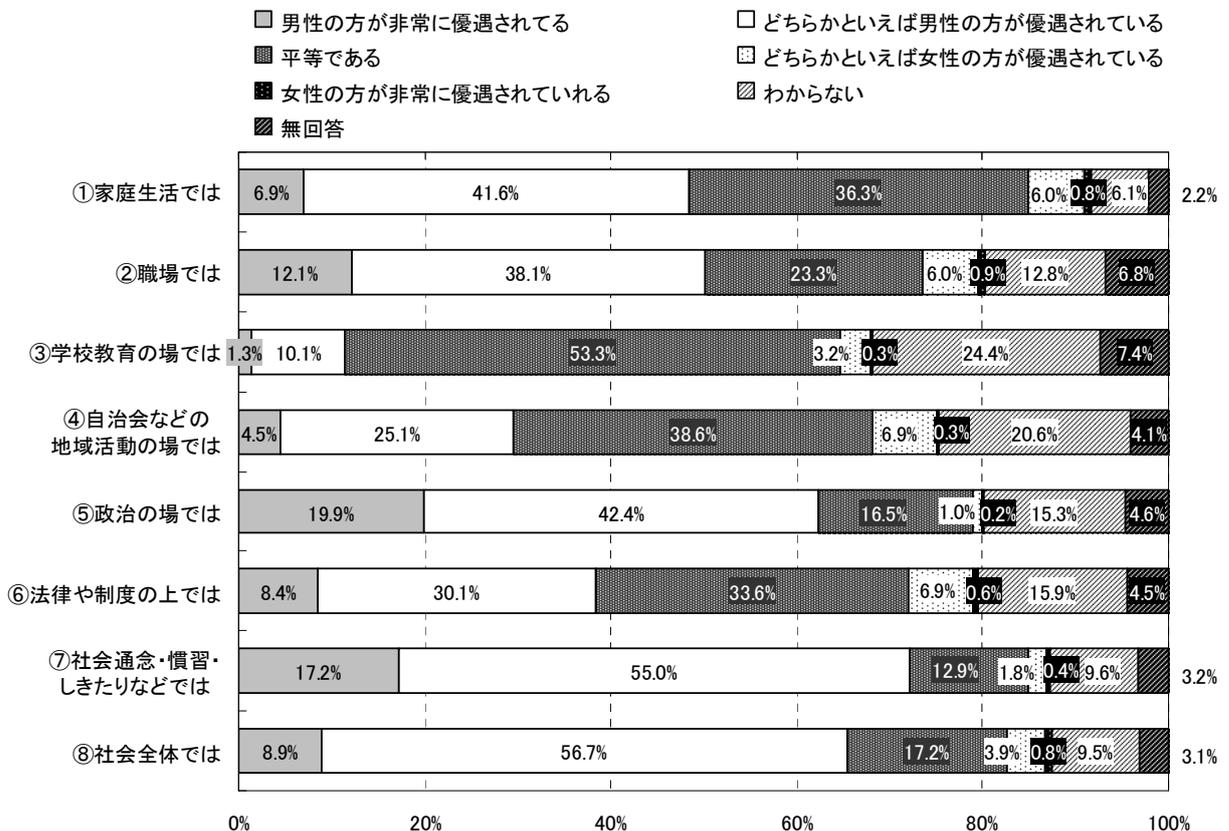
次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ①家庭生活では
- ②職場では
- ③学校教育の場では
- ④自治会などの地域活動の場では
- ⑤政治の場では
- ⑥法律や制度の上では
- ⑦社会通念・慣習・しきたりなどでは
- ⑧社会全体では

<選択肢>

男性の方が非常に優遇されている
 どちらかといえば男性の方が優遇されている
 平等である
 どちらかといえば女性の方が優遇されている
 女性の方が非常に優遇されている
 わからない



男女の地位について、いずれの項目も「男性が優遇されている」割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）は、「女性が優遇されている」割合（女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）より高くなっている。

「平等である」割合は、「学校教育の場では」と「自治会などの地域活動の場では」が「男性が優遇されている」割合より高くなっている。

○「平等である」割合が高い項目の性別・年齢別表

			優男 遇性 され の方 が非 常に	れ男 ど性 のち らか と 優い 遇え さば	平 等 で あ る	れ女 ど性 のち らか と 優い 遇え さば	優女 遇性 され の方 が非 常に	わ か ら な い	無 回 答
① 家庭生活では	男性・年齢別	20～29歳	3.0	36.4	45.5	6.1	0.0	9.1	0.0
		30～39歳	7.7	27.7	41.5	13.8	1.5	6.2	1.5
		40～49歳	0.0	39.1	42.0	11.6	1.4	5.8	0.0
		50～59歳	2.3	43.7	42.5	5.7	1.1	3.4	1.1
		60～69歳	7.2	35.1	41.4	6.3	0.0	6.3	3.6
		70歳以上	6.5	36.1	44.4	5.6	0.0	3.7	3.7
	女性・年齢別	20～29歳	7.5	26.9	43.3	9.0	1.5	10.4	1.5
		30～39歳	11.4	45.5	30.7	6.8	0.0	4.5	1.1
		40～49歳	7.2	45.8	33.7	0.0	1.2	9.6	2.4
		50～59歳	12.0	55.0	25.0	1.0	1.0	3.0	3.0
		60～69歳	5.5	51.8	24.5	6.4	0.9	8.2	2.7
		70歳以上	8.5	45.1	30.5	4.9	1.2	7.3	2.4
③ 学校教育の場では	男性・年齢別	20～29歳	0.0	0.0	66.7	15.2	0.0	18.2	0.0
		30～39歳	3.1	3.1	56.9	6.2	3.1	24.6	3.1
		40～49歳	0.0	5.8	65.2	5.8	0.0	20.3	2.9
		50～59歳	0.0	8.0	58.6	4.6	0.0	24.1	4.6
		60～69歳	0.9	8.1	52.3	1.8	0.0	28.8	8.1
		70歳以上	1.9	7.4	49.1	2.8	0.9	17.6	20.4
	女性・年齢別	20～29歳	1.5	4.5	67.2	1.5	0.0	23.9	1.5
		30～39歳	1.1	12.5	55.7	1.1	0.0	26.1	3.4
		40～49歳	1.2	12.0	51.8	6.0	0.0	27.7	1.2
		50～59歳	0.0	18.0	56.0	2.0	0.0	20.0	4.0
		60～69歳	0.9	19.1	42.7	0.9	0.0	29.1	7.3
		70歳以上	4.9	11.0	36.6	0.0	0.0	28.0	19.5
④ 自治会などの地域活動の場では	男性・年齢別	20～29歳	3.0	15.2	42.4	0.0	0.0	36.4	3.0
		30～39歳	3.1	10.8	44.6	12.3	0.0	26.2	3.1
		40～49歳	2.9	18.8	50.7	11.6	0.0	15.9	0.0
		50～59歳	2.3	25.3	44.8	4.6	0.0	21.8	1.1
		60～69歳	4.5	21.6	49.5	9.0	1.8	9.9	3.6
		70歳以上	0.9	25.0	49.1	4.6	0.9	8.3	11.1
	女性・年齢別	20～29歳	4.5	16.4	32.8	6.0	0.0	37.3	3.0
		30～39歳	2.3	26.1	29.5	3.4	0.0	35.2	3.4
		40～49歳	7.2	33.7	25.3	8.4	0.0	22.9	2.4
		50～59歳	4.0	45.0	21.0	5.0	0.0	22.0	3.0
		60～69歳	6.4	30.0	40.0	5.5	0.0	15.5	2.7
		70歳以上	12.2	19.5	31.7	11.0	0.0	17.1	8.5
⑥ 法律や制度の上では	男性・年齢別	20～29歳	6.1	27.3	18.2	33.3	0.0	15.2	0.0
		30～39歳	4.6	23.1	38.5	20.0	0.0	10.8	3.1
		40～49歳	4.3	39.1	34.8	4.3	4.3	13.0	0.0
		50～59歳	4.6	21.8	49.4	6.9	1.1	14.9	1.1
		60～69歳	6.3	25.2	45.0	5.4	0.9	13.5	3.6
		70歳以上	1.9	22.2	48.1	5.6	0.0	11.1	11.1
	女性・年齢別	20～29歳	6.0	25.4	34.3	13.4	1.5	17.9	1.5
		30～39歳	14.8	37.5	25.0	4.5	0.0	15.9	2.3
		40～49歳	9.6	37.3	24.1	3.6	0.0	22.9	2.4
		50～59歳	15.0	38.0	26.0	4.0	0.0	14.0	3.0
		60～69歳	11.8	36.4	25.5	2.7	0.0	20.0	3.6
		70歳以上	12.2	23.2	23.2	2.4	0.0	23.2	15.9

○「男性が優遇されている」割合が高い項目の性別・年齢別表

			優男性 遇の方 され る非 常に	れ男 ど 性 の ち ら か と 優 遇 さ ば	平 等 で あ る	れ女 ど 性 の ち ら か と 優 遇 さ ば	優女性 遇の方 され る非 常に	わ か ら な い	無 回 答
② 職 場 で は	男性・ 年齢別	20～29歳	6.1	18.2	54.5	12.1	0.0	9.1	0.0
		30～39歳	9.2	30.8	38.5	15.4	3.1	1.5	1.5
		40～49歳	7.2	40.6	34.8	10.1	1.4	4.3	1.4
		50～59歳	8.0	32.2	39.1	11.5	1.1	5.7	2.3
		60～69歳	10.8	40.5	24.3	8.1	0.0	9.0	7.2
		70歳以上	9.3	38.0	14.8	0.9	0.0	16.7	20.4
	女性・ 年齢別	20～29歳	14.9	35.8	31.3	10.4	0.0	7.5	0.0
		30～39歳	21.6	44.3	19.3	3.4	2.3	6.8	2.3
		40～49歳	15.7	48.2	18.1	3.6	0.0	13.3	1.2
		50～59歳	9.0	51.0	21.0	1.0	0.0	14.0	4.0
		60～69歳	15.5	36.4	9.1	5.5	0.9	25.5	7.3
		70歳以上	14.6	26.8	7.3	0.0	2.4	28.0	20.7
⑤ 政 治 の 場 で は	男性・ 年齢別	20～29歳	18.2	39.4	27.3	0.0	0.0	15.2	0.0
		30～39歳	18.5	33.8	32.3	0.0	0.0	12.3	3.1
		40～49歳	17.4	52.2	17.4	1.4	0.0	11.6	0.0
		50～59歳	10.3	46.0	21.8	5.7	0.0	14.9	1.1
		60～69歳	14.4	42.3	23.4	0.9	0.9	13.5	4.5
		70歳以上	5.6	45.4	27.8	0.0	0.9	9.3	11.1
	女性・ 年齢別	20～29歳	23.9	43.3	6.0	3.0	0.0	20.9	3.0
		30～39歳	36.4	43.2	5.7	0.0	0.0	12.5	2.3
		40～49歳	26.5	42.2	6.0	0.0	0.0	24.1	1.2
		50～59歳	23.0	44.0	12.0	1.0	0.0	15.0	5.0
		60～69歳	26.4	44.5	10.0	0.0	0.0	15.5	3.6
		70歳以上	20.7	31.7	11.0	0.0	0.0	23.2	13.4
⑦ ど こ で は 社 会 通 念 ・ 慣 習 ・ し き た り な	男性・ 年齢別	20～29歳	9.1	39.4	24.2	6.1	0.0	21.2	0.0
		30～39歳	6.2	56.9	24.6	6.2	0.0	4.6	1.5
		40～49歳	11.6	63.8	17.4	1.4	0.0	5.8	0.0
		50～59歳	9.2	65.5	9.2	2.3	0.0	12.6	1.1
		60～69歳	14.4	54.1	18.0	1.8	0.0	7.2	4.5
		70歳以上	4.6	58.3	14.8	1.9	0.9	11.1	8.3
	女性・ 年齢別	20～29歳	14.9	46.3	13.4	0.0	1.5	22.4	1.5
		30～39歳	31.8	50.0	8.0	1.1	1.1	6.8	1.1
		40～49歳	30.1	55.4	3.6	0.0	0.0	8.4	2.4
		50～59歳	25.0	59.0	8.0	0.0	0.0	5.0	3.0
		60～69歳	23.6	54.5	12.7	0.9	0.0	6.4	1.8
		70歳以上	18.3	47.6	8.5	2.4	1.2	14.6	7.3
⑧ 社 会 全 体 で は	男性・ 年齢別	20～29歳	9.1	39.4	30.3	9.1	0.0	12.1	0.0
		30～39歳	4.6	44.6	29.2	12.3	3.1	4.6	1.5
		40～49歳	5.8	58.0	18.8	10.1	2.9	4.3	0.0
		50～59歳	2.3	63.2	18.4	3.4	0.0	11.5	1.1
		60～69歳	6.3	59.5	20.7	2.7	0.9	7.2	2.7
		70歳以上	2.8	51.9	24.1	1.9	1.9	9.3	8.3
	女性・ 年齢別	20～29歳	14.9	50.7	14.9	6.0	0.0	11.9	1.5
		30～39歳	9.1	65.9	13.6	1.1	0.0	9.1	1.1
		40～49歳	13.3	59.0	12.0	2.4	0.0	12.0	1.2
		50～59歳	15.0	63.0	9.0	1.0	1.0	8.0	3.0
		60～69歳	14.5	60.0	10.9	2.7	0.0	10.0	1.8
		70歳以上	8.5	50.0	14.6	1.2	0.0	15.9	9.8

「平等である」割合の高い項目（P7）にみると、「家庭生活では」は、男性の50歳代以外は「平等である」割合が最も高いが、女性の20歳代以外は「男性の方が優遇されている」割合が最も高くなっている。

「学校生活では」は、男女のすべての年齢層が「平等である」割合が最も高いが、割合をみると、男性の70歳以上（49.1%）、女性の60歳代（42.7%）と70歳以上（36.6%）が50%を下回っている。

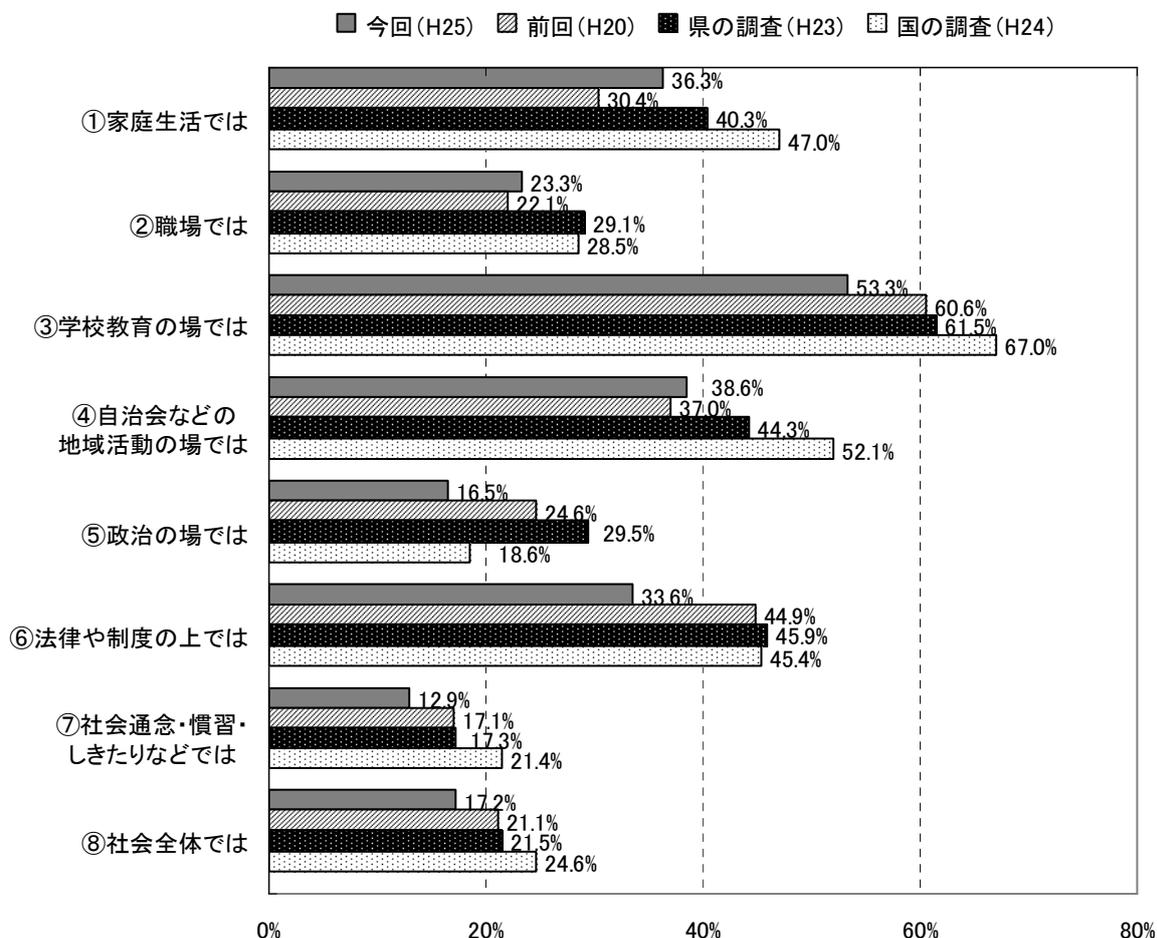
「自治会などの地域活動での場では」は、男性のすべての年齢層と女性の60歳代以上で「平等である」割合が最も高いが、女性の30歳代以下は「わからない」が最も高く、40歳代と50歳代は「男性の方が優遇されている」割合が最も高くなっている。

「法律や制度の上では」は、男性の30歳代と50歳代以上、女性の20歳代と70歳以上で「平等である」割合が最も高くなっているが、男性の40歳代と女性の30歳代以上は「男性の方が優遇されている」割合が最も高くなっている。男性の20歳代は「女性の方が優遇されている」が最も高くなっている。

「男性が優遇されている」割合は「政治の場では」、「社会通念・慣習・しきたりなどでは」と「社会全体では」で男女のすべての年齢層で最も高くなっている。

「職場では」は、男性の20歳代と30歳代、50歳代で「平等である」割合が最も高い。男性の40歳代と60歳代以上と女性の20歳代から60歳代までは「男性が優遇されている」割合が最も高く、女性の70歳以上は「わからない」が最も高くなっている。

<男女の地位について「平等である」の割合の前回調査、県、国との比較>



「家庭生活では」、「職場では」、「自治会などの地域活動の場では」の項目は、和歌山市が平成20年度に実施した調査より今回のほうが上回っている。

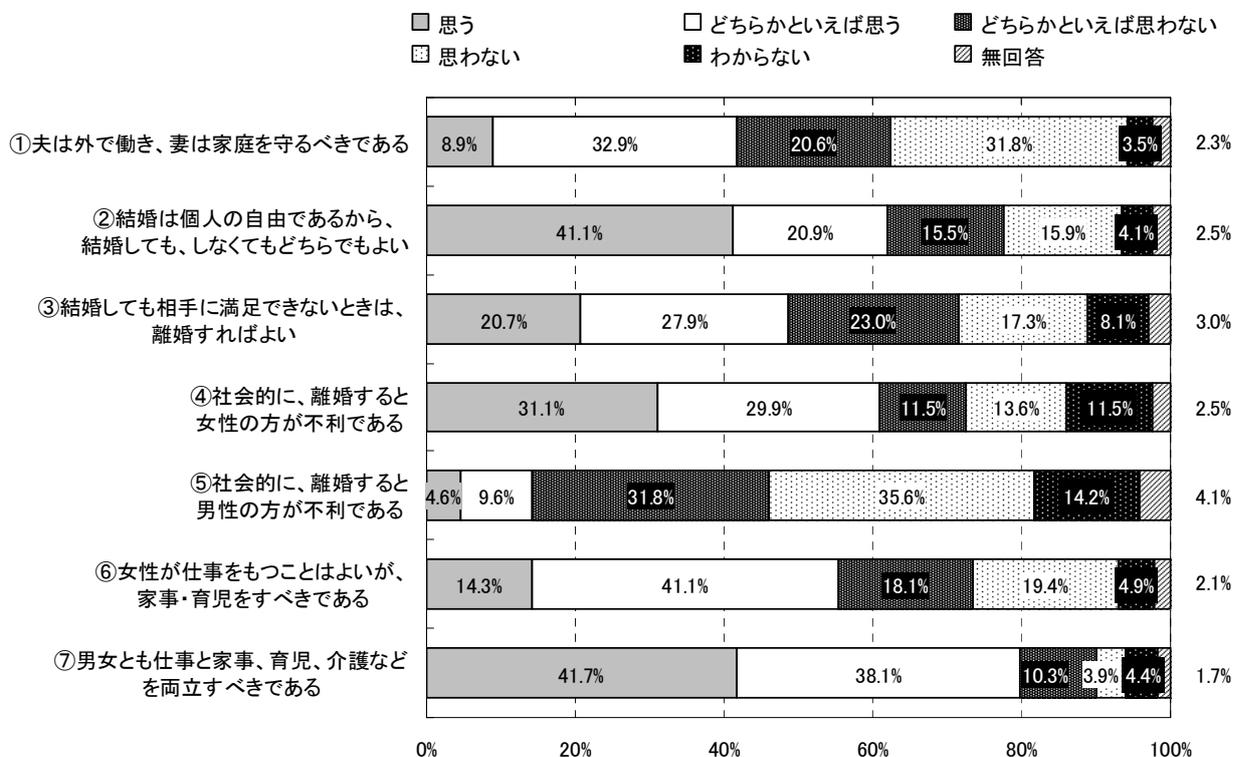
問7. 性別役割分担意識について

「結婚」や「家庭」についてどのように考えていますか。
 (各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである
- ②結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい
- ③結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい
- ④社会的に、離婚すると女性の方が不利である
- ⑤社会的に、離婚すると男性の方が不利である
- ⑥女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をすべきである
- ⑦男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである

<選択肢>

思う	どちらかといえば思う	わからない
どちらかといえば思わない	思わない	



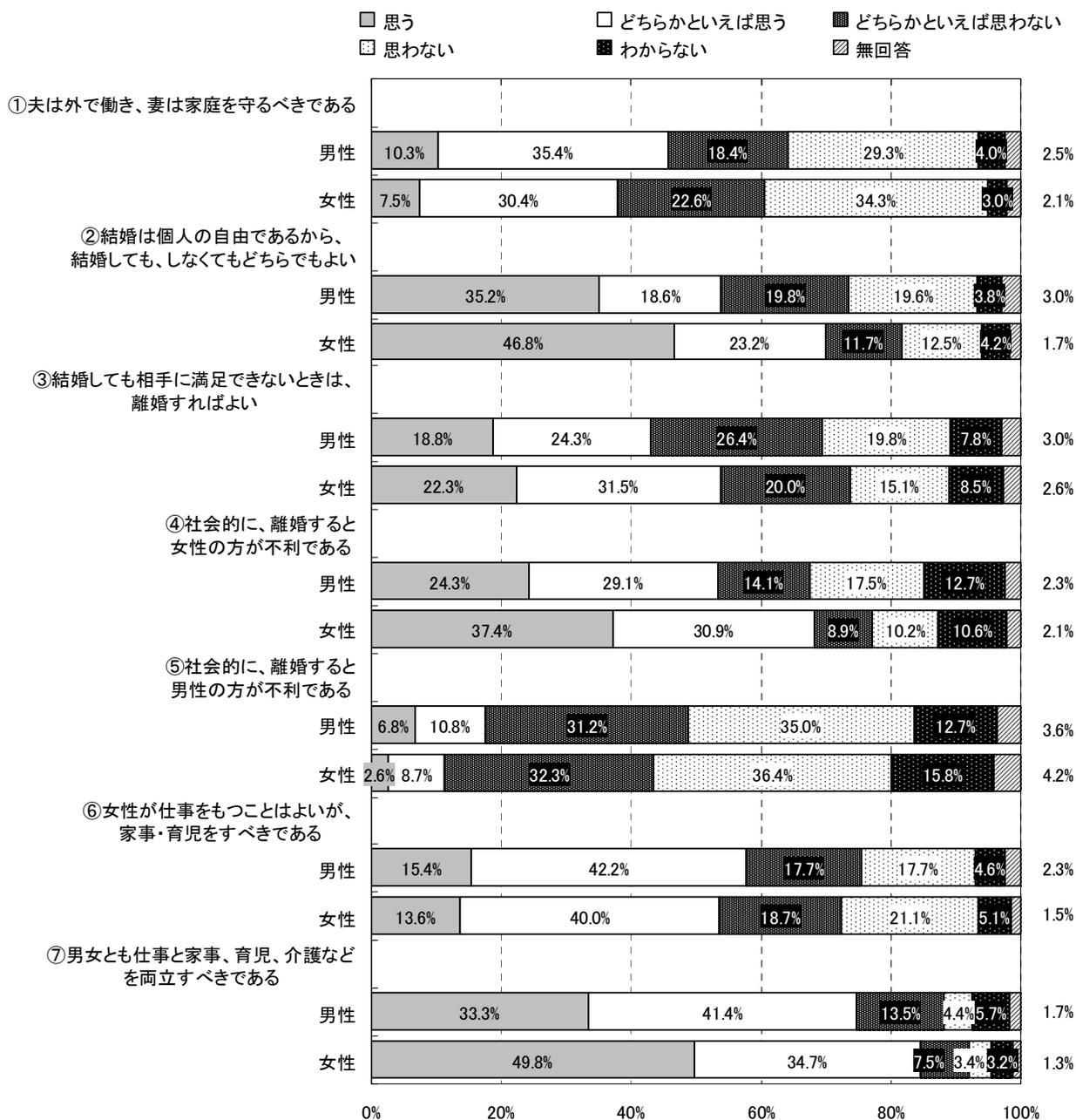
結婚や家庭についての考え方の項目で思う割合(「思う」と「どちらかといえば思う」の計)にみると、「男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである」が79.8%と最も高く、次いで「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい」(62.0%)、「社会的に、離婚すると女性の方が不利である」(61.0%)の順となっている。

思わない割合(「どちらかといえば思わない」と「思わない」の計)にみると、「社会的に、離婚すると男性の方が不利である」が67.4%と最も高くなっている。

また、「結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい」は、思う割合(48.6%)が思わない割合(40.3%)を8.3ポイント上回っている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は思わない割合(52.4%)が思う割合(41.8%)を10.6ポイント上回っている。

○性別

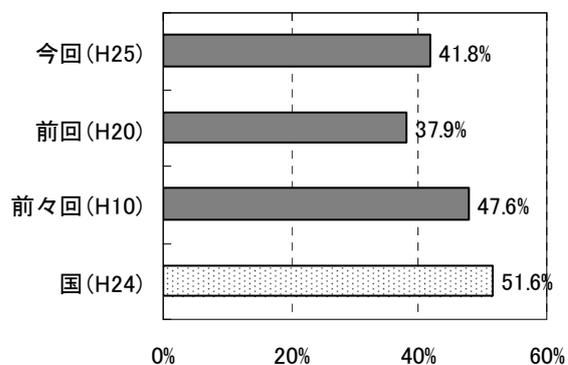


男女ともに「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う割合より思わない割合が高くなっている。

また、思う割合で「女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をすべきである」は男性（57.6%）の回答の割合が女性（53.6%）よりやや上回り、「男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである」は女性（84.5%）の回答の割合が男性（74.7%）より9.8ポイント上回っている。

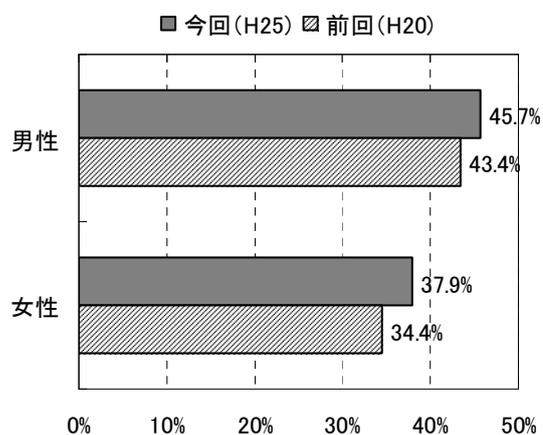
**<固定的性別役割分担意識「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う割合
前回調査、国との比較>**

今回の調査結果は、前回（H20）より高く、前々回（H10）より低くなっている。
平成24年度に実施された国の調査では51.6%となっている。



性別にみると、男女ともに今回より前回の割合が低くなっている。

また、女性より男性が賛成と思う割合が高く、今回は7.8ポイント、前回は9.0ポイント男性が女性より高くなっている。

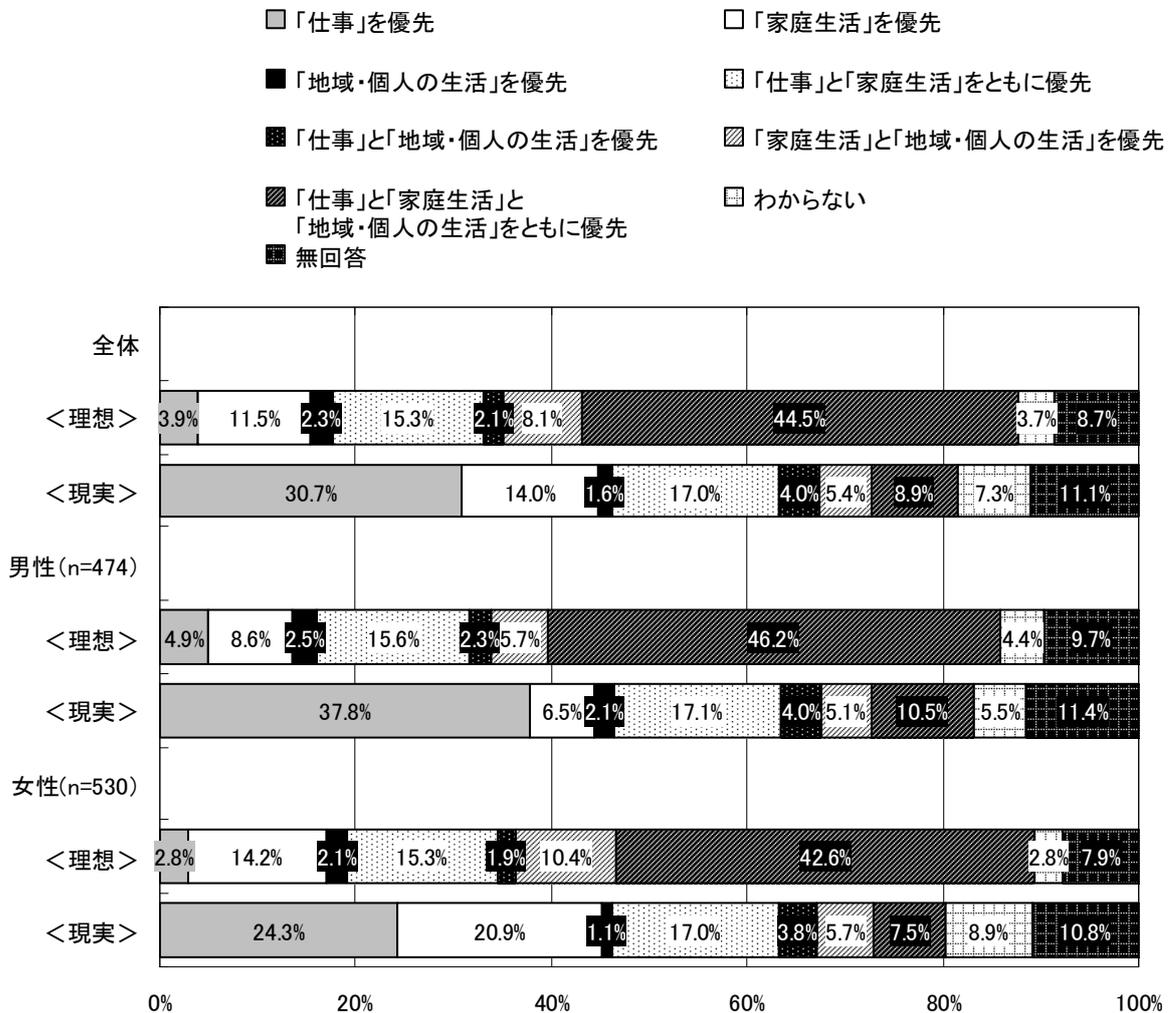


問8. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の最も優先したいこと、最も優先していることはどれですか。

（理想と現実について、あてはまる数字に1つだけ○印）

- ①「仕事」を優先
- ②「家庭生活」を優先
- ③「地域・個人の生活」を優先
- ④「仕事」と「家庭生活」とともに優先
- ⑤「仕事」と「地域・個人の生活」とともに優先
- ⑥「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先
- ⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先
- ⑧わからない



仕事と生活の調和について、最も優先したい理想としては「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」(44.5%)の割合が高く、現実では「『仕事』を優先」(30.7%)の割合が高くなっている。

性別にみると、男女ともに理想は「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」の割合が最も高く、現実には「『仕事』を優先」が最も高くなっている。回答に差がみられたのは、現実の「『家庭生活』を優先」で、女性（20.9%）が男性（6.5%）より14.4ポイント上回っている。

○年齢別



理想はいずれの年齢層も「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」の割合が最も高くなっている。2位は、40歳代以外の年齢層で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」で、40歳代は「『家庭生活』を優先」となっている。

現実には、70歳以上以外は「『仕事』を優先」の割合が最も高く、70歳以上は無回答が25.4%と最も高い。2位は30歳代と50歳代、60歳代が「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」となり、20歳代と40歳代は「『家庭生活』を優先」となっている。

問 10. 家事について

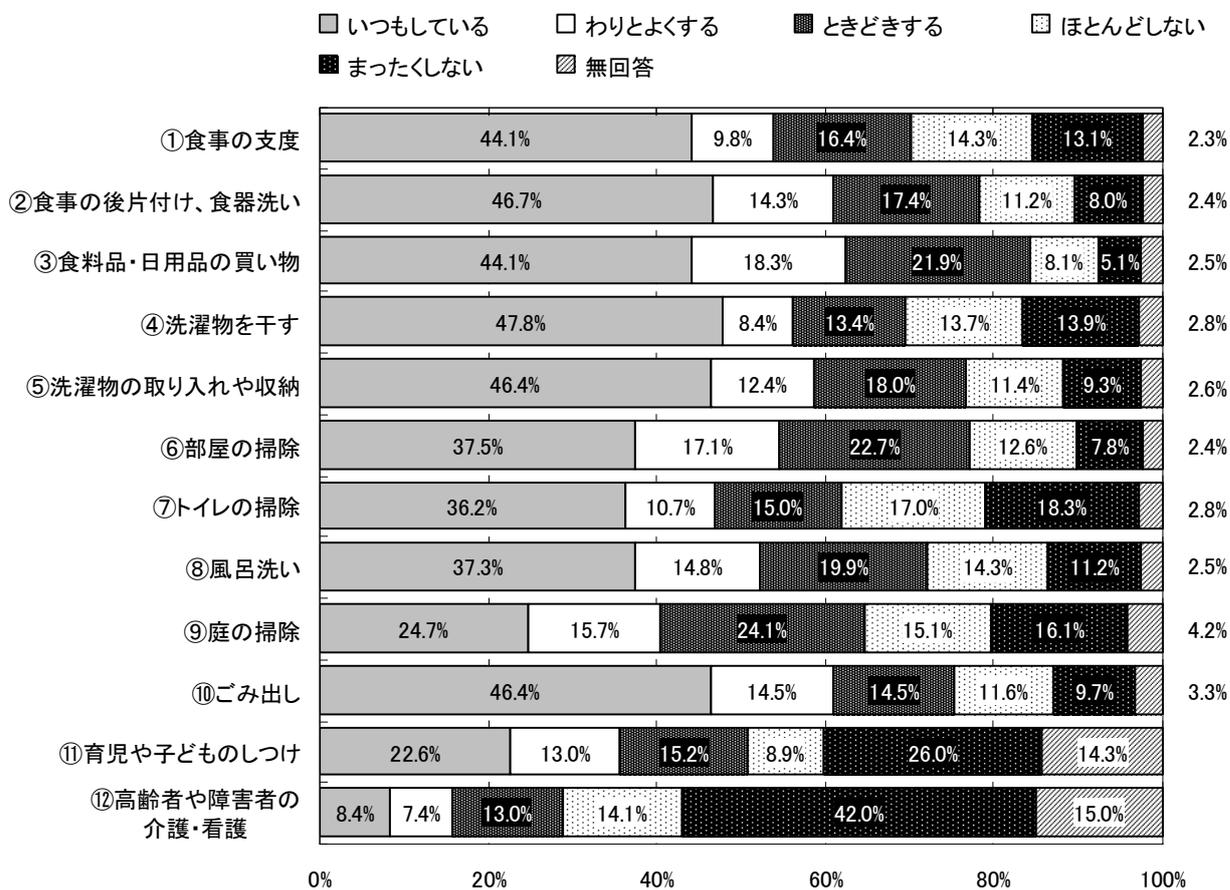
家事についてどのようなことをしていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- | | |
|--------------|----------------|
| ①食事の支度 | ②食事の後片付け、食器洗い |
| ③食料品・日用品の買い物 | ④洗濯物を干す |
| ⑤洗濯物の取り入れや収納 | ⑥部屋の掃除 |
| ⑦トイレの掃除 | ⑧風呂洗い |
| ⑨庭の掃除 | ⑩ごみ出し |
| ⑪育児や子どものしつけ | ⑫高齢者や障害者の介護・看護 |

<選択肢>

いつもしている	わりとよくする	ときどきする
ほとんどしない	まったくしない	



家事については、「よくしている」割合（「いつもしている」と「わりとよくする」の計）は「食料品・日用品の買い物」が62.4%と最も高く、次いで「食事の後片付け、食器洗い」（61.0%）、「ごみ出し」（60.9%）の順となっている。「育児や子どものしつけ」と「高齢者や障害者の介護・看護」は対象者が限定されるため、「まったくしない」が「いつもしている」の回答の割合を上回っている。

○性別・年齢別表

		いつもしている	わりとよくする	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答			いつもしている	わりとよくする	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答				
① 食事の支度	男性・年齢別	20～29歳	9.1	12.1	36.4	15.2	27.3	0.0	⑦ トイレの掃除	男性・年齢別	20～29歳	6.1	15.2	24.2	27.3	27.3	0.0		
		30～39歳	3.1	16.9	24.6	30.8	24.6	0.0			30～39歳	3.1	6.2	20.0	41.5	29.2	0.0		
		40～49歳	8.7	11.6	27.5	20.3	29.0	2.9			40～49歳	10.1	5.8	13.0	31.9	36.2	2.9		
		50～59歳	5.7	11.5	27.6	31.0	23.0	1.1			50～59歳	10.3	4.6	21.8	33.3	28.7	1.1		
		60～69歳	10.8	9.0	26.1	29.7	23.4	0.9			60～69歳	8.1	9.0	18.9	29.7	32.4	1.8		
		70歳以上	13.9	10.2	19.4	25.0	24.1	7.4			70歳以上	13.9	5.6	13.0	20.4	38.9	8.3		
		女性・年齢別	20～29歳	32.8	14.9	26.9	14.9	10.4			0.0	女性・年齢別	20～29歳	28.4	9.0	19.4	20.9	22.4	0.0
	30～39歳	84.1	8.0	3.4	3.4	1.1	0.0	30～39歳		63.6	12.5	12.5	8.0	3.4	0.0				
	40～49歳	81.9	6.0	10.8	0.0	0.0	1.2	40～49歳		60.2	21.7	12.0	3.6	1.2	1.2				
	50～59歳	84.0	7.0	6.0	2.0	1.0	0.0	50～59歳		76.0	12.0	9.0	2.0	1.0	0.0				
	60～69歳	84.5	10.0	1.8	1.8	0.9	0.9	60～69歳		70.9	12.7	11.8	1.8	1.8	0.9				
	70歳以上	73.2	4.9	6.1	1.2	6.1	8.5	70歳以上		50.0	13.4	13.4	2.4	7.3	13.4				
	② 食事の後片付け、食器洗い	男性・年齢別	20～29歳	12.1	27.3	30.3	18.2	12.1		0.0	⑧ 風呂洗い	男性・年齢別	20～29歳	15.2	15.2	21.2	27.3	21.2	0.0
			30～39歳	13.8	20.0	36.9	13.8	15.4		0.0			30～39歳	7.7	27.7	26.2	24.6	13.8	0.0
40～49歳			13.0	15.9	24.6	24.6	18.8	2.9	40～49歳	13.0			11.6	33.3	15.9	23.2	2.9		
50～59歳			10.3	12.6	36.8	24.1	14.9	1.1	50～59歳	14.9			10.3	27.6	26.4	19.5	1.1		
60～69歳			15.3	17.1	25.2	22.5	18.9	0.9	60～69歳	18.0			12.6	30.6	21.6	16.2	0.9		
70歳以上			16.7	17.6	22.2	23.1	13.0	7.4	70歳以上	23.1			13.9	16.7	20.4	19.4	6.5		
女性・年齢別			20～29歳	37.3	20.9	32.8	7.5	1.5	0.0	女性・年齢別			20～29歳	19.4	19.4	29.9	17.9	11.9	1.5
30～39歳		84.1	10.2	4.5	1.1	0.0	0.0	30～39歳	58.0	17.0		14.8	9.1	1.1	0.0				
40～49歳		79.5	14.5	4.8	0.0	0.0	1.2	40～49歳	57.8	14.5		16.9	7.2	2.4	1.2				
50～59歳		88.0	9.0	2.0	0.0	1.0	0.0	50～59歳	67.0	18.0		11.0	3.0	1.0	0.0				
60～69歳		83.6	11.8	1.8	0.9	0.9	0.9	60～69歳	71.8	10.9		10.0	4.5	0.9	1.8				
70歳以上		70.7	6.1	7.3	2.4	3.7	9.8	70歳以上	46.3	11.0		11.0	6.1	14.6	11.0				
③ 食料品・日用品の買い物		男性・年齢別	20～29歳	12.1	27.3	42.4	6.1	12.1	0.0	⑨ 庭の掃除		男性・年齢別	20～29歳	3.0	15.2	18.2	12.1	48.5	3.0
			30～39歳	7.7	24.6	38.5	16.9	12.3	0.0				30～39歳	4.6	10.8	20.0	29.2	35.4	0.0
	40～49歳		11.6	18.8	40.6	14.5	11.6	2.9	40～49歳		11.6		14.5	27.5	27.5	15.9	2.9		
	50～59歳		10.3	20.7	46.0	14.9	6.9	1.1	50～59歳		19.5		18.4	24.1	19.5	17.2	1.1		
	60～69歳		12.6	25.2	34.2	18.9	7.2	1.8	60～69歳		6.3		24.3	30.6	18.0	18.0	2.7		
	70歳以上		25.0	26.9	23.1	10.2	8.3	6.5	70歳以上		18.5		23.1	26.9	9.3	12.0	10.2		
	女性・年齢別		20～29歳	34.3	22.4	29.9	10.4	3.0	0.0		女性・年齢別		20～29歳	11.9	1.5	9.0	28.4	47.8	1.5
	30～39歳	83.0	8.0	6.8	1.1	1.1	0.0	30～39歳	26.1		14.8	22.7	17.0	14.8	4.5				
	40～49歳	78.3	15.7	4.8	0.0	0.0	1.2	40～49歳	32.5		9.6	37.3	12.0	4.8	3.6				
	50～59歳	80.0	14.0	6.0	0.0	0.0	0.0	50～59歳	46.0		17.0	27.0	7.0	3.0	0.0				
	60～69歳	80.9	9.1	5.5	2.7	0.0	1.8	60～69歳	52.7		13.6	19.1	6.4	3.6	4.5				
	70歳以上	56.1	14.6	7.3	3.7	7.3	11.0	70歳以上	36.6		15.9	19.5	6.1	9.8	12.2				
	④ 洗濯物を干す	男性・年齢別	20～29歳	18.2	15.2	24.2	15.2	27.3	0.0		⑩ ごみ出し	男性・年齢別	20～29歳	18.2	24.2	21.2	9.1	27.3	0.0
			30～39歳	9.2	13.8	33.8	18.5	24.6	0.0				30～39歳	32.3	24.6	18.5	9.2	15.4	0.0
40～49歳			14.5	5.8	24.6	23.2	29.0	2.9	40～49歳	30.4			24.6	8.7	15.9	17.4	2.9		
50～59歳			13.8	9.2	17.2	32.2	26.4	1.1	50～59歳	37.9			10.3	24.1	18.4	8.0	1.1		
60～69歳			14.4	12.6	15.3	27.0	29.7	0.9	60～69歳	27.0			18.9	24.3	14.4	12.6	2.7		
70歳以上			18.5	7.4	23.1	19.4	23.1	8.3	70歳以上	38.9			16.7	19.4	7.4	9.3	8.3		
女性・年齢別			20～29歳	34.3	14.9	22.4	19.4	9.0	0.0	女性・年齢別			20～29歳	23.9	13.4	16.4	23.9	22.4	0.0
30～39歳		81.8	6.8	4.5	5.7	1.1	0.0	30～39歳	48.9	13.6		18.2	14.8	4.5	0.0				
40～49歳		84.3	9.6	2.4	2.4	0.0	1.2	40～49歳	62.7	13.3		8.4	12.0	2.4	1.2				
50～59歳		91.0	4.0	3.0	1.0	1.0	0.0	50～59歳	74.0	9.0		5.0	8.0	3.0	1.0				
60～69歳		89.1	3.6	0.9	2.7	1.8	1.8	60～69歳	76.4	10.0		6.4	3.6	1.8	1.8				
70歳以上		69.5	4.9	2.4	3.7	6.1	13.4	70歳以上	54.9	4.9		7.3	4.9	12.2	15.9				
⑤ 洗濯物の取り入れや収納		男性・年齢別	20～29歳	18.2	15.2	30.3	24.2	12.1	0.0	⑪ 育児や子どものしつけ		男性・年齢別	20～29歳	0.0	3.0	15.2	0.0	72.7	9.1
			30～39歳	6.2	26.2	33.8	16.9	16.9	0.0				30～39歳	3.1	29.2	26.2	4.6	26.2	10.8
	40～49歳		11.6	8.7	31.9	26.1	20.3	1.4	40～49歳		4.3		21.7	46.4	5.8	17.4	4.3		
	50～59歳		12.6	11.5	32.2	23.0	19.5	1.1	50～59歳		3.4		16.1	34.5	19.5	18.4	8.0		
	60～69歳		14.4	15.3	27.9	18.9	22.5	0.9	60～69歳		1.8		12.6	21.6	20.7	28.8	14.4		
	70歳以上		19.4	13.9	26.9	17.6	14.8	7.4	70歳以上		2.8		8.3	13.0	15.7	30.6	29.6		
	女性・年齢別		20～29歳	38.8	22.4	25.4	10.4	3.0	0.0		女性・年齢別		20～29歳	13.4	9.0	1.5	1.5	65.7	9.0
	30～39歳	83.0	9.1	4.5	2.3	1.1	0.0	30～39歳	64.8		10.2	1.1	1.1	15.9	6.8				
	40～49歳	79.5	13.3	4.8	1.2	0.0	1.2	40～49歳	63.9		9.6	4.8	1.2	15.7	4.8				
	50～59歳	84.0	10.0	3.0	2.0	1.0	0.0	50～59歳	48.0		18.0	9.0	6.0	14.0	5.0				
	60～69歳	86.4	5.5	2.7	3.6	0.9	0.9	60～69歳	30.9		8.2	11.8	8.2	15.5	25.5				
	70歳以上	68.3	6.1	6.1	2.4	2.4	14.6	70歳以上	17.1		8.5	2.4	9.8	30.5	31.7				
	⑥ 部屋の掃除	男性・年齢別	20～29歳	15.2	24.2	39.4	12.1	9.1	0.0		⑫ 高齢者や障害者の介護・看護	男性・年齢別	20～29歳	3.0	3.0	15.2	0.0	69.7	9.1
			30～39歳	1.5	23.1	35.4	29.2	10.8	0.0				30～39歳	3.1	4.6	3.1	18.5	60.0	10.8
40～49歳			8.7	13.0	34.8	23.2	17.4	2.9	40～49歳	2.9			1.4	4.3	26.1	60.9	4.3		
50～59歳			9.2	12.6	39.1	21.8	16.1	1.1	50～59歳	2.3			11.5	28.7	21.8	26.4	9.2		
60～69歳			10.8	16.2	30.6	23.4	18.0	0.9	60～69歳	0.9			12.6	13.5	24.3	35.1	13.5		
70歳以上			17.6	11.1	28.7	19.4	15.7	7.4	70歳以上	5.6			8.3	12.0	13.0	32.4	28.7		
女性・年齢別			20～29歳	35.8	23.9	26.9	10.4	3.0	0.0	女性・年齢別			20～29歳	10.4	3.0	9.0	1.5	67.2	9.0
30～39歳		70.5	15.9	9.1	4.5	0.0	0.0	30～39歳	9.1	3.4		8.0	2.3	64.8	12.5				
40～49歳		56.6	24.1	14.5	3.6	0.0	1.2	40～49歳	8.4	8.4		10.8	18.1	45.8	8.4				
50～59歳		76.0	12.0	11.0	0.0	1.0	0.0	50～59歳	20.0	6.0		23.0	16.0	21.0	14.0				
60～69歳		71.8	17.3	6.4	2.7	0.9	0.9	60～69歳	19.1	10.9		11.8	10.0	28.2	20.0				
70歳以上		46.3	20.7	15.9	3.7	2.4	11.0	70歳以上	9.8	7.3		8.5	8.5	36.6	29.3				

「よくしている」割合は、いずれの項目も女性が高く、20 歳代は他の年齢層よりやや低くなっている。男性は、30 歳代以上で「ごみ出し」が4 割を超えている。

男性の「ときどきする」割合が高くみられる項目は、「食事の後片付け、食器洗い」(20～60 歳代)、「食料品・日用品の買い物」(20～60 歳代)、「洗濯物の取り入れや収納」(全年齢層)、「部屋の掃除」(全年齢層)、「庭の掃除」(40～70 歳以上)となっている。

「育児や子どものしつけ」の回答は、男性の60 歳代以上は「ほとんどしない」と「まったくしない」割合を合わせると約半数を占めている。

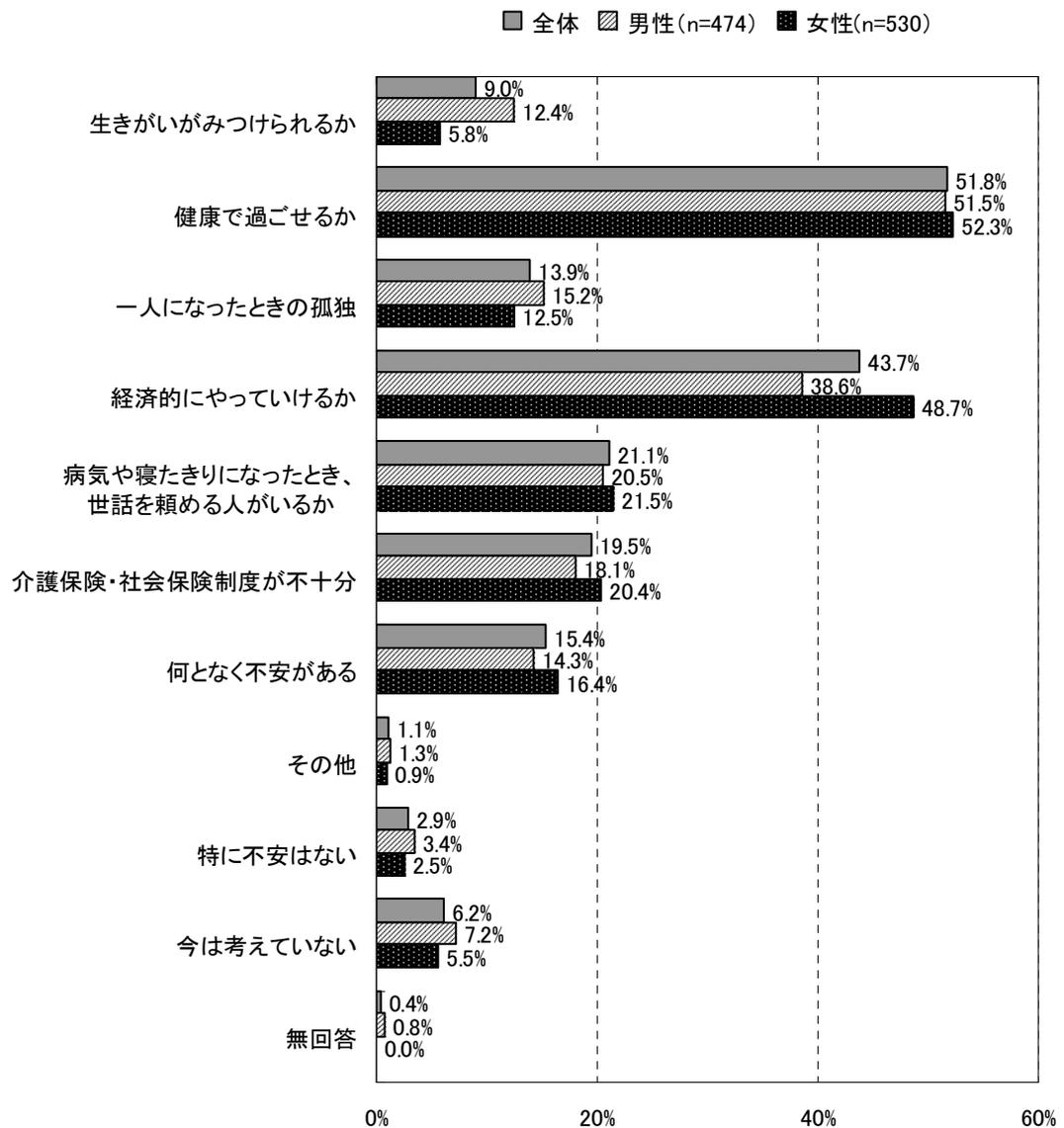
「高齢者や障害者の介護・看護」の回答について、「まったくしない」割合は20 歳代と30 歳代が6 割を超えており、40 歳代は、男性(60.9%)より女性(45.8%)が15.1ポイント高くなっている。

3. 高齢期について

問 11. 高齢期への不安

高齢期について特に不安に思うことはどのようなことですか。(2つまでに○印)

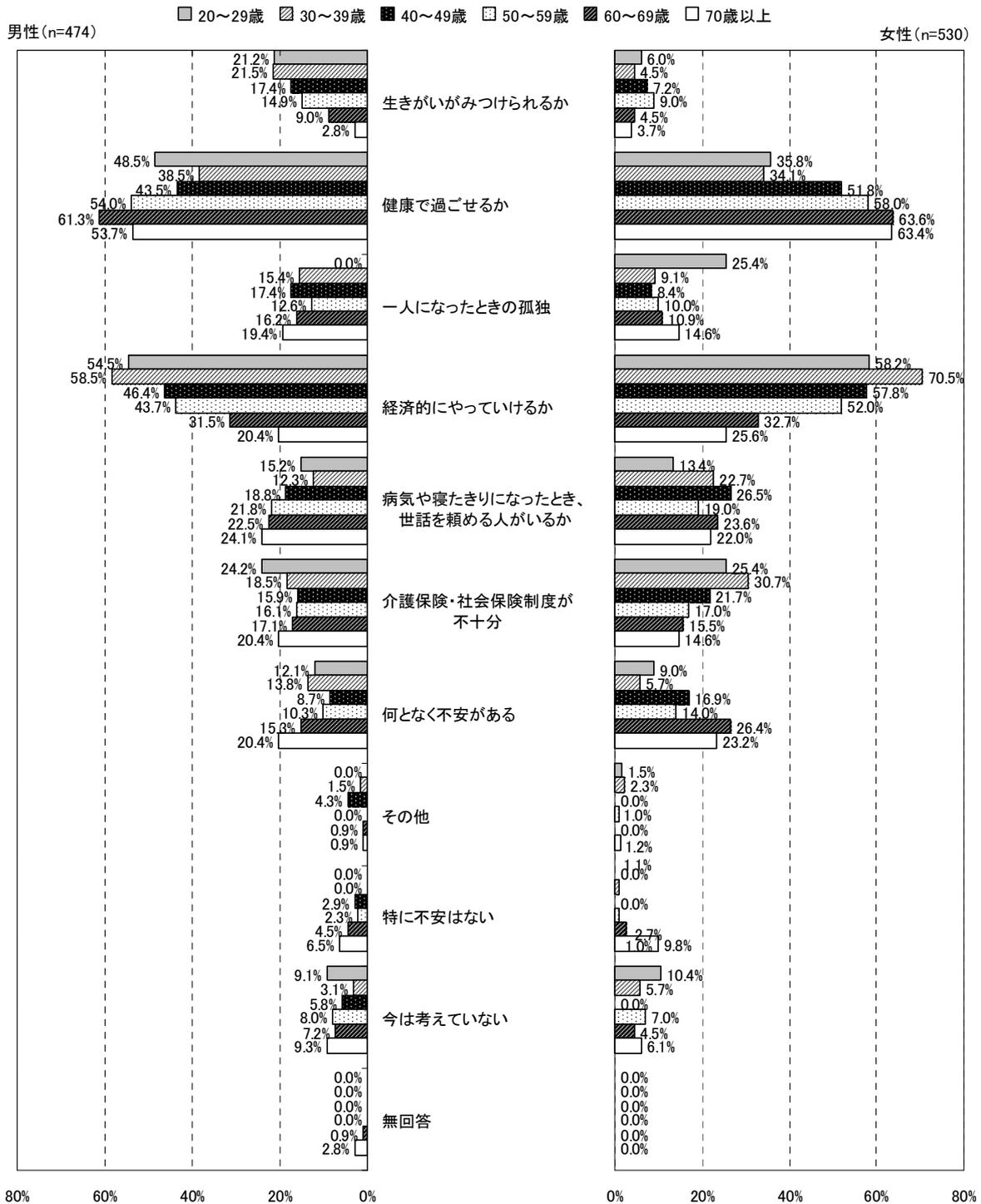
- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1. 生きがいを見つけられるか | 2. 健康で過ごせるか |
| 3. 一人になったときの孤独 | 4. 経済的にやっていけるか |
| 5. 病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか | |
| 6. 介護保険・社会保険制度が不十分 | |
| 7. 何となく不安がある | 8. その他 () |
| 9. 特に不安はない | 10. 今は考えていない |



高齢期への不安について、「健康で過ごせるか」の回答が51.8%と最も高く、次いで「経済的にやっていけるか」(43.7%)、「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」(21.1%)の順となっている。

性別にみると、女性より男性の回答の割合が上回っている項目は、「生きがいが見つけれられるか」と「一人になったときの孤独」となっている。

○性別・年齢別



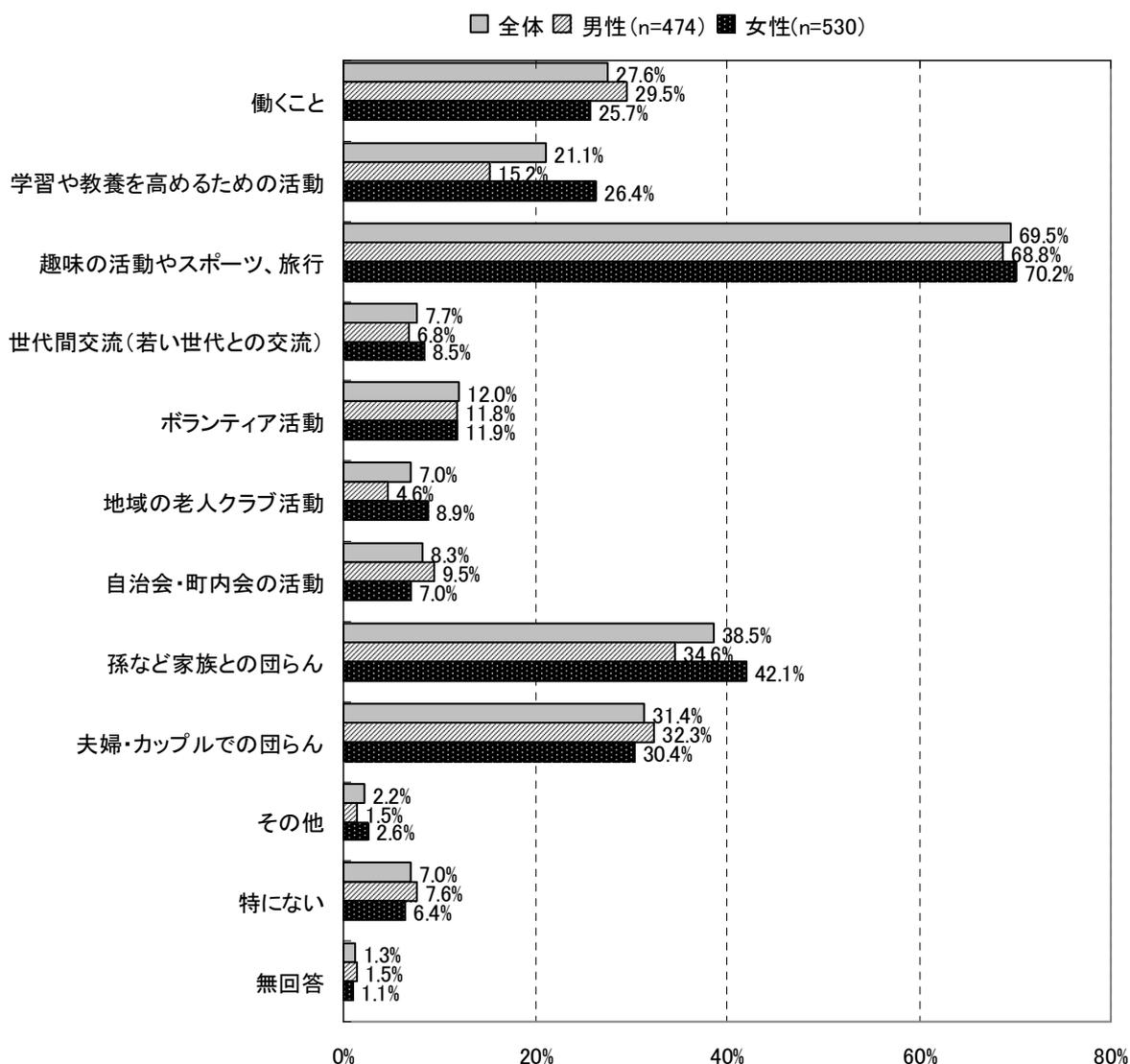
男女ともに 50 歳代以上は「健康で過ごせるか」の項目の割合が最も高く、40 歳代以下は「経済的にやっつけられるか」の割合が最も高くなっている。

「一人になったときの孤独」は女性の 20 歳代が 25.4%、「介護保険・社会保険制度が不十分」は女性の 30 歳代が 30.7%と他の年齢層より高くなっている。

問 12. 高齢期の過ごし方

高齢期をいきいきと送るためにやってみたいことはありますか。(高齢者の方は、現在行っていること) (あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 働くこと | 2. 学習や教養を高めるための活動 |
| 3. 趣味の活動やスポーツ、旅行 | 4. 世代間交流(若い世代との交流) |
| 5. ボランティア活動 | 6. 地域の老人クラブ活動 |
| 7. 自治会・町内会の活動 | 8. 孫など家族との団らん |
| 9. 夫婦・カップルでの団らん | 10. その他 () |
| 11. 特にない | |



高齢期の過ごし方として、「趣味の活動やスポーツ、旅行」が69.5%と最も割合が高く、次いで、「孫など家族との団らん」(38.5%)、「夫婦・カップルでの団らん」(31.4%)の順となっている。

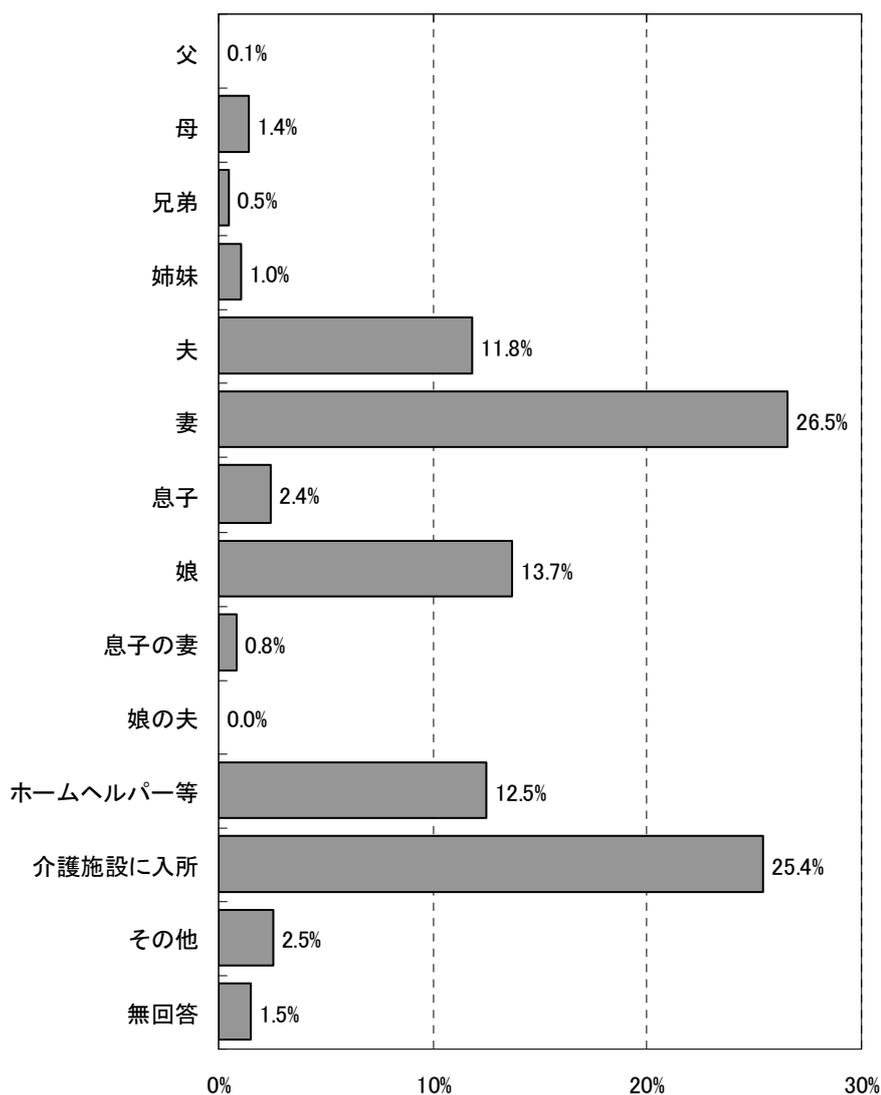
性別にみると、順位に大きな差はみられないが、「夫婦・カップルでの団らん」の回答は女性(30.4%)より男性(32.3%)がやや上回っている。「学習や教養を高めるための活動」の回答は男性(15.2%)より女性(26.4%)が11.2ポイント上回っている。

問 13. 介護してもらいたい人

もし、介護が必要になった場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。

(1つだけに○印)

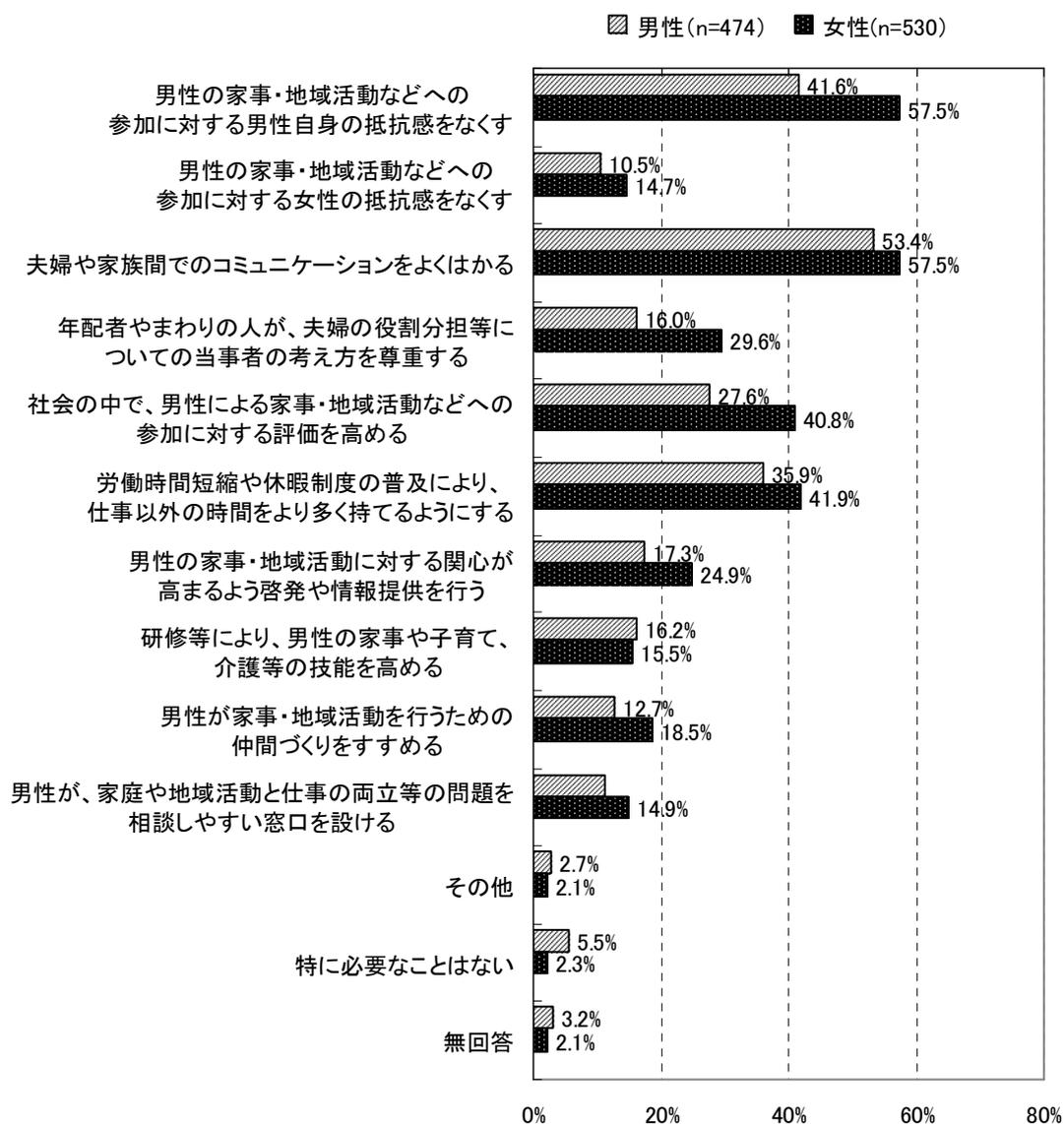
- | | | |
|--------------------------------|--------------|-------------|
| 1. 父 | 2. 母 | 3. 兄弟 |
| 4. 姉妹 | 5. 夫 | 6. 妻 |
| 7. 息子 | 8. 娘 | 9. 息子の妻 |
| 10. 娘の夫 | 11. ホームヘルパー等 | 12. 介護施設に入所 |
| 13. その他 () | | |



主に介護をしてもらう回答は、「妻」が26.5%と最も割合が高く、次いで「介護施設に入所」(25.4%)、「娘」(13.7%)の順となっている。

「夫」以外は親族の男性の割合が低くなっている。

○性別



「研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める」以外の項目は、男性より女性の割合が高くなっている。

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合は男女ともに5割を超えている。

問 15. 女性の出産への意思

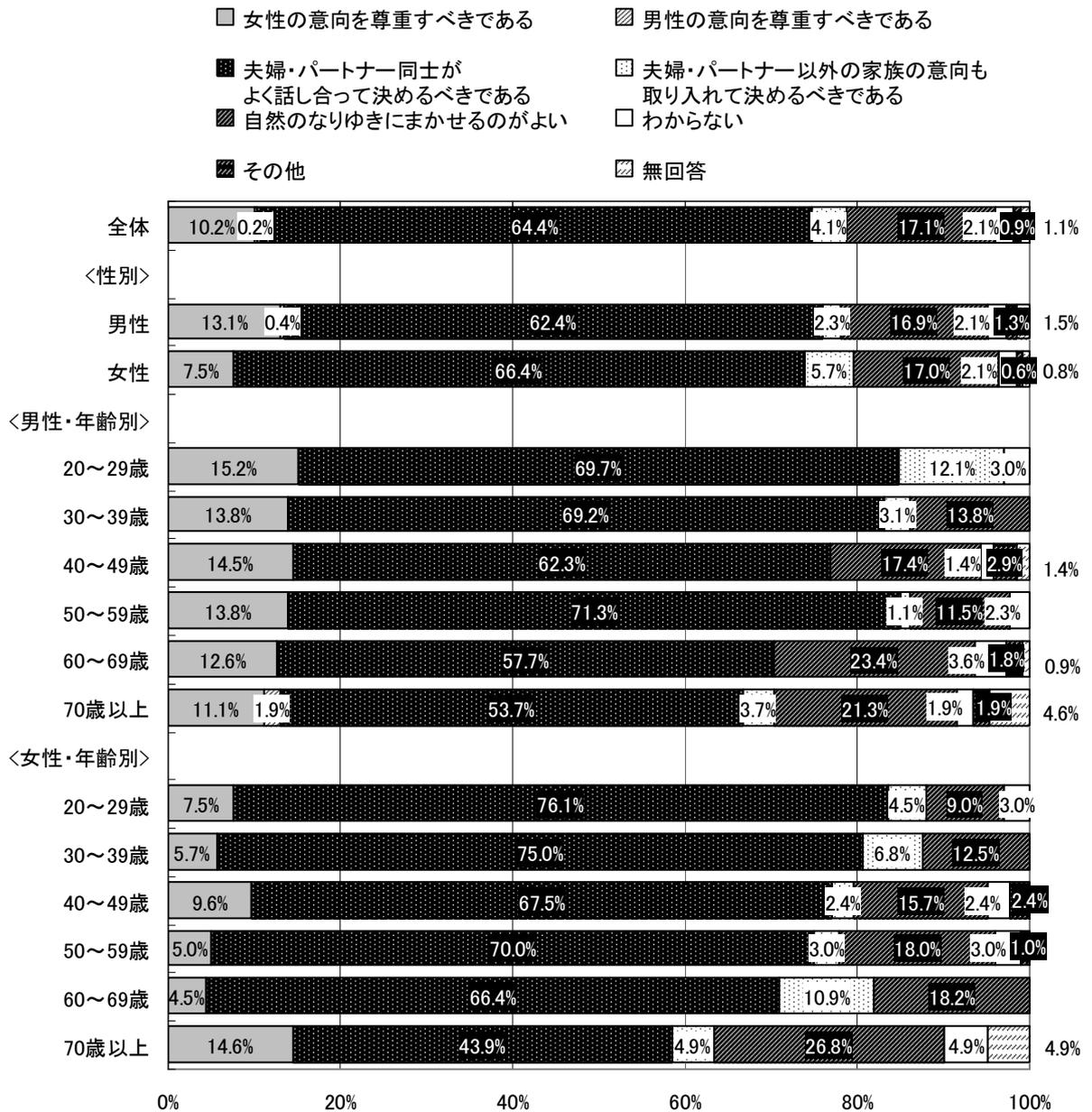
女性が子どもを産むことについて、どのように思いますか。(1つだけに○印)

1. 女性の意向を尊重すべきである 2. 男性の意向を尊重すべきである

3. 夫婦・パートナー同士がよく話し合っ決めてるべきである

4. 夫婦・パートナー以外の家族の意向も取り入れて決めてるべきである

5. 自然のなりゆきにまかせるのがよい 6. わからない 7. その他()



女性が子どもを産むことについて、「夫婦・パートナー同士がよく話し合っ決めてるべきである」が64.4%と最も割合が高く、次いで「自然のなりゆきにまかせるのがよい」(17.1%)、「女性の意向を尊重すべきである」(10.2%)の順となっている。

性別にみると、「女性の意向を尊重すべきである」の割合が女性(7.5%)より男性(13.1%)が5.6ポイント高くなっている。

性別・年齢別にみると、「自然のなりゆきにまかせるのがよい」の割合が26.8%と最も高くなっているのは、女性の70歳以上である。

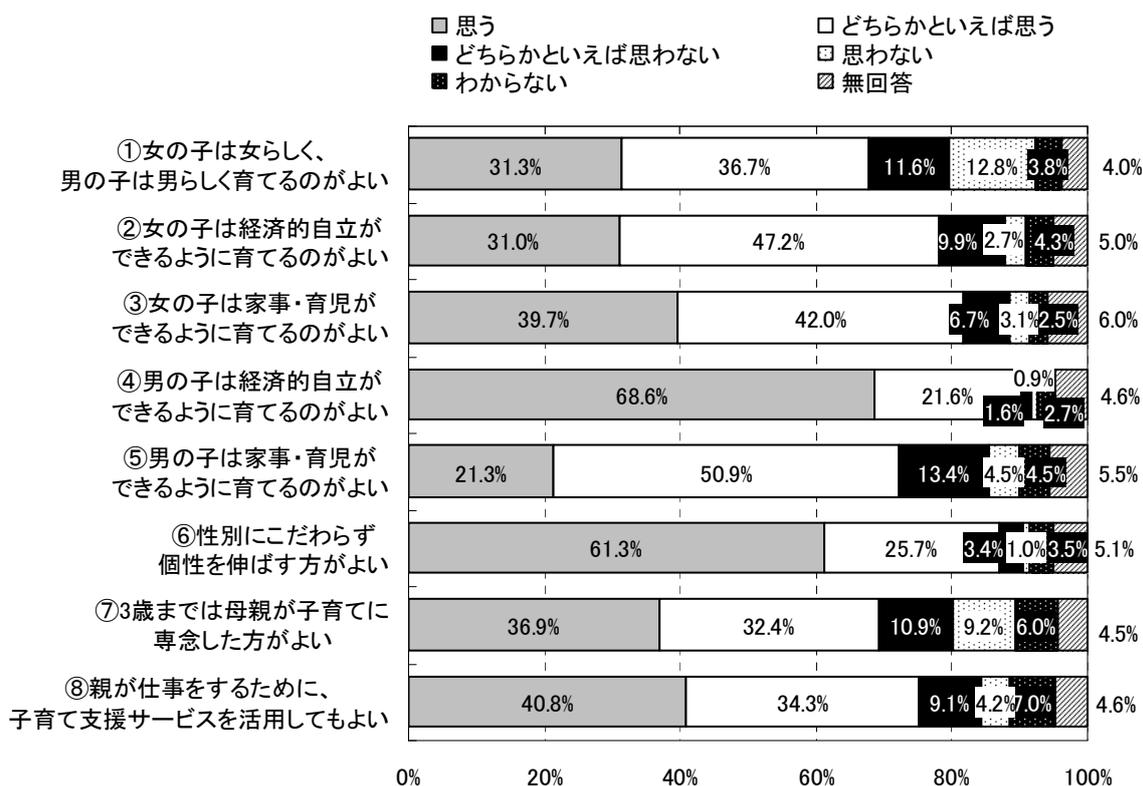
問 16. 子どもの育て方

子どもの育て方についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

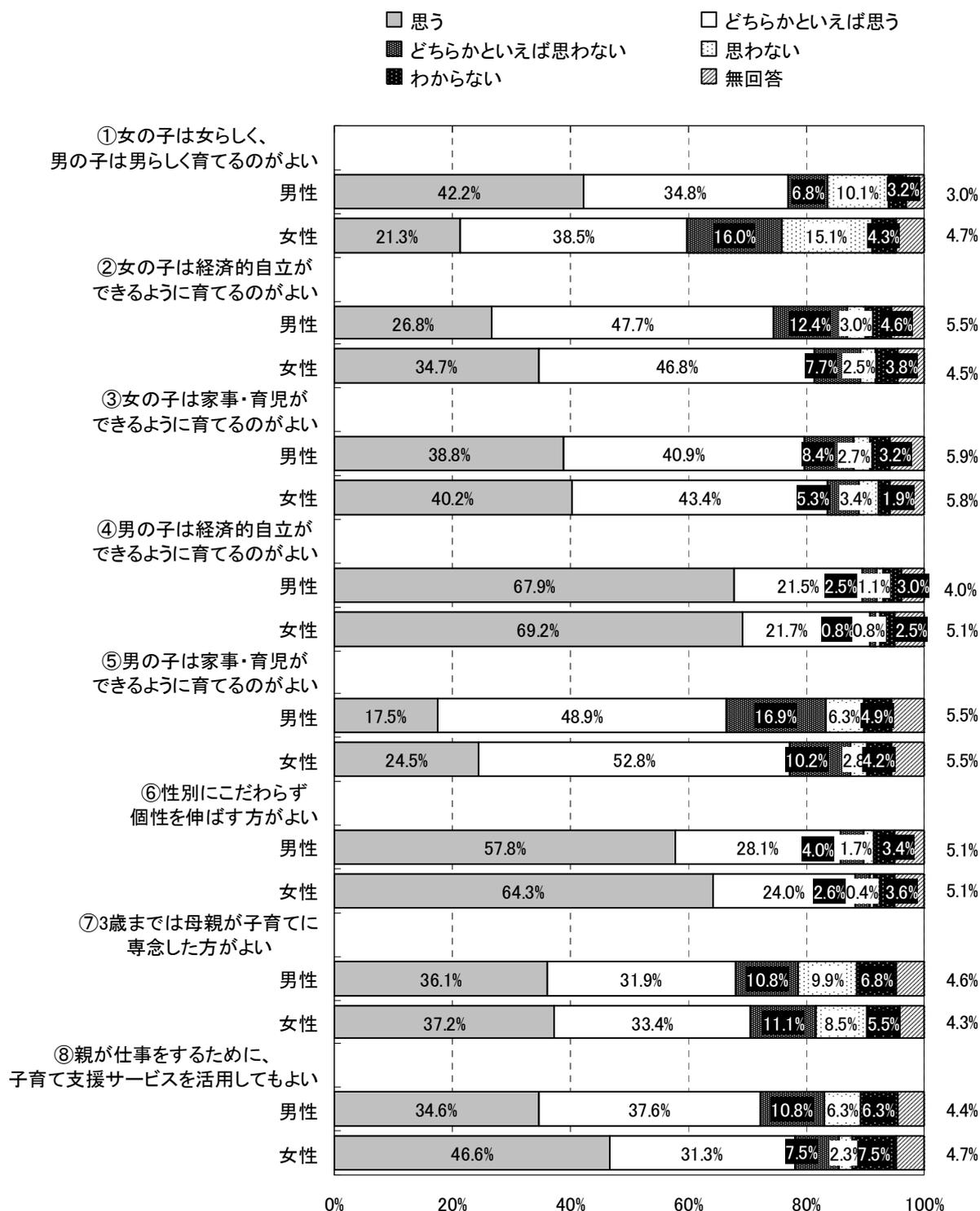
- ①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい
- ②女の子は経済的自立ができるように育てるのがよい
- ③女の子は家事・育児ができるように育てるのがよい
- ④男の子は経済的自立ができるように育てるのがよい
- ⑤男の子は家事・育児ができるように育てるのがよい
- ⑥性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい
- ⑦3歳までは母親が子育てに専念した方がよい
- ⑧親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい

	<選択肢>	
思う	どちらかといえば思う	
どちらかといえば思わない	思わない	わからない



子どもの育て方は、「男の子は経済的自立ができるように育てるのがよい」と思う割合（「思う」と「どちらかといえば思う」の計）が90.2%と最も高く、次いで「性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい」が87.0%となっている。「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」と思わない割合（「どちらかといえば思わない」と「思わない」の計）が24.4%と最も高くなっている。

○性別



「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」と思う割合は女性（59.8%）より男性（77.0%）が 17.2 ポイント上回っている。「男の子は家事・育児ができるように育てるのがよい」と思う割合は、男性（66.4%）より女性（77.3%）が 10.9 ポイント上回っている。

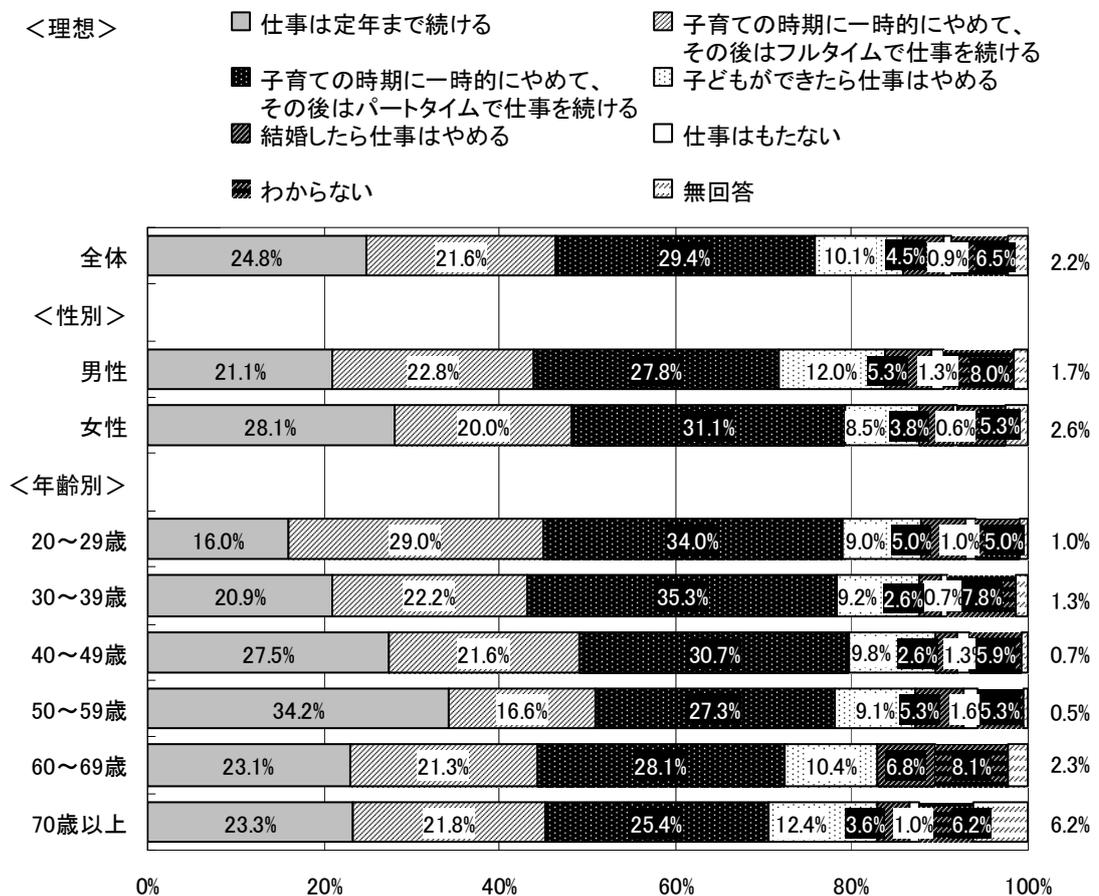
5. 就労について

問 17. 女性の職業意識

女性が職業をもつことについてどのように思いますか。女性の方は、ご自身について、男性の方は、あなたのパートナー（いない場合はいと仮定して）についてお答えください。
（理想と現実のそれぞれについて1つだけに○印）

(1) 理想

1. 仕事は定年まで続ける
2. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
3. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
4. 子どもができたら仕事はやめる
5. 結婚したら仕事はやめる
6. 仕事はもたない
7. わからない



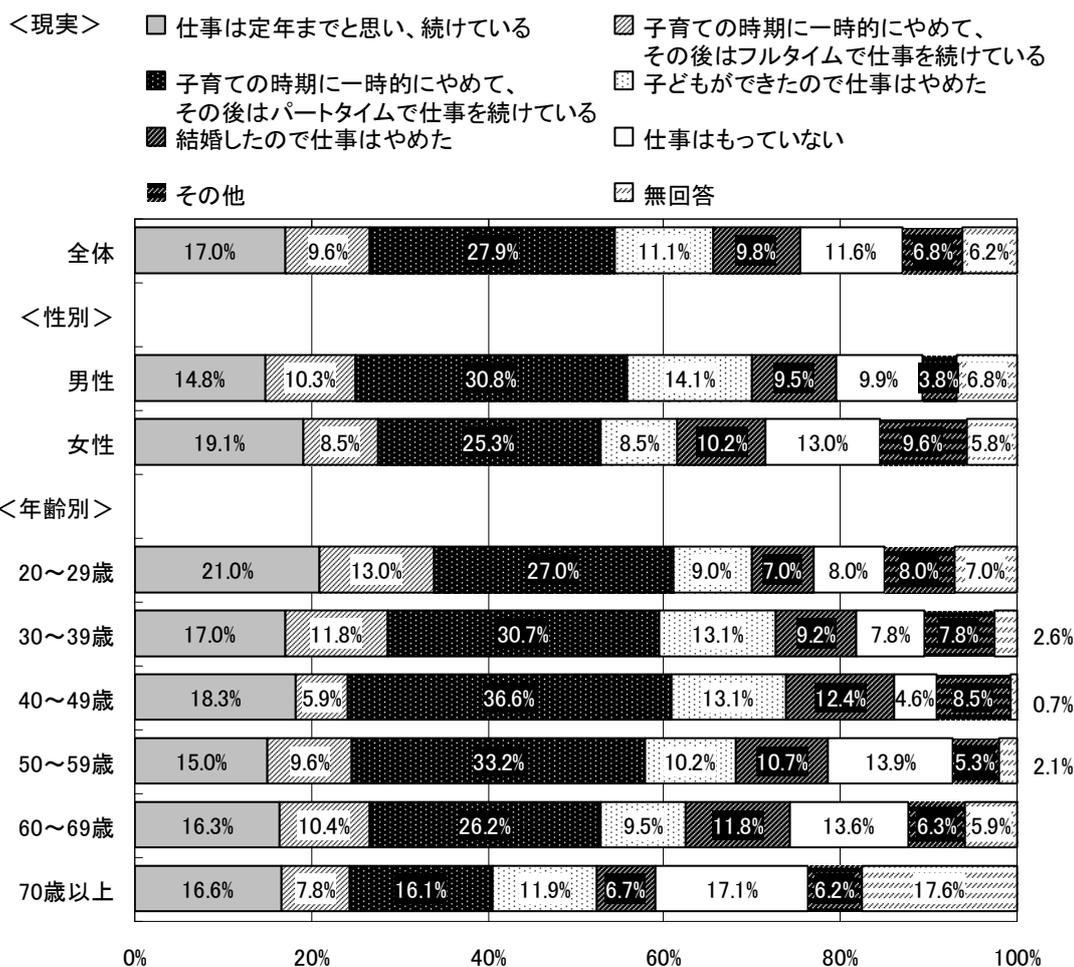
女性の職業を持つことへの理想は、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が29.4%と最も割合が高く、次いで「仕事は定年まで続ける」（24.8%）、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」（21.6%）の順となっている。

性別にみると、「仕事は定年まで続ける」と「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」の割合が男性より女性がやや高くなっている。

年齢別にみると、「仕事は定年まで続ける」は50歳代が34.2%と最も割合が高く、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」が30歳代が35.3%と最も高くなっている。

(2) 現実

1. 仕事は定年までと思い、続けている
2. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事をしている
3. 子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事をしている
4. 子どもができたので仕事はやめた
5. 結婚したので仕事はやめた
6. 仕事をもっていない
7. その他 ()



女性が仕事を持つことへの現実には、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事をしている」が27.9%と最も割合が高く、次いで「仕事は定年までと思い、続けている」(17.0%)、「仕事をもっていない」(11.6%)、「子どもができたので仕事はやめた」(11.1%)の順となっている。

性別にみると、男女ともに「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事をしている」の割合が最も高くなっている。

年齢別にみると、20歳代から60歳代は「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事をしている」の割合が最も高く、70歳以上は「仕事をもっていない」が最も高くなっている。

理想の回答は仕事を続けていく割合が高くなっているが、現実には、環境の変化により仕事をしていない回答の割合が高くなっている。

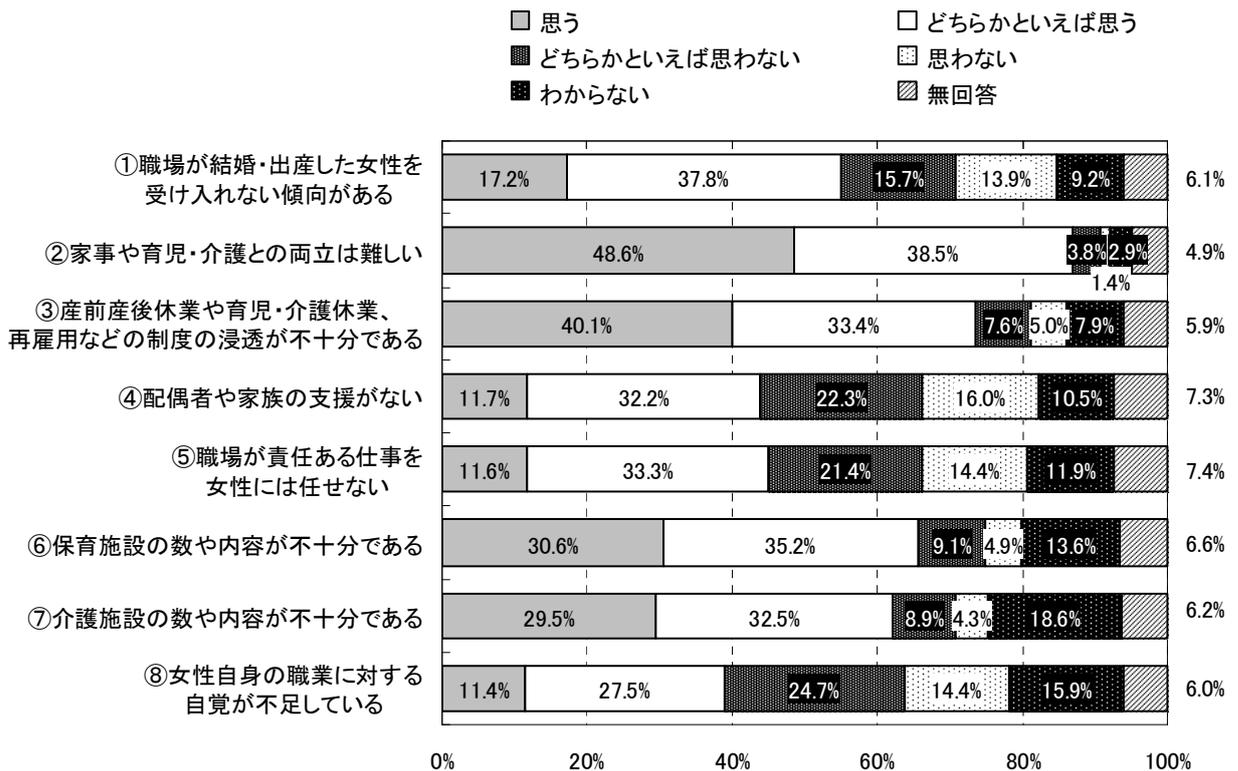
問 18. 女性が就業を継続していくことの問題

女性が職業をもち続けていく上で、どのようなことが問題になると思いますか。女性の方は、ご自身について、男性の方は、あなたのパートナー（いない場合はいと仮定して）についてお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ〇印）

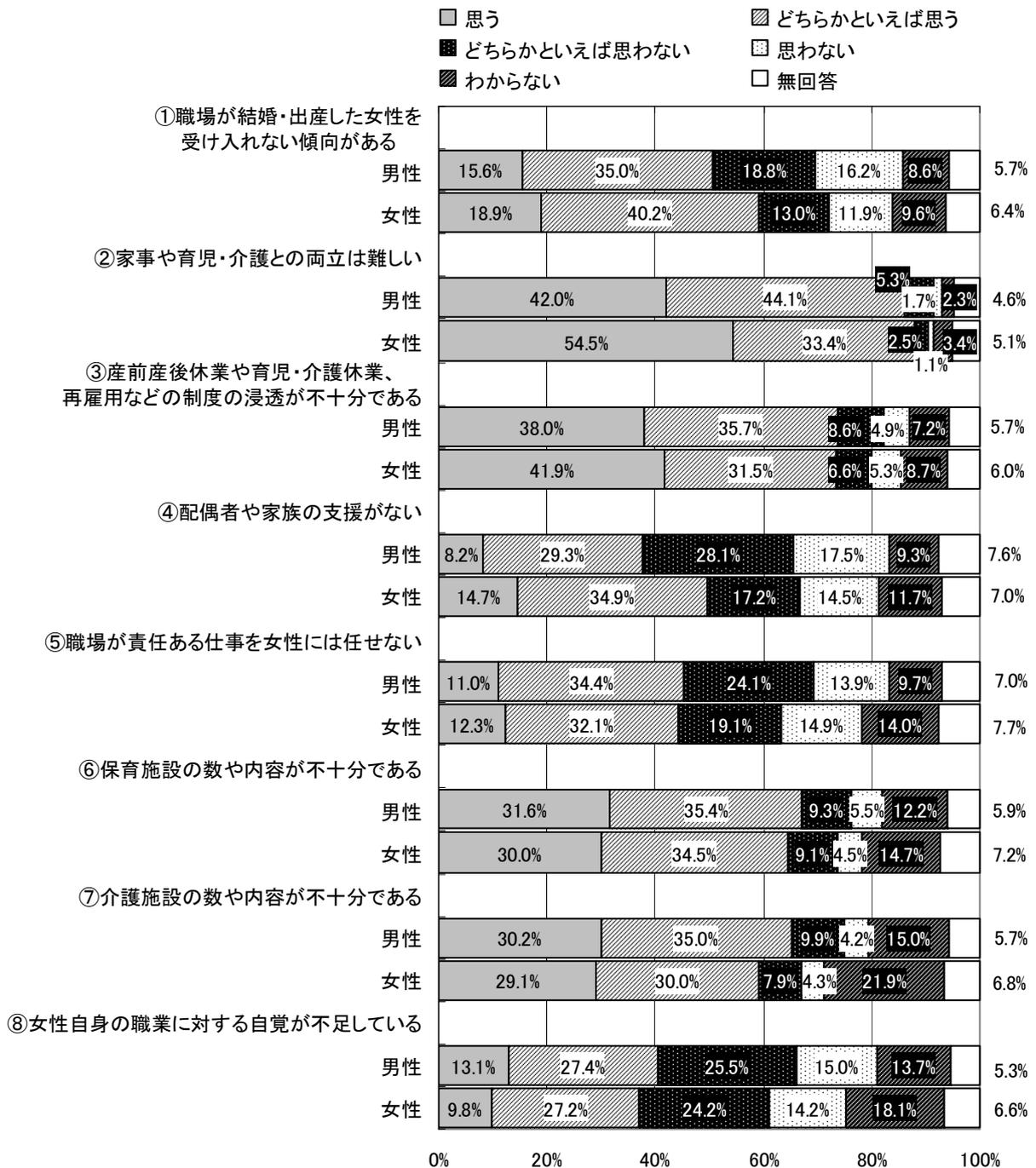
- ①職場が結婚・出産した女性を受け入れない傾向がある
- ②家事や育児・介護との両立は難しい
- ③産前産後休業や育児・介護休業、再雇用などの制度の浸透が不十分である
- ④配偶者や家族の支援がない
- ⑤職場が責任ある仕事を女性に任せない
- ⑥保育施設の数や内容が不十分である
- ⑦介護施設の数や内容が不十分である
- ⑧女性自身の職業に対する自覚が不足している

<選択肢>		
思う	どちらかといえば思う	
どちらかといえば思わない	思わない	わからない



女性の就業を継続していく上での問題は、「家事や育児・介護との両立は難しい」と思う割合（「思う」と「どちらかと思う」の計）が87.1%と最も高く、次いで「産前産後休業や育児・介護休業、再雇用などの制度の浸透が不十分である」（73.5%）、「保育施設の数や内容が不十分である」（65.8%）の順となっている。

○性別



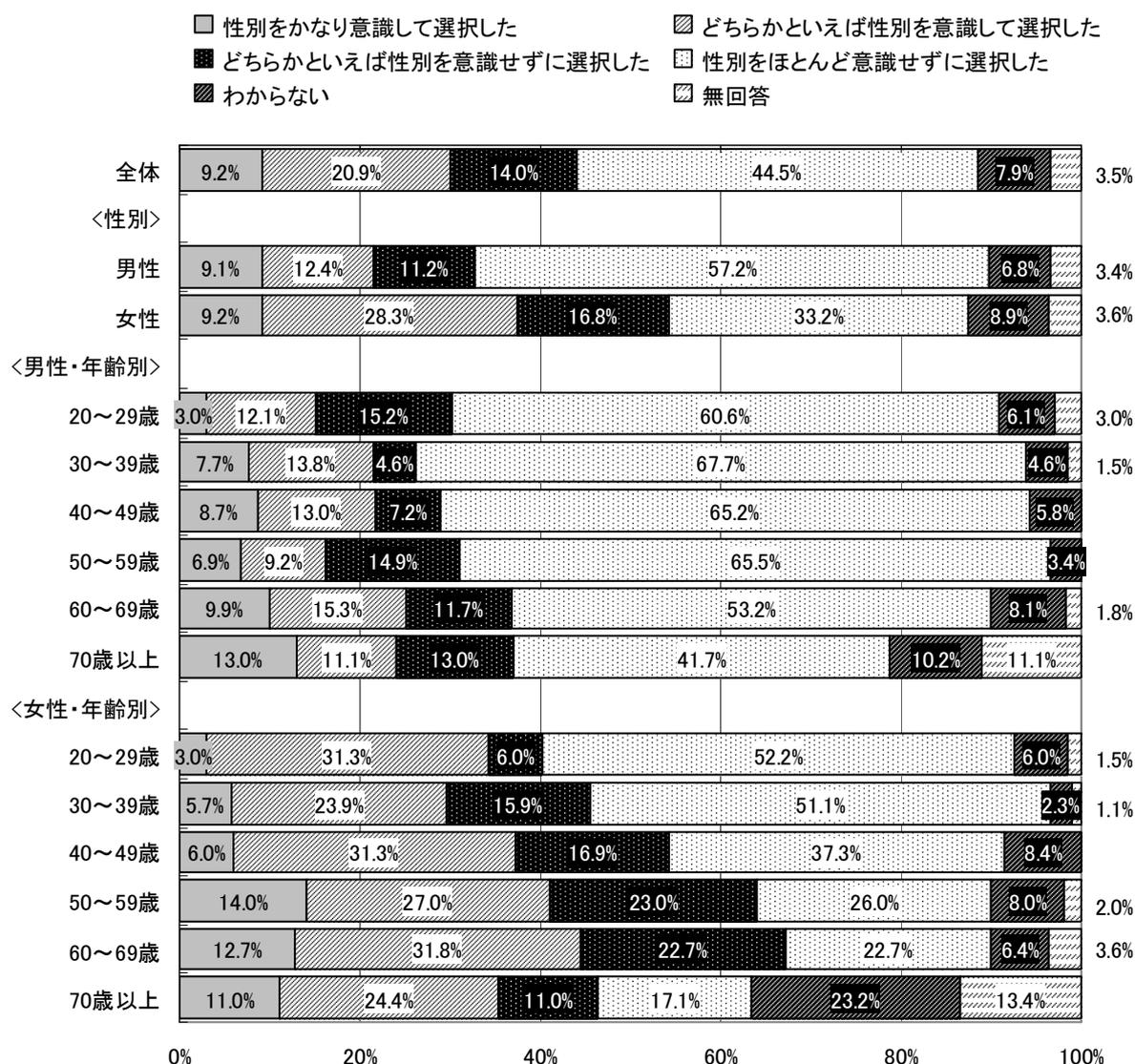
男女ともに「家事や育児・介護との両立は難しい」と思う割合が最も高く、次いで「産前産後休業や育児・介護休業、再雇用などの制度の浸透が不十分である」の順となっている。

「配偶者や家族の支援がない」と思う割合では、男性（37.5%）より女性（49.6%）が12.1ポイント上回っている。

問 19. 進学や就職への性別意識

進路や職業を選択する際に、あなた自身は性別を意識しましたか。(1つだけ○印)

1. 性別をかなり意識して選択した
2. どちらかといえば性別を意識して選択した
3. どちらかといえば性別を意識せずに選択した
4. 性別をほとんど(全く)意識せずに選択した
5. わからない



進路や就職を選択する際の性別の意識について、「性別を意識して選択した」割合（「性別をかなり意識して選択した」と「どちらかといえば性別を意識して選択した」の計）が30.1%、「性別を意識せずに選択した」割合（「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」と「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」の計）は58.5%となっている。

性別にみると、「性別を意識して選択した」割合は、男性（21.5%）より女性（37.5%）が16.0ポイント上回っている。

性別・年齢別にみると、「性別を意識せずに選択した」割合は、男性の20歳代から50歳代までが7割を超え、女性の20歳代から40歳代までは5割を超えている。「性別を意識して選択した」割合は、女性の60歳代が44.5%と最も高い。

問 20. 就労の性別による差

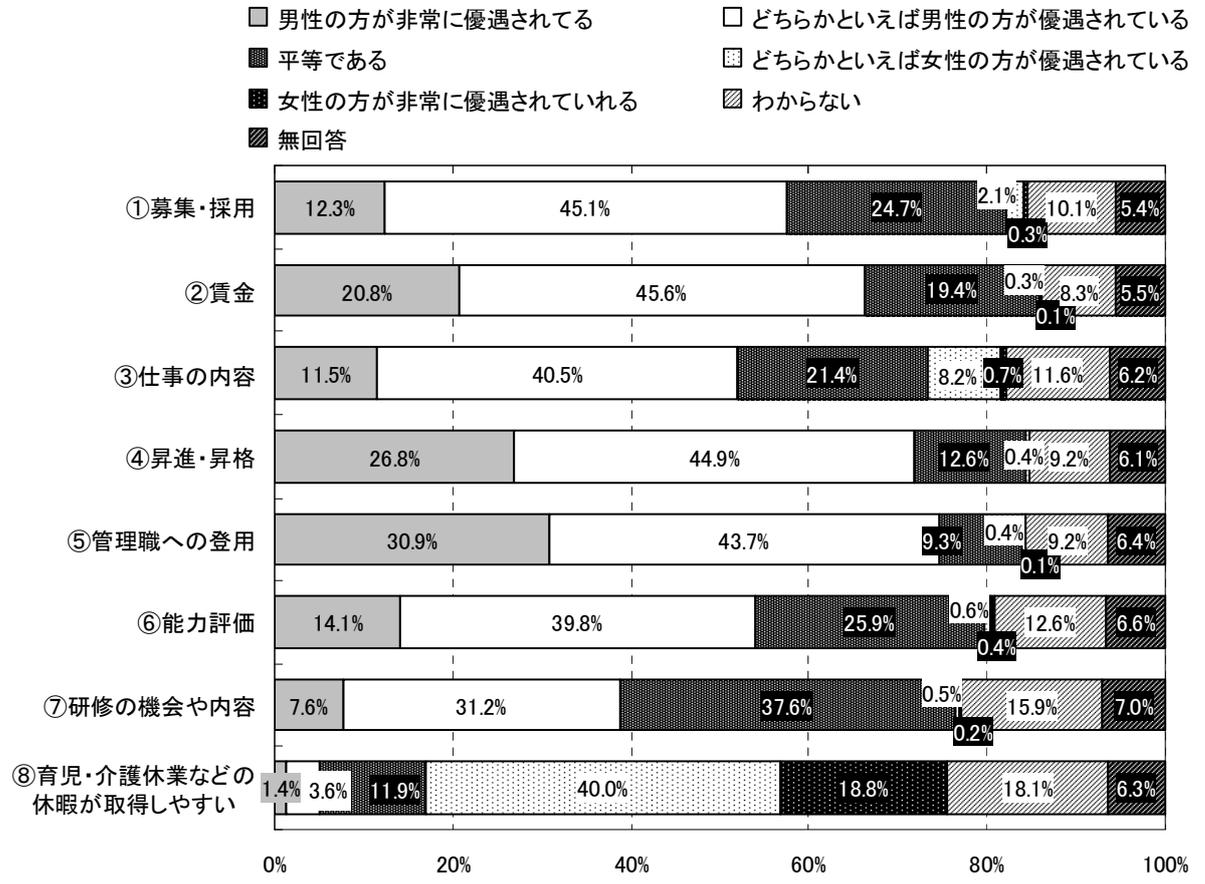
就労について、性別による差があると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ①募集・採用
- ②賃金
- ③仕事の内容
- ④昇進・昇格
- ⑤管理職への登用
- ⑥能力評価(業績評価・人事考課など)
- ⑦研修の機会や内容
- ⑧育児・介護休業などの休暇が取得しやすい

<選択肢>

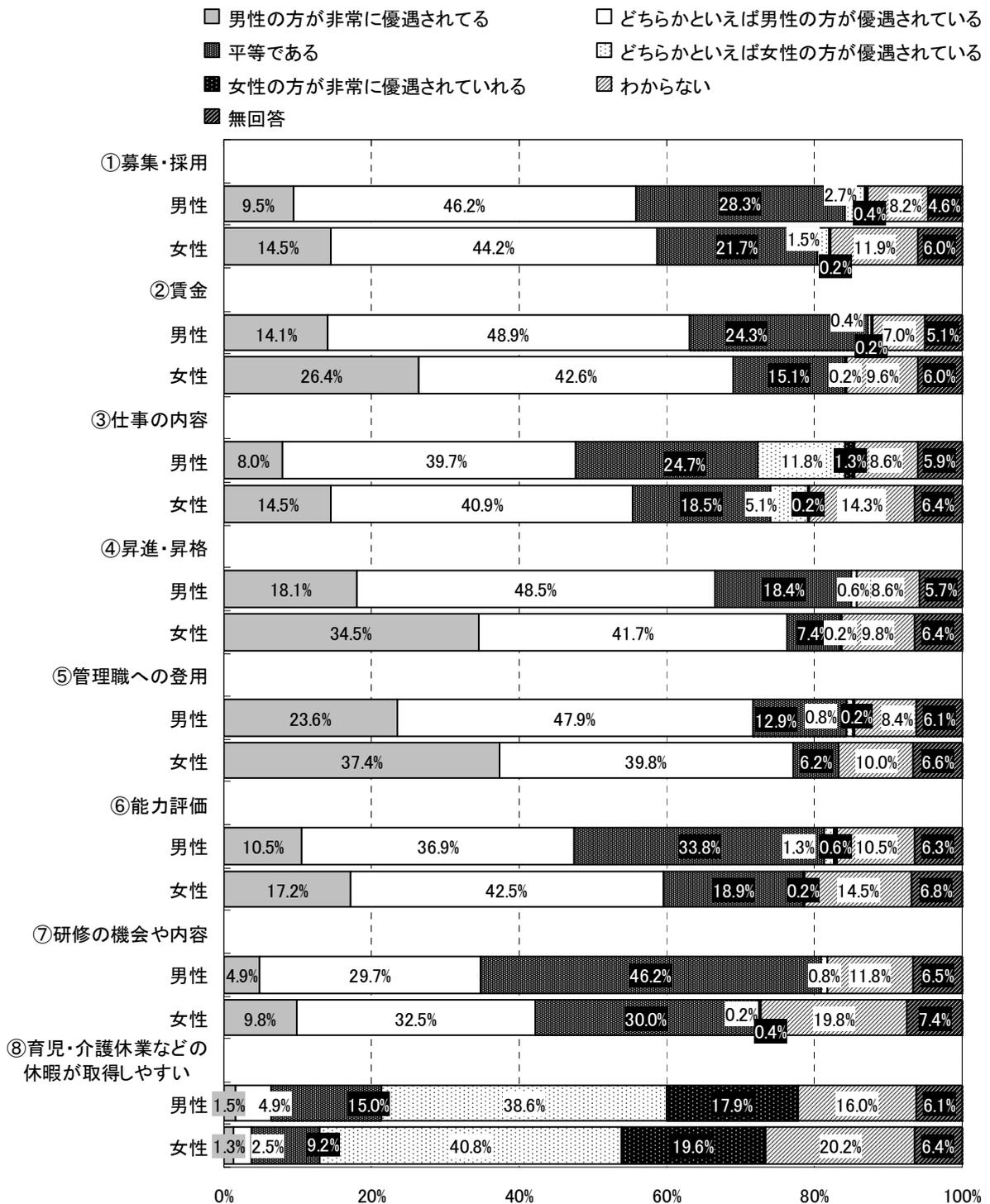
男性の方が非常に優遇されている 平等である 女性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている どちらかといえば女性の方が優遇されている わからない
---------------------------------------------	-------------------------------------------------------



就労の性別による差について、「男性の方が優遇されている」と思う割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）は「管理職への登用」が74.6%と最も高く、「女性の方が優遇されている」と思う割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）は「育児・介護休業などの休暇が取得しやすい」が58.8%と最も高くなっている。

「平等である」と思う割合は「研修の機会や内容」が37.6%と最も高くなっている。

○性別



男女ともに「育児・介護休業などの休暇が取得しやすい」は「女性の方が優遇されている」割合が高くなっている。

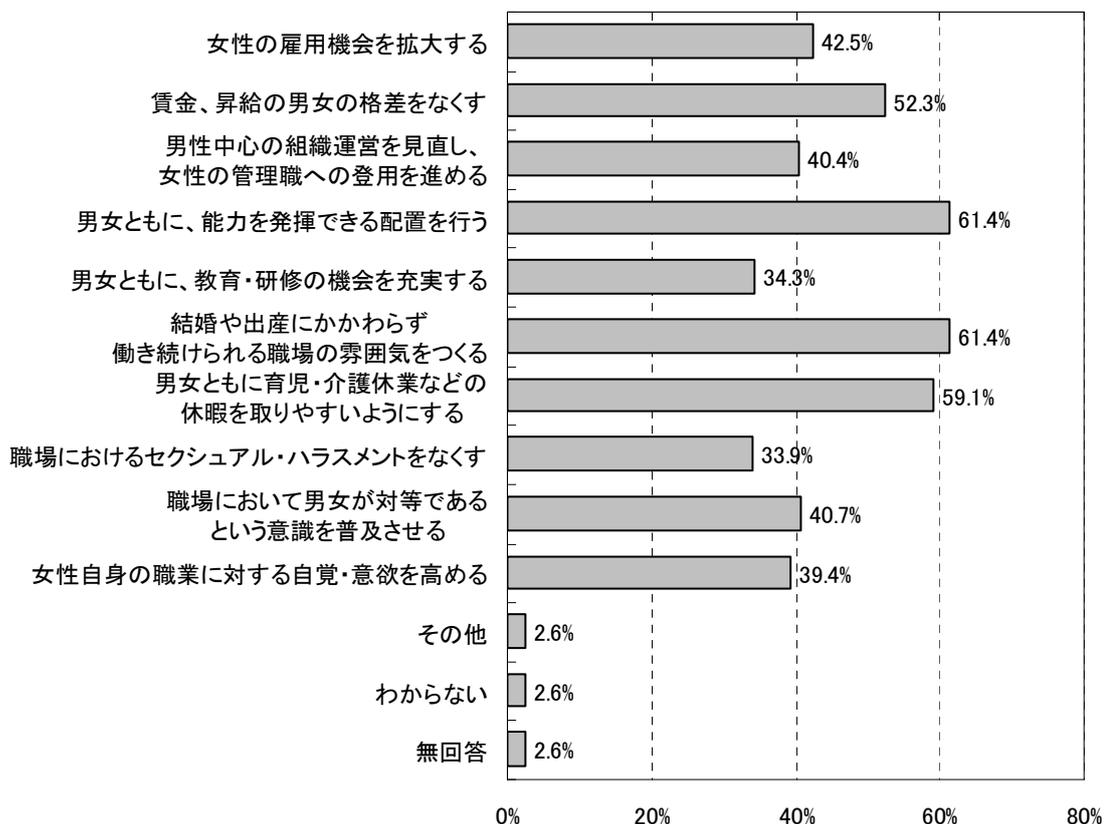
「平等である」と思う割合は、いずれの項目も女性より男性のほうが高い。「能力評価」は14.9ポイント、「研修の機会や内容」は16.2ポイントと、この2項目が10ポイント以上の差がある。

問 21. 男女の雇用均等に必要なこと

男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

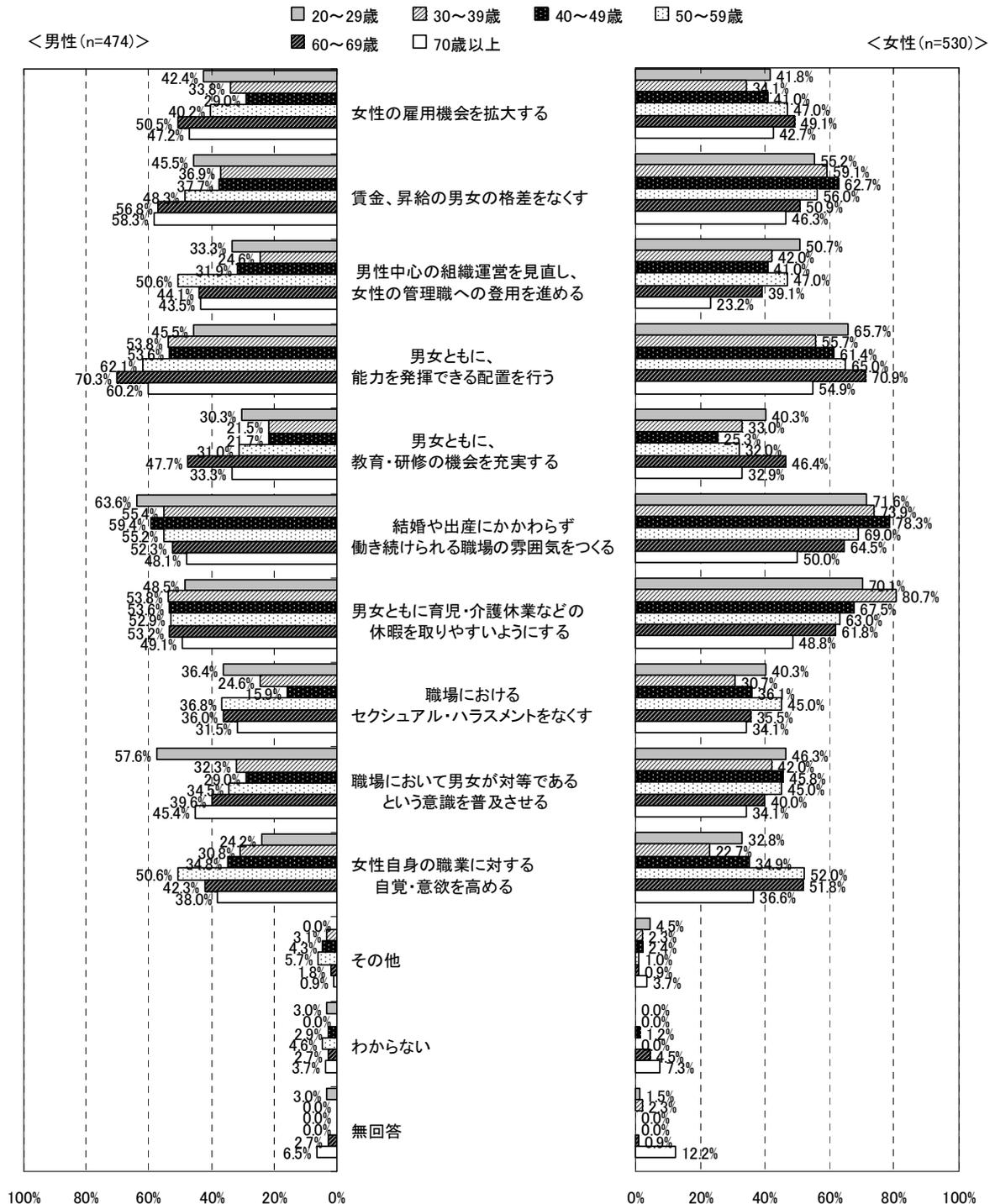
(あてはまるものすべてに○印)

1. 女性の雇用機会を拡大する
2. 賃金、昇給の男女の格差をなくす
3. 男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める
4. 男女ともに、能力を発揮できる配置を行う
5. 男女ともに、教育・研修の機会を充実する
6. 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる
7. 男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする
8. 職場におけるセクシュアル・ハラスメントをなくす
9. 職場において男女が対等であるという意識を普及させる
10. 女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める
11. その他 ()
12. わからない



男女が対等に働くために必要なこととして、「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」と「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」の割合が61.4%と最も高く、次いで「男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする」(59.1%)、「賃金、昇給の男女の格差をなくす」(52.3%)の順となっている。

○性別・年齢別



男性の20歳代から40歳代と女性の20歳代、40歳代から50歳代で「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」の割合が最も高く、男性の50歳代以上と女性の60歳代以上は、「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」の割合が最も高くなっている。女性の30歳代が「男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする」の回答が80.7%となっている。

問 22. 男性の休業や休暇の取得について

男性が、休業や休暇を取得することについてどう思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

①育児休業

②子の看護休暇

③介護休業

④介護休暇

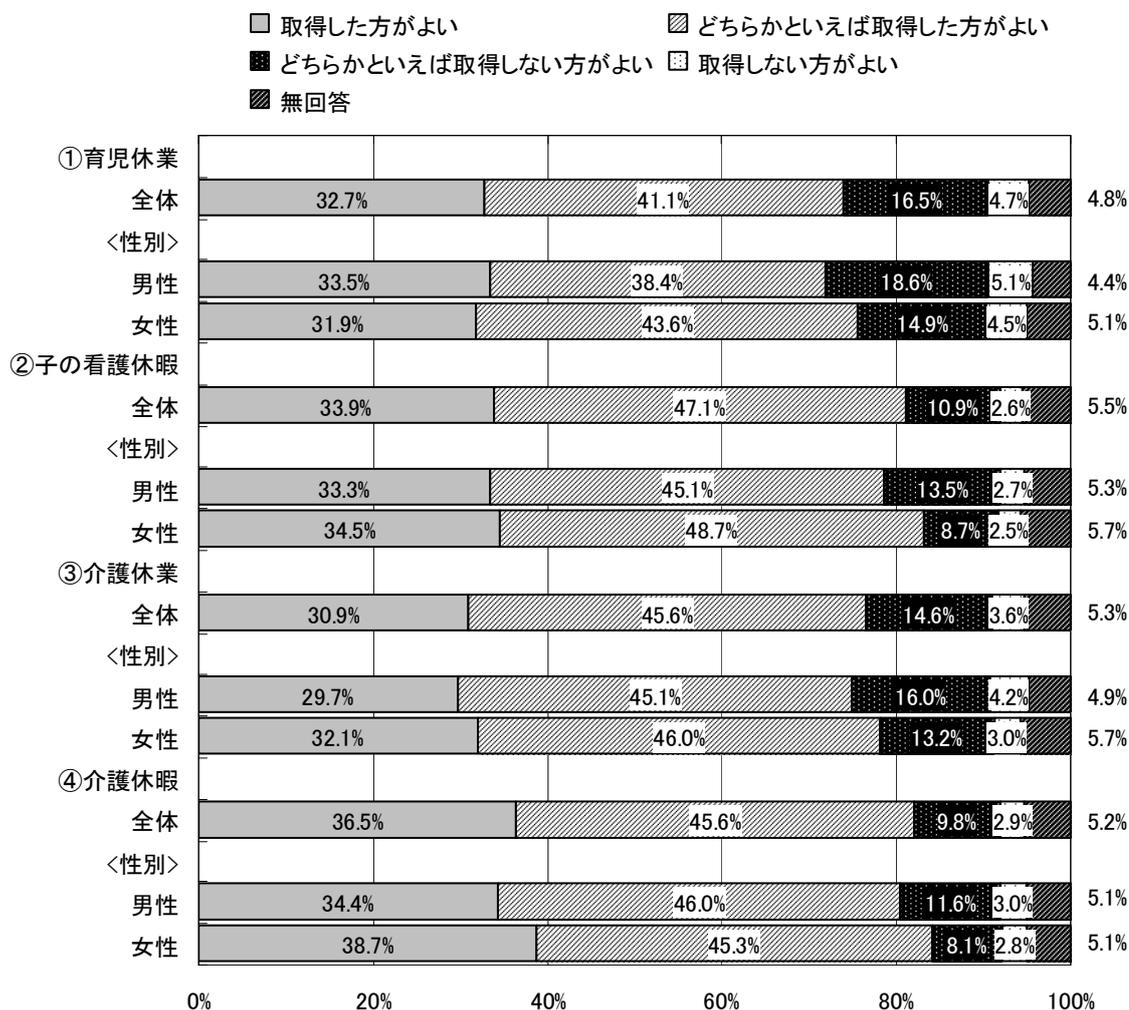
<選択肢>

取得した方がよい

どちらかといえば取得した方がよい

どちらかといえば取得しない方がよい

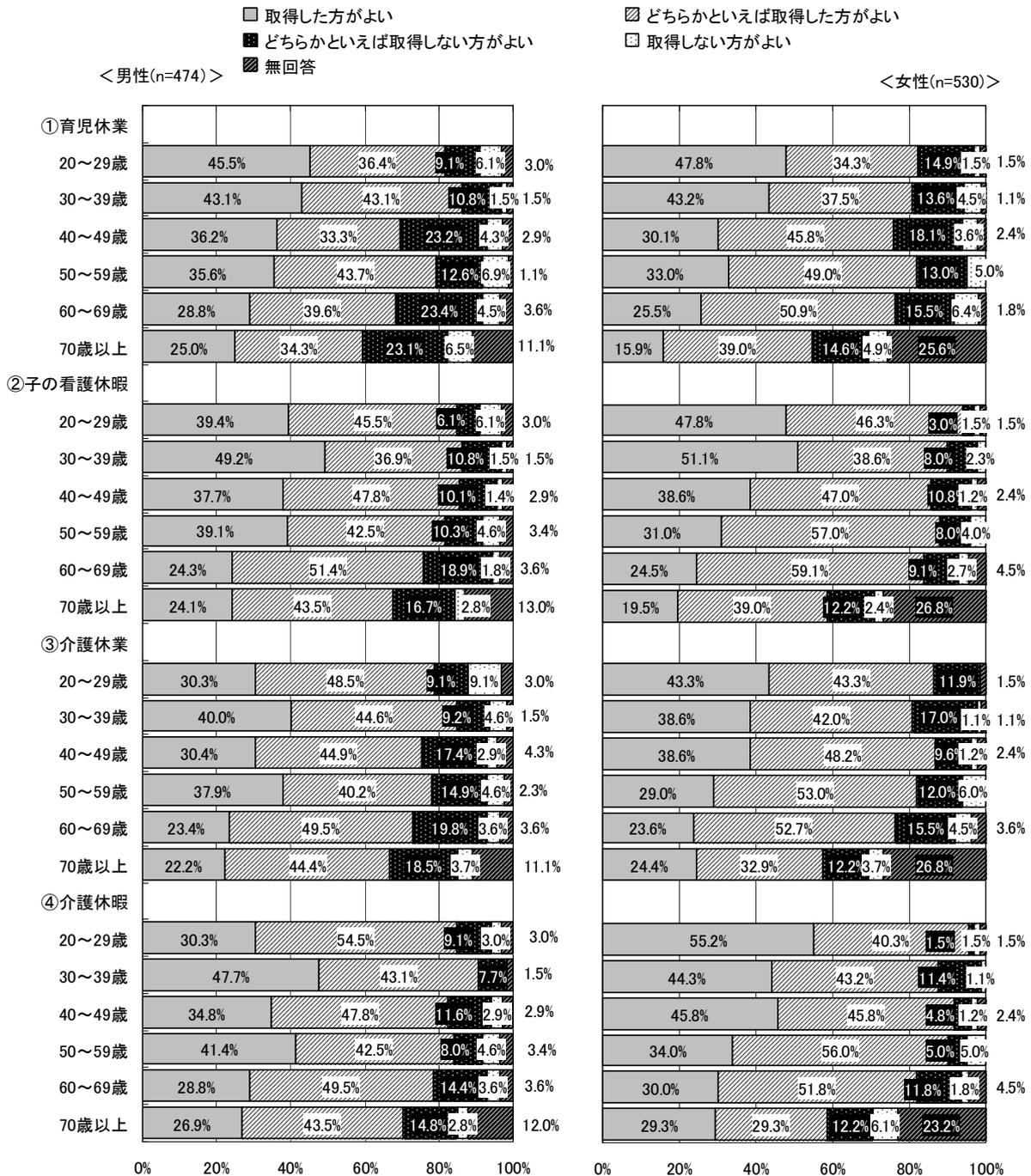
取得しない方がよい



男性が休業や休暇を取得することについては、「取得した方がよい」と思う割合（「取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」）がいずれの項目も7割を超え、「介護休業」が82.1%と最も高くなっている。

性別にみると、「取得した方がよい」と思う割合は、いずれの項目も男性より女性の割合がやや上回っている。

○年齢別



「取得した方がよい」と思う割合は、男性の30歳代がいずれの項目でも他の年齢層より高く、女性の20歳代は「子の看護休暇」、「介護休暇」が他の年齢層より高くなっている。男女ともに70歳以上は、いずれの項目も他の年齢層に比べ「取得した方がよい」と思う割合が低くなっている。

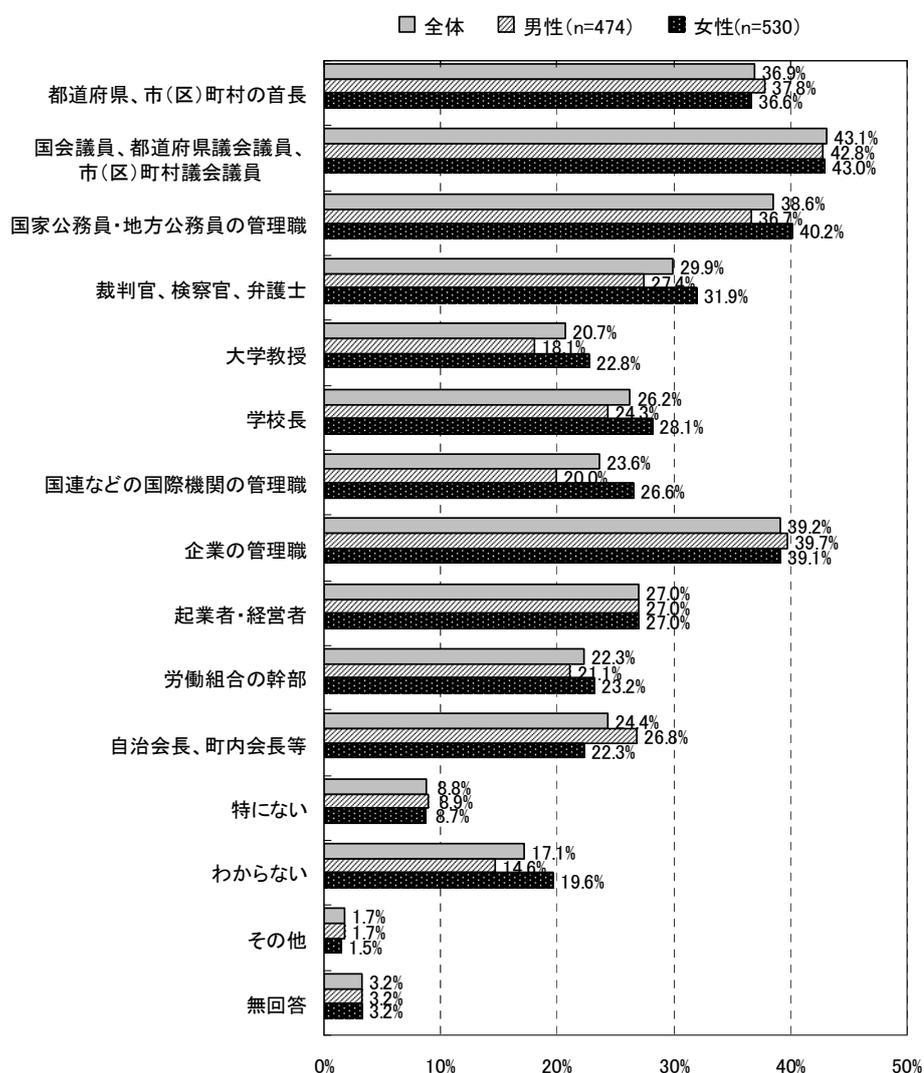
性別、年齢別にかかわらず、概ね「休業」より「休暇」を「取得した方がよい」と思う割合が高い。

問23. ポジティブ・アクションについて

社会的に、多様な分野で女性の参画を増やすことが重要な課題となっています。
今後、女性の採用や登用で増やした方がよいと思う職業や役職は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1. 都道府県、市(区)町村の首長
2. 国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員
3. 国家公務員・地方公務員の管理職
4. 裁判官、検察官、弁護士
5. 大学教授
6. 学校長
7. 国連などの国際機関の管理職
8. 企業の管理職
9. 起業者・経営者
10. 労働組合の幹部
11. 自治会長、町内会長等
12. 特にない
13. わからない
14. その他()



女性が増える方がよいと思う職業や役職としては、「国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員」の割合が43.1%と最も高く、次いで「企業の管理職」(39.2%)、「国家公務員・地方公務員の管理職」(38.6%)の順となっている。

性別にみると、「都道府県、市(区)町村の首長」と「企業の管理職」、「自治会長、町内会長等」は女性より男性の割合が高くなっている。

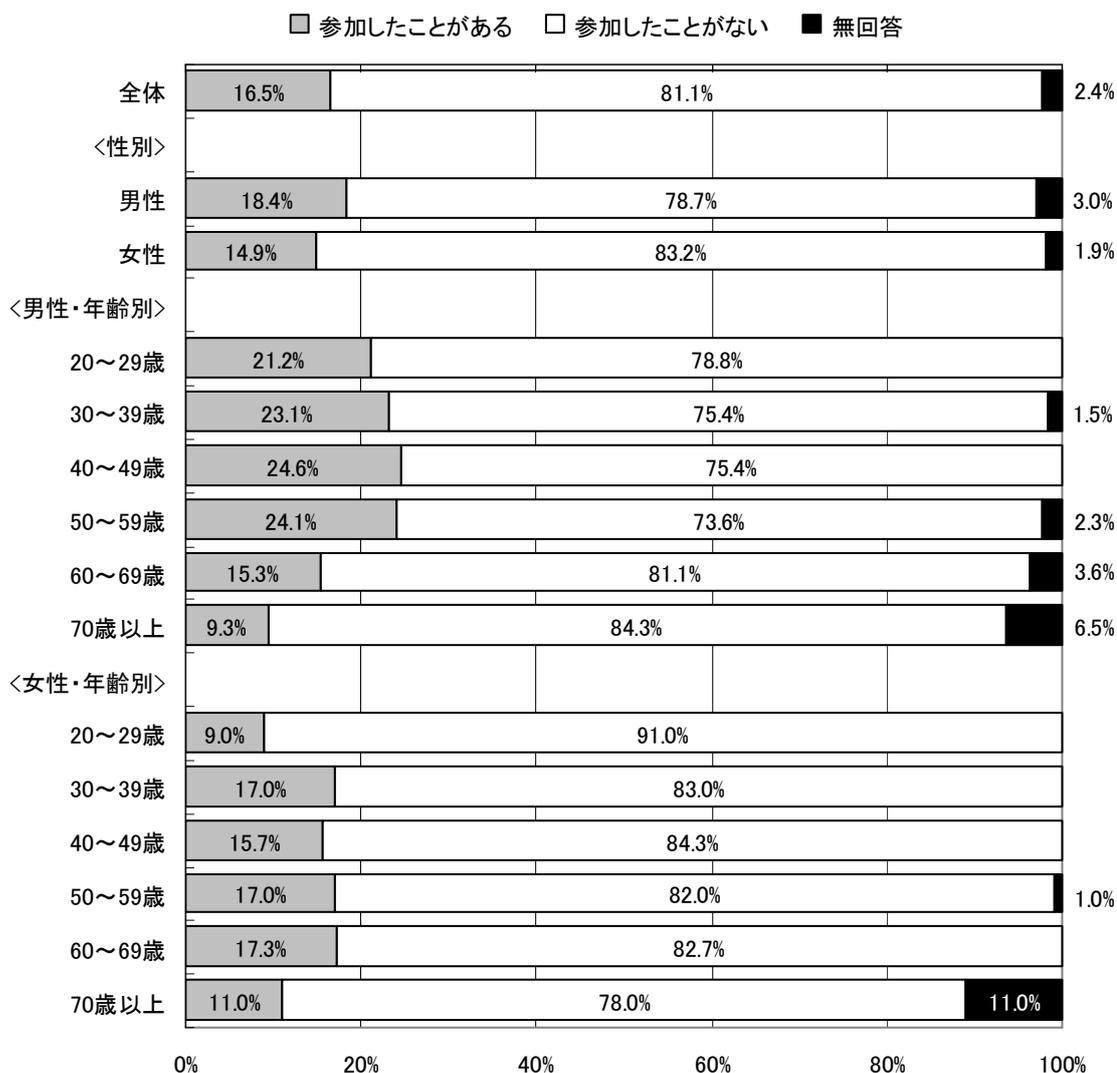
6. 防災意識について

問 24. 防災活動への参加

東日本大震災（平成 23 年 3 月 11 日）後、防災活動に参加したことがありますか。

1. 参加したことがある

2. 参加したことがない



東日本大震災後の防災活動への参加は、「参加したことがある」が 16.5%、「参加したことがない」が 81.1%となっている。

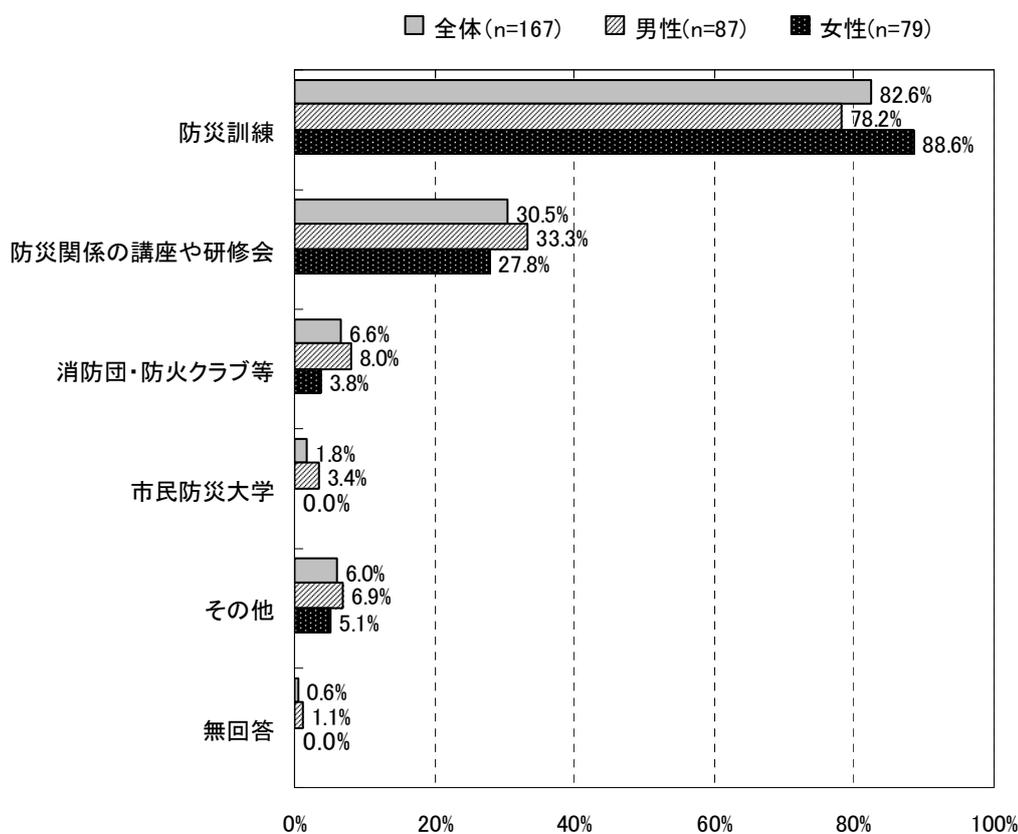
性別にみると、防災活動への参加率は、女性（14.9%）より男性（18.4%）がやや高くなっている。

性別・年齢別にみると、参加率は 20 歳代から 50 歳代までは女性より男性が高く、60 歳代以上から男性より女性の参加率が高くなっている。

問 24-1. 参加した防災活動

問 24 で「1.参加したことがある」と回答された方のみお答えください。
参加したことがある防災活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1. 防災訓練
2. 防災関係の講座や研修会
3. 消防団・防火クラブ等
4. 市民防災大学
5. その他 ()



問 24 で「参加したことがある」と回答した 167 人について、「防災訓練」の割合が 82.6%と最も高く、次いで「防災関係の講座や研修会」(30.5%)の順となっている。

性別にみると、「防災訓練」は男性(78.2%)より女性(88.6%)の参加の割合が高く、「防災関係の講座や研修会」は女性(27.8%)より男性(33.3%)が高くなっている。「市民防災大学」への女性の参加はみられない。

7. 地域活動について

問 26. 社会活動、地域活動の参加

社会活動、地域活動への参加についてお答えください。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

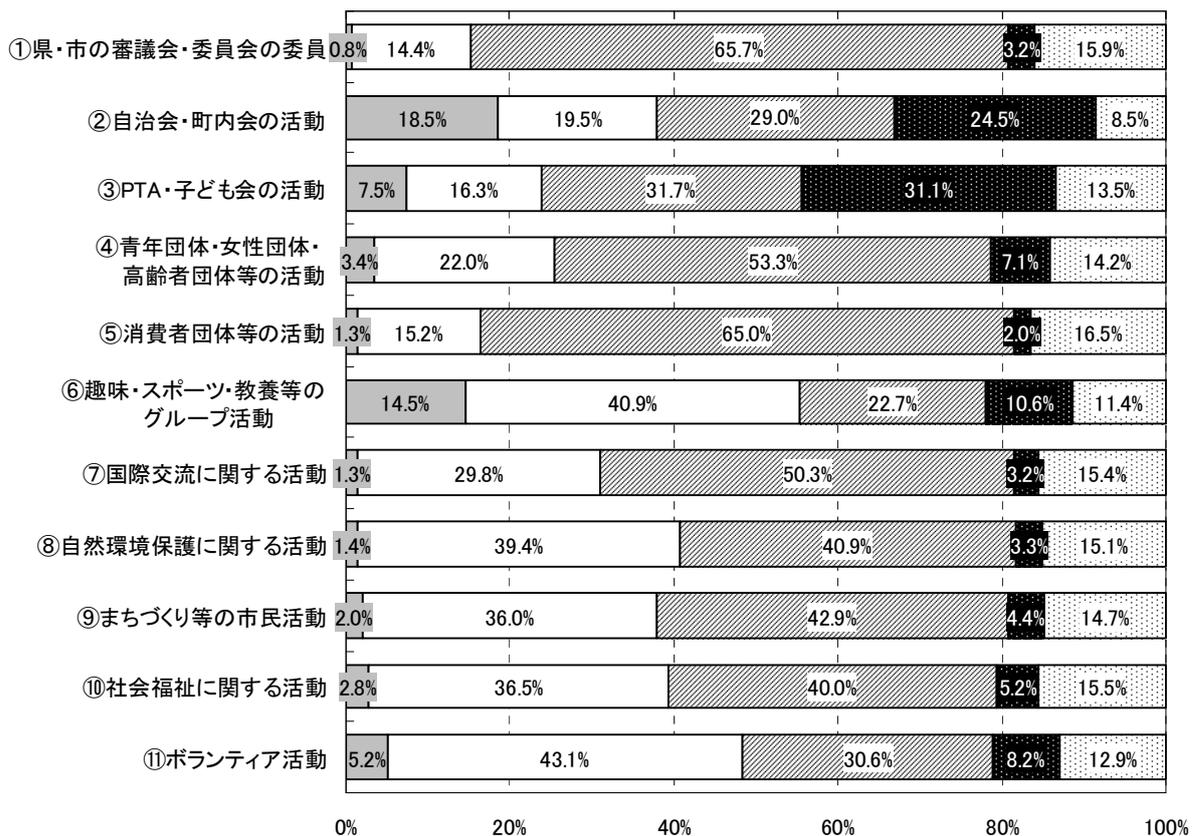
- | | |
|------------------|-----------------------|
| ① 県・市の審議会・委員会の委員 | ② 自治会・町内会の活動 |
| ③ P T A・子ども会の活動 | ④ 青年団体・女性団体・高齢者団体等の活動 |
| ⑤ 消費者団体等の活動 | ⑥ 趣味・スポーツ・教養等のグループ活動 |
| ⑦ 国際交流に関する活動 | ⑧ 自然環境保護に関する活動 |
| ⑨ まちづくり等の市民活動 | ⑩ 社会福祉に関する活動 |
| ⑪ ボランティア活動 | |

<選択肢>

現在、参加している
参加したくない

今後は参加したい
以前、参加したことがある

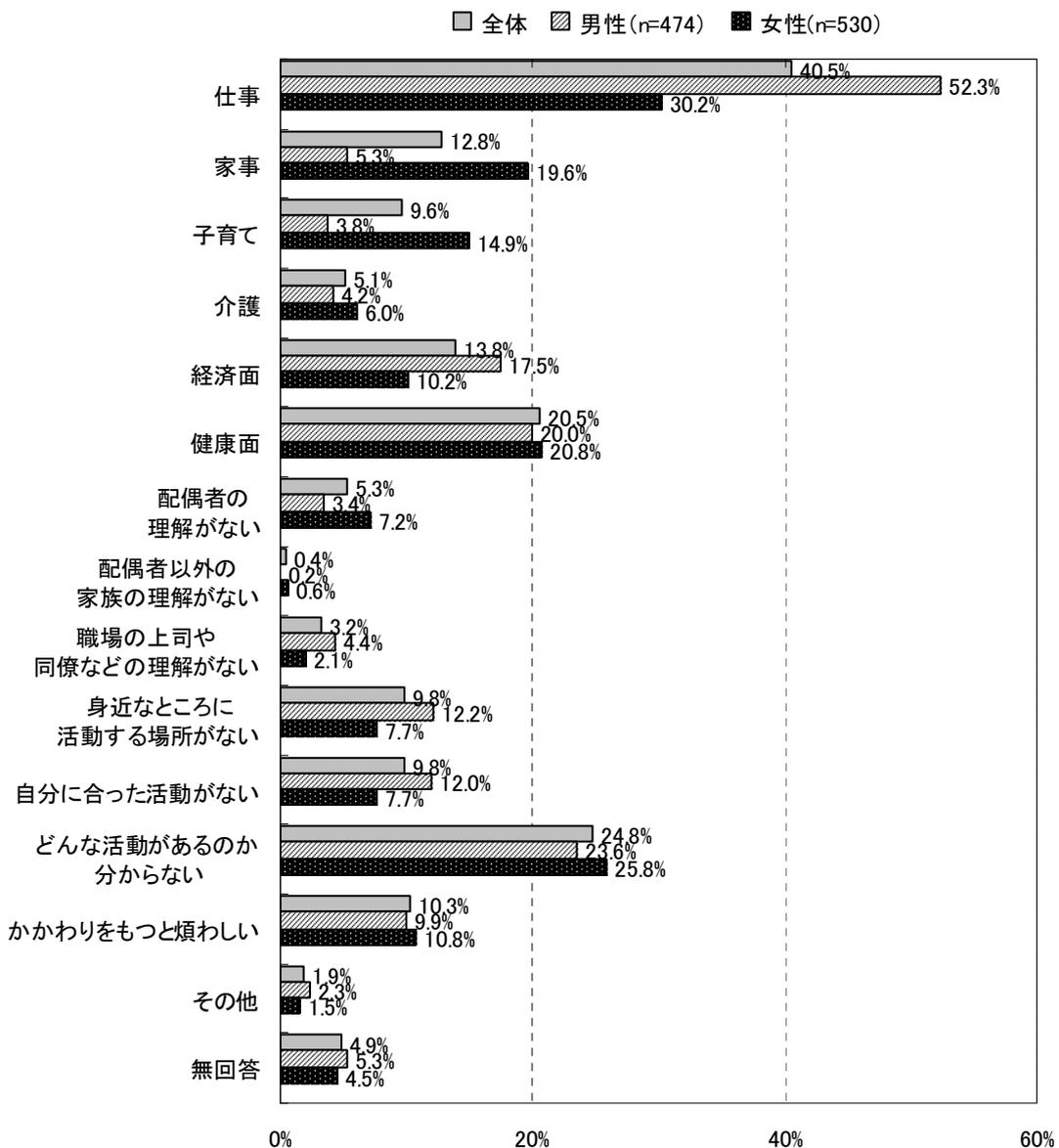
現在、参加している 今後は参加したい 参加したくない
 以前、参加したことがある 無回答



社会活動、地域活動への参加については、「現在、参加している」は「自治会・町内会の活動」が18.5%、「今後は参加したい」は「ボランティア活動」が43.1%と最も割合が高くなっている。「参加したくない」は「県・市の審議会・委員会の委員」が65.7%、「以前、参加したことがある」は「P T A・子ども会の活動」が31.1%と最も割合が高くなっている。

問 27. 社会活動、地域活動の参加への問題

社会活動、地域活動に参加しようとするときに問題になることはどのようなことですか。
 (2つまでに○印)
 1. 仕事 2. 家事 3. 子育て 4. 介護 5. 経済面 6. 健康面
 7. 配偶者(パートナー)の理解がない
 8. 配偶者(パートナー)以外の家族の理解がない
 9. 職場の上司や同僚などの理解がない 10. 身近なところに活動する場所がない
 11. 自分に合った活動がない 12. どんな活動があるのか分からない
 13. かかわりをもつと煩わしい 14. その他()



社会活動、地域活動の参加への問題として、「仕事」の割合が40.5%と最も高く、次いで「どんな活動があるのか分からない」(24.8%)、「健康面」(20.5%)の順となっている。

性別にみると、「仕事」は女性(30.2%)より男性(52.3%)が22.1ポイント上回っている。「家事」は14.3ポイント、「子育て」は11.1ポイントと、男性より女性の割合が上回っている。

8. DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問 28. 配偶者や交際相手からの暴力行為だと思うこと

配偶者や交際相手からの行為で暴力だと思うことはどのようなことですか。
あなたの考えに近いものをお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ〇印）

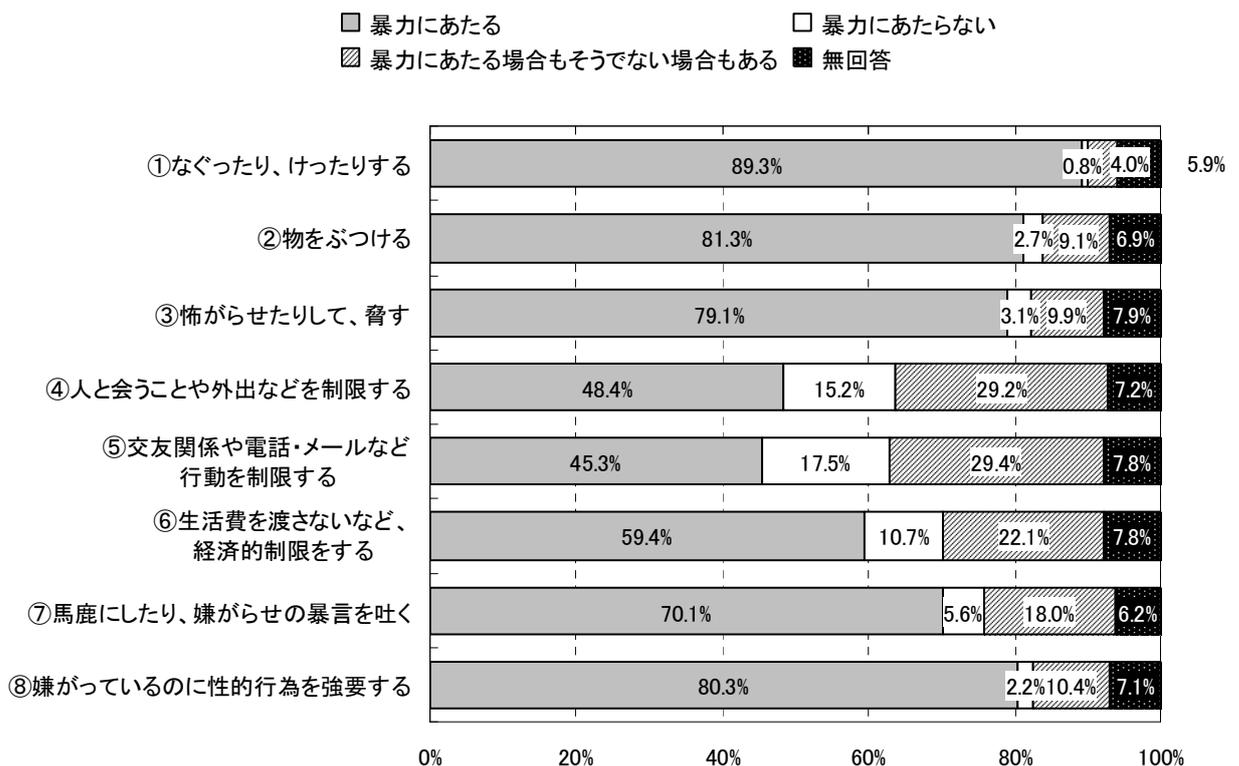
- ①なぐったり、けったりする
- ②物をぶつける
- ③怖がらせたりして、脅す
- ④人と会うことや外出などを制限する
- ⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する
- ⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする
- ⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く
- ⑧嫌がっているのに性的行為を強要する

<選択肢>

暴力にあたる

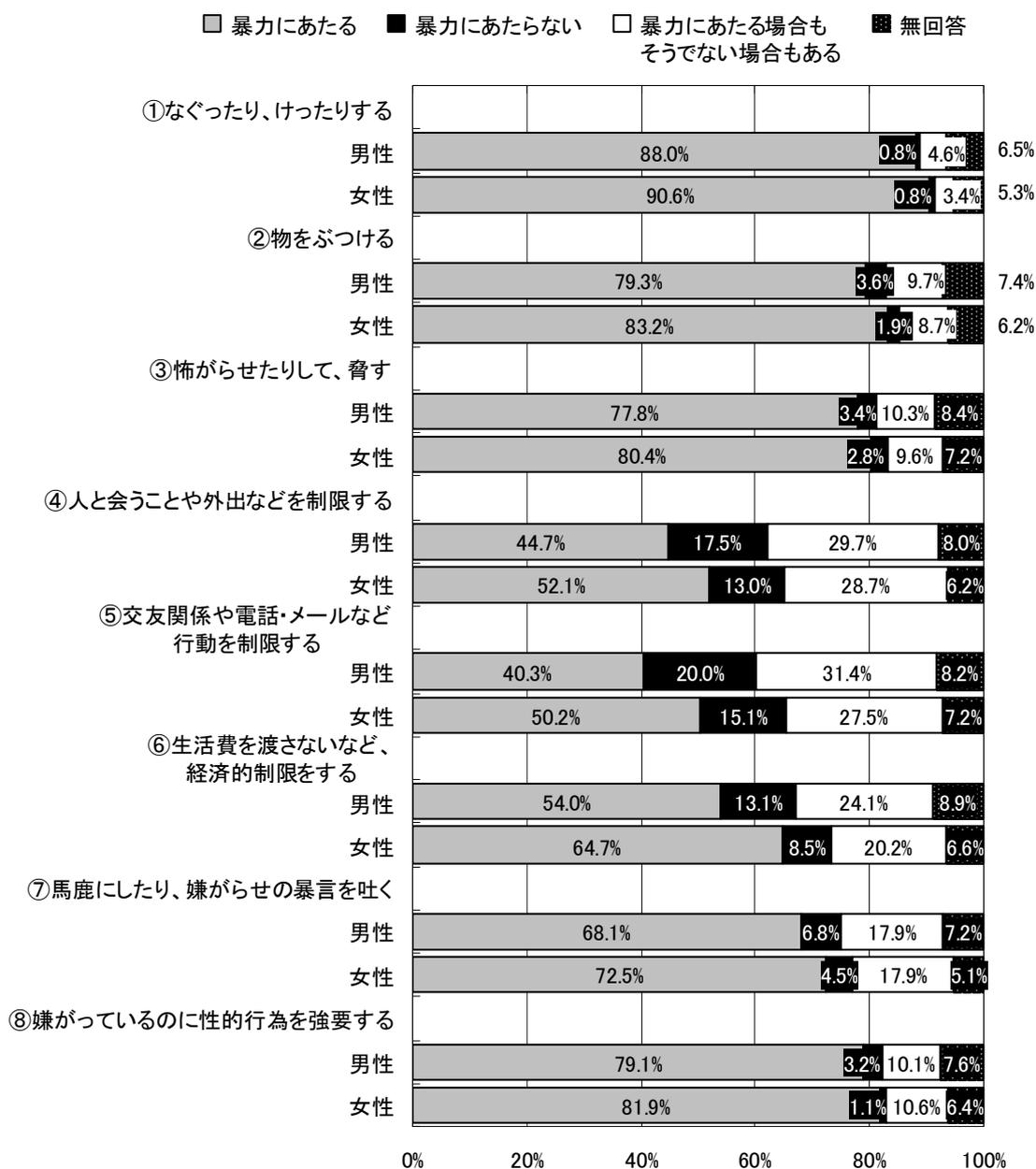
暴力にあたらない

暴力にあたる場合もそうでない場合もある



配偶者や交際相手からの暴力行為だと思うことについて、「なぐったり、けったりする」の割合が89.3%と最も高く、次いで「物をぶつける」（81.3%）、「嫌がっているのに性的行為を強要する」（80.3%）の順となっている。「暴力にあたらない」と「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」はともに、「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」の割合が高くなっている。

○性別



男女ともに「暴力にあたる」と思う割合は「なぐったり、けったりする」が最も高く、「暴力にあたらぬ」と思う割合は「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」が最も高くなっている。「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」と思う割合は、男性が「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」(31.4%)、女性は「人と会うことや外出などを制限する」(28.7%)が最も高くなっている。

○性別・年齢別表

			暴力にあたる	暴力にあたらぬ	も暴力にあたる場合もある	無回答			暴力にあたる	暴力にあたらぬ	も暴力にあたる場合もある	無回答			
① ながぐつたり、けつたりする	男性・年齢別	20～29歳	100.0	0.0	0.0	0.0	⑤ 交友関係や電話・メールなど行動を制限する	男性・年齢別	20～29歳	57.6	18.2	24.2	0.0		
		30～39歳	95.4	0.0	4.6	0.0			30～39歳	43.1	18.5	38.5	0.0		
		40～49歳	92.8	0.0	4.3	2.9			40～49歳	43.5	26.1	27.5	2.9		
		50～59歳	92.0	1.1	4.6	2.3			50～59歳	52.9	14.9	29.9	2.3		
		60～69歳	89.2	0.9	4.5	5.4			60～69歳	35.1	20.7	36.0	8.1		
		70歳以上	72.2	1.9	6.5	19.4			70歳以上	26.9	21.3	27.8	24.1		
		女性・年齢別	20～29歳	91.0	1.5	6.0			1.5	女性・年齢別	20～29歳	43.3	22.4	32.8	1.5
	30～39歳	98.9	1.1	0.0	0.0	30～39歳		59.1	10.2	29.5	1.1				
	40～49歳	95.2	0.0	2.4	2.4	40～49歳		57.8	12.0	27.7	2.4				
	50～59歳	97.0	0.0	3.0	0.0	50～59歳		59.0	15.0	24.0	2.0				
	60～69歳	90.0	0.9	4.5	4.5	60～69歳		51.8	18.2	23.6	6.4				
	70歳以上	69.5	1.2	4.9	24.4	70歳以上		25.6	13.4	30.5	30.5				
	② 物をぶつける	男性・年齢別	20～29歳	97.0	0.0	3.0		0.0	⑥ 生活費を渡さないなど、経済的制限をする	男性・年齢別	20～29歳	72.7	15.2	12.1	0.0
			30～39歳	86.2	1.5	12.3		0.0			30～39歳	69.2	3.1	27.7	0.0
40～49歳			87.0	5.8	4.3	2.9	40～49歳	58.0			14.5	24.6	2.9		
50～59歳			82.8	5.7	9.2	2.3	50～59歳	58.6			20.7	18.4	2.3		
60～69歳			76.6	3.6	14.4	5.4	60～69歳	54.1			14.4	21.6	9.9		
70歳以上			64.8	2.8	9.3	23.1	70歳以上	33.3			10.2	31.5	25.0		
女性・年齢別			20～29歳	88.1	3.0	7.5	1.5	女性・年齢別			20～29歳	65.7	10.4	22.4	1.5
30～39歳		88.6	4.5	6.8	0.0	30～39歳	76.1	8.0		15.9	0.0				
40～49歳		89.2	1.2	7.2	2.4	40～49歳	78.3	3.6		15.7	2.4				
50～59歳		88.0	0.0	11.0	1.0	50～59歳	66.0	12.0		20.0	2.0				
60～69歳		80.9	1.8	10.9	6.4	60～69歳	66.4	6.4		20.9	6.4				
70歳以上		64.6	1.2	7.3	26.8	70歳以上	34.1	11.0		26.8	28.0				
③ 怖がらせたりして、脅す		男性・年齢別	20～29歳	84.8	6.1	6.1	3.0	⑦ 馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く		男性・年齢別	20～29歳	84.8	3.0	12.1	0.0
			30～39歳	84.6	3.1	12.3	0.0				30～39歳	72.3	4.6	23.1	0.0
	40～49歳		88.4	0.0	8.7	2.9	40～49歳		78.3		2.9	15.9	2.9		
	50～59歳		90.8	2.3	4.6	2.3	50～59歳		78.2		9.2	10.3	2.3		
	60～69歳		75.7	2.7	15.3	6.3	60～69歳		64.0		7.2	23.4	5.4		
	70歳以上		57.4	5.6	11.1	25.9	70歳以上		50.9		9.3	17.6	22.2		
	女性・年齢別		20～29歳	85.1	3.0	10.4	1.5		女性・年齢別		20～29歳	71.6	7.5	19.4	1.5
	30～39歳	88.6	2.3	9.1	0.0	30～39歳	81.8		4.5	13.6	0.0				
	40～49歳	90.4	1.2	6.0	2.4	40～49歳	80.7		3.6	14.5	1.2				
	50～59歳	89.0	1.0	9.0	1.0	50～59歳	82.0		1.0	16.0	1.0				
	60～69歳	75.5	5.5	10.0	9.1	60～69歳	71.8		5.5	18.2	4.5				
	70歳以上	53.7	3.7	13.4	29.3	70歳以上	43.9		6.1	26.8	23.2				
	④ 人と会うことや外出などを制限する	男性・年齢別	20～29歳	63.6	12.1	24.2	0.0		⑧ 嫌がっているのに性的行為を強要する	男性・年齢別	20～29歳	93.9	0.0	3.0	3.0
			30～39歳	47.7	12.3	40.0	0.0				30～39歳	86.2	6.2	7.7	0.0
40～49歳			46.4	27.5	23.2	2.9	40～49歳	87.0			2.9	7.2	2.9		
50～59歳			58.6	16.1	23.0	2.3	50～59歳	87.4			3.4	6.9	2.3		
60～69歳			39.6	15.3	36.9	8.1	60～69歳	76.6			2.7	14.4	6.3		
70歳以上			30.6	18.5	27.8	23.1	70歳以上	61.1			2.8	13.9	22.2		
女性・年齢別			20～29歳	50.7	16.4	31.3	1.5	女性・年齢別			20～29歳	86.6	0.0	11.9	1.5
30～39歳		62.5	10.2	27.3	0.0	30～39歳	88.6	0.0		11.4	0.0				
40～49歳		60.2	7.2	30.1	2.4	40～49歳	94.0	0.0		3.6	2.4				
50～59歳		62.0	9.0	27.0	2.0	50～59歳	91.0	2.0		5.0	2.0				
60～69歳		50.0	20.0	23.6	6.4	60～69歳	78.2	2.7		13.6	5.5				
70歳以上		24.4	14.6	35.4	25.6	70歳以上	52.4	1.2		18.3	28.0				

男女ともに70歳以上は「暴力にあたる」と思う割合がいずれの項目も低く、「無回答」の割合が高くなっている。

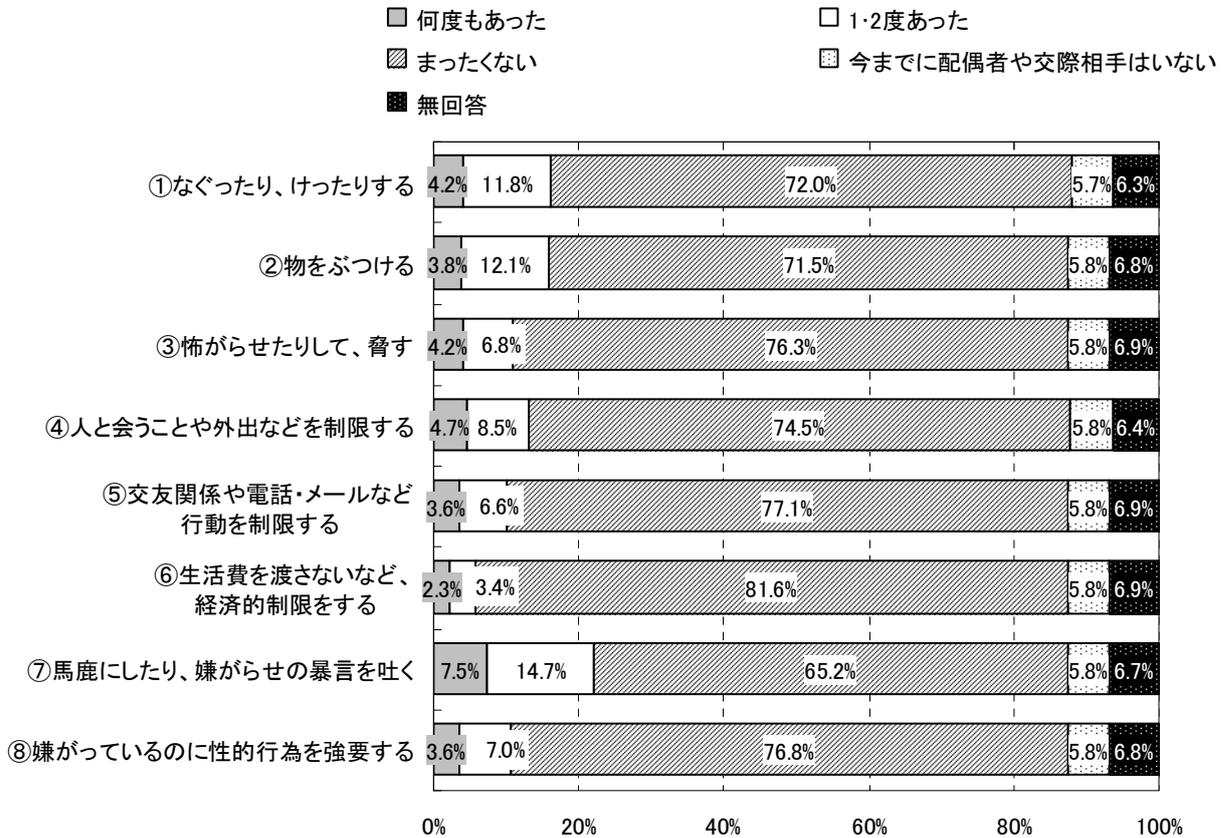
問 29. 配偶者や交際相手から受けた暴力行為

これまでに配偶者や交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

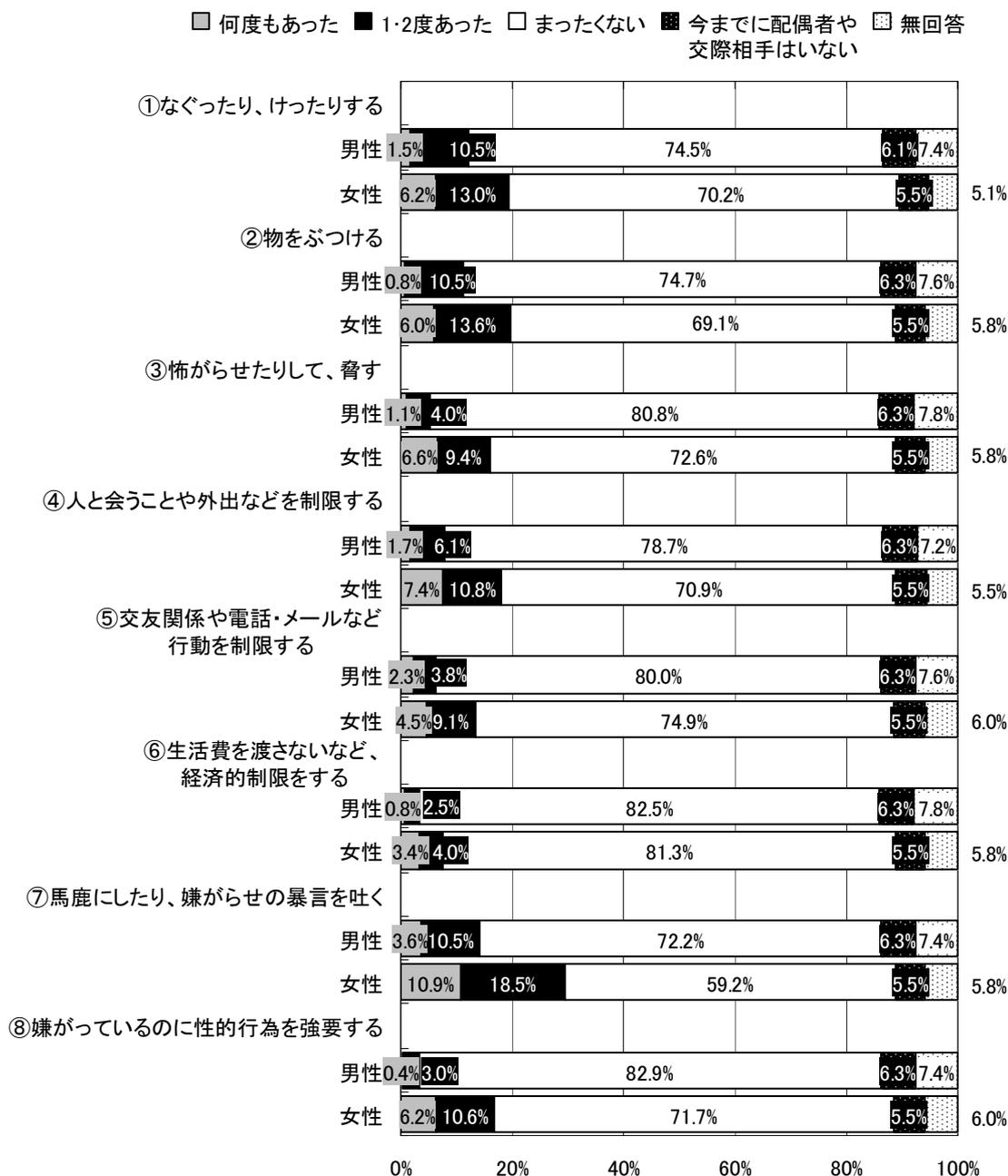
- ①なぐったり、けったりする
- ②物をぶつける
- ③怖がらせたりして、脅す
- ④人と会うことや外出などを制限する
- ⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する
- ⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする
- ⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く
- ⑧嫌がっているのに性的行為を強要する

<選択肢>
 何度もあった 1・2度あった まったくない
 今までに配偶者や交際相手はいない



配偶者や交際相手から受けた暴力について、「暴力行為があった」割合（「何度もあった」と「1・2度あった」の計）は「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」が22.2%と最も高く、次いで「なぐったり、けったりする」（16.0%）、「物をぶつける」（15.9%）の順となっている。

○性別



男女ともに「暴力行為があった」割合は、「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」が最も高くなっている。

女性の「暴力行為があった」割合は、「生活費を渡さないなど、経済的制限をする」が7.4%と1割に満たないが、その他の項目は1割を超えている。

○性別・年齢別表

		何度もあった	1・2度あった	まったくない	や今までに配偶者や交際相手はいない	無回答			何度もあった	1・2度あった	まったくない	や今までに配偶者や交際相手はいない	無回答				
①なぐったり、けったりする	男性・年齢別	20～29歳	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する	男性・年齢別	20～29歳	6.1	6.1	57.6	30.3	0.0		
		30～39歳	1.5	16.9	73.8	7.7	0.0		30～39歳	4.6	7.7	80.0	7.7	0.0			
		40～49歳	2.9	20.3	69.6	4.3	2.9		40～49歳	2.9	4.3	85.5	4.3	2.9			
		50～59歳	3.4	6.9	83.9	3.4	2.3		50～59歳	2.3	3.4	88.5	3.4	2.3			
		60～69歳	0.0	10.8	78.4	2.7	8.1		60～69歳	0.9	4.5	83.8	2.7	8.1			
		70歳以上	0.9	6.5	66.7	5.6	20.4		70歳以上	0.9	0.0	72.2	5.6	21.3			
		女性・年齢別	20～29歳	6.0	9.0	70.1	14.9		0.0	女性・年齢別	20～29歳	7.5	10.4	67.2	14.9	0.0	
	30～39歳	5.7	12.5	77.3	4.5	0.0	30～39歳		4.5	12.5	78.4	4.5	0.0				
	40～49歳	4.8	16.9	69.9	4.8	3.6	40～49歳		4.8	7.2	78.3	4.8	4.8				
	50～59歳	9.0	18.0	70.0	1.0	2.0	50～59歳		5.0	14.0	79.0	1.0	1.0				
	60～69歳	3.6	11.8	78.2	3.6	2.7	60～69歳		4.5	5.5	83.6	3.6	2.7				
	70歳以上	8.5	8.5	52.4	7.3	23.2	70歳以上		1.2	4.9	57.3	7.3	29.3				
	②物をぶつける	男性・年齢別	20～29歳	0.0	3.0	66.7	30.3		0.0	⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする	男性・年齢別	20～29歳	0.0	0.0	69.7	30.3	0.0
			30～39歳	0.0	9.2	83.1	7.7		0.0		30～39歳	0.0	1.5	89.2	7.7	1.5	
40～49歳			1.4	15.9	75.4	4.3	2.9	40～49歳	2.9		5.8	84.1	4.3	2.9			
50～59歳			3.4	10.3	80.5	3.4	2.3	50～59歳	2.3		3.4	88.5	3.4	2.3			
60～69歳			0.0	16.2	73.0	2.7	8.1	60～69歳	0.0		2.7	86.5	2.7	8.1			
70歳以上			0.0	4.6	68.5	5.6	21.3	70歳以上	0.0		0.9	72.2	5.6	21.3			
女性・年齢別			20～29歳	3.0	11.9	70.1	14.9	0.0	女性・年齢別		20～29歳	1.5	0.0	82.1	14.9	1.5	
30～39歳		8.0	10.2	77.3	4.5	0.0	30～39歳	5.7	4.5		85.2	4.5	0.0				
40～49歳		6.0	10.8	73.5	4.8	4.8	40～49歳	2.4	4.8		85.5	4.8	2.4				
50～59歳		10.0	15.0	73.0	1.0	1.0	50～59歳	4.0	5.0		88.0	1.0	2.0				
60～69歳		3.6	14.5	73.6	3.6	4.5	60～69歳	0.9	3.6		87.3	3.6	4.5				
70歳以上		4.9	18.3	43.9	7.3	25.6	70歳以上	6.1	4.9		56.1	7.3	25.6				
③怖がらせたりして、脅す		男性・年齢別	20～29歳	0.0	0.0	69.7	30.3	0.0	⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く		男性・年齢別	20～29歳	3.0	3.0	63.6	30.3	0.0
			30～39歳	3.1	7.7	81.5	7.7	0.0			30～39歳	3.1	10.8	78.5	7.7	0.0	
	40～49歳		0.0	2.9	89.9	4.3	2.9	40～49歳		7.2	14.5	71.0	4.3	2.9			
	50～59歳		3.4	5.7	85.1	3.4	2.3	50～59歳		4.6	6.9	82.8	3.4	2.3			
	60～69歳		0.0	4.5	83.8	2.7	9.0	60～69歳		1.8	15.3	72.1	2.7	8.1			
	70歳以上		0.0	1.9	71.3	5.6	21.3	70歳以上		2.8	8.3	63.0	5.6	20.4			
	女性・年齢別		20～29歳	6.0	14.9	64.2	14.9	0.0		女性・年齢別	20～29歳	9.0	9.0	64.2	14.9	3.0	
	30～39歳	9.1	11.4	75.0	4.5	0.0	30～39歳	17.0		14.8	63.6	4.5	0.0				
	40～49歳	9.6	10.8	69.9	4.8	4.8	40～49歳	14.5		14.5	61.4	4.8	4.8				
	50～59歳	10.0	12.0	76.0	1.0	1.0	50～59歳	15.0		23.0	60.0	1.0	1.0				
	60～69歳	1.8	4.5	87.3	3.6	2.7	60～69歳	3.6		26.4	62.7	3.6	3.6				
	70歳以上	3.7	4.9	56.1	7.3	28.0	70歳以上	7.3		18.3	42.7	7.3	24.4				
	④人と会うことや外出などを制限する	男性・年齢別	20～29歳	3.0	6.1	60.6	30.3	0.0		⑧嫌がっているのに性的行為を強要する	男性・年齢別	20～29歳	0.0	0.0	69.7	30.3	0.0
			30～39歳	1.5	4.6	86.2	7.7	0.0			30～39歳	0.0	1.5	89.2	7.7	1.5	
40～49歳			0.0	13.0	79.7	4.3	2.9	40～49歳	0.0		4.3	88.4	4.3	2.9			
50～59歳			4.6	2.3	87.4	3.4	2.3	50～59歳	1.1		1.1	92.0	3.4	2.3			
60～69歳			0.9	7.2	81.1	2.7	8.1	60～69歳	0.0		4.5	84.7	2.7	8.1			
70歳以上			0.9	4.6	69.4	5.6	19.4	70歳以上	0.9		3.7	70.4	5.6	19.4			
女性・年齢別			20～29歳	7.5	13.4	64.2	14.9	0.0	女性・年齢別		20～29歳	4.5	10.4	70.1	14.9	0.0	
30～39歳		4.5	13.6	77.3	4.5	0.0	30～39歳	9.1	9.1		77.3	4.5	0.0				
40～49歳		6.0	7.2	77.1	4.8	4.8	40～49歳	7.2	9.6		73.5	4.8	4.8				
50～59歳		9.0	13.0	76.0	1.0	1.0	50～59歳	7.0	15.0		76.0	1.0	1.0				
60～69歳		8.2	10.0	74.5	3.6	3.6	60～69歳	3.6	12.7		76.4	3.6	3.6				
70歳以上		8.5	7.3	52.4	7.3	24.4	70歳以上	6.1	4.9		53.7	7.3	28.0				

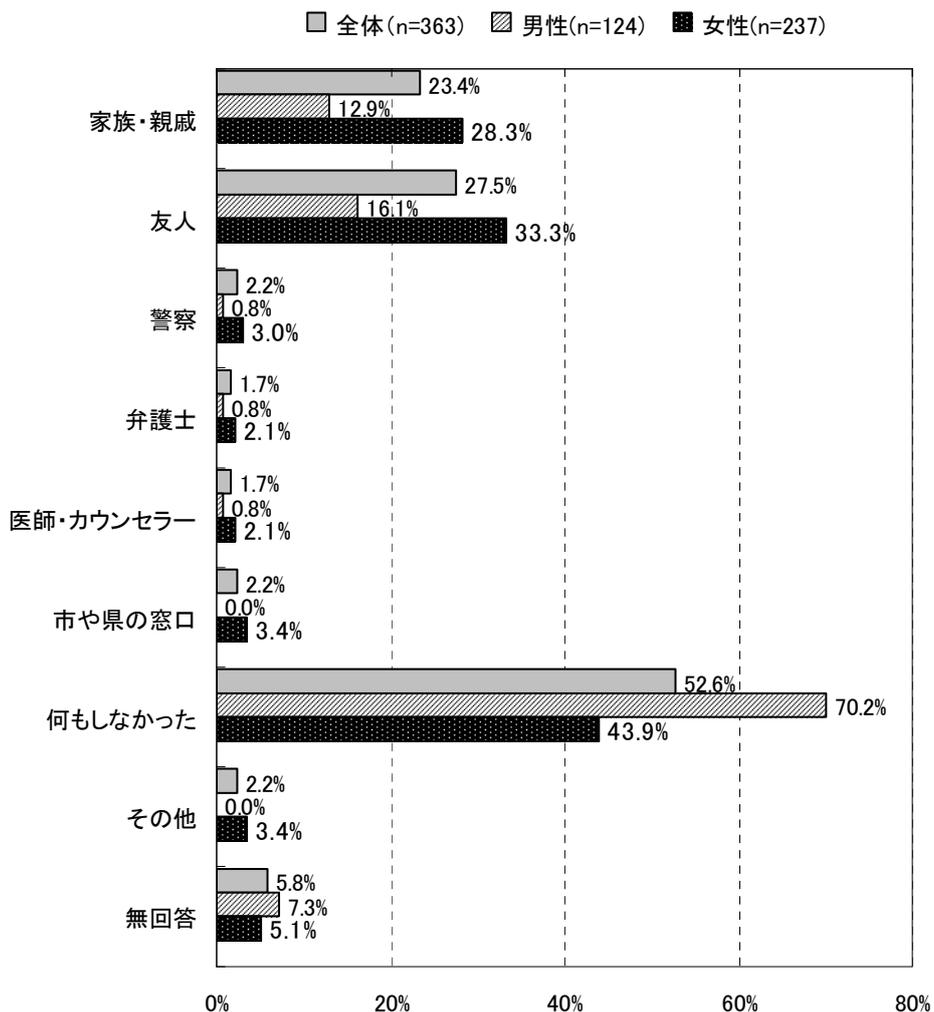
「暴力行為があった」割合は、男性の40歳代が「なぐったり、けったりする」(23.2%)、女性は「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」(38.0%)が最も高くなっている。男女ともに20歳代は「今までに配偶者や交際相手はいない」、70歳以上は「無回答」の割合が高くなっている。

問 29-1. DVを受けたときの相談について

問 29 で1つでも「1」、または「2」と回答された方のみお答えください。
あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|------------|--------------|-----------|
| 1. 家族・親戚 | 2. 友人 | 3. 警察 |
| 4. 弁護士 | 5. 医師・カウンセラー | 6. 市や県の窓口 |
| 7. 何もしなかった | 8. その他 () | |



問 29 で「何度もあった」、「1・2度あった」と回答した 363 人について、「何もしなかった」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「友人」(27.5%)、「家族・親戚」(23.4%)の順となっている。

性別にみると、「何もしなかった」は女性(43.9%)より男性(70.2%)の割合が高く、その他の項目では男性より女性の割合が高くなっている。

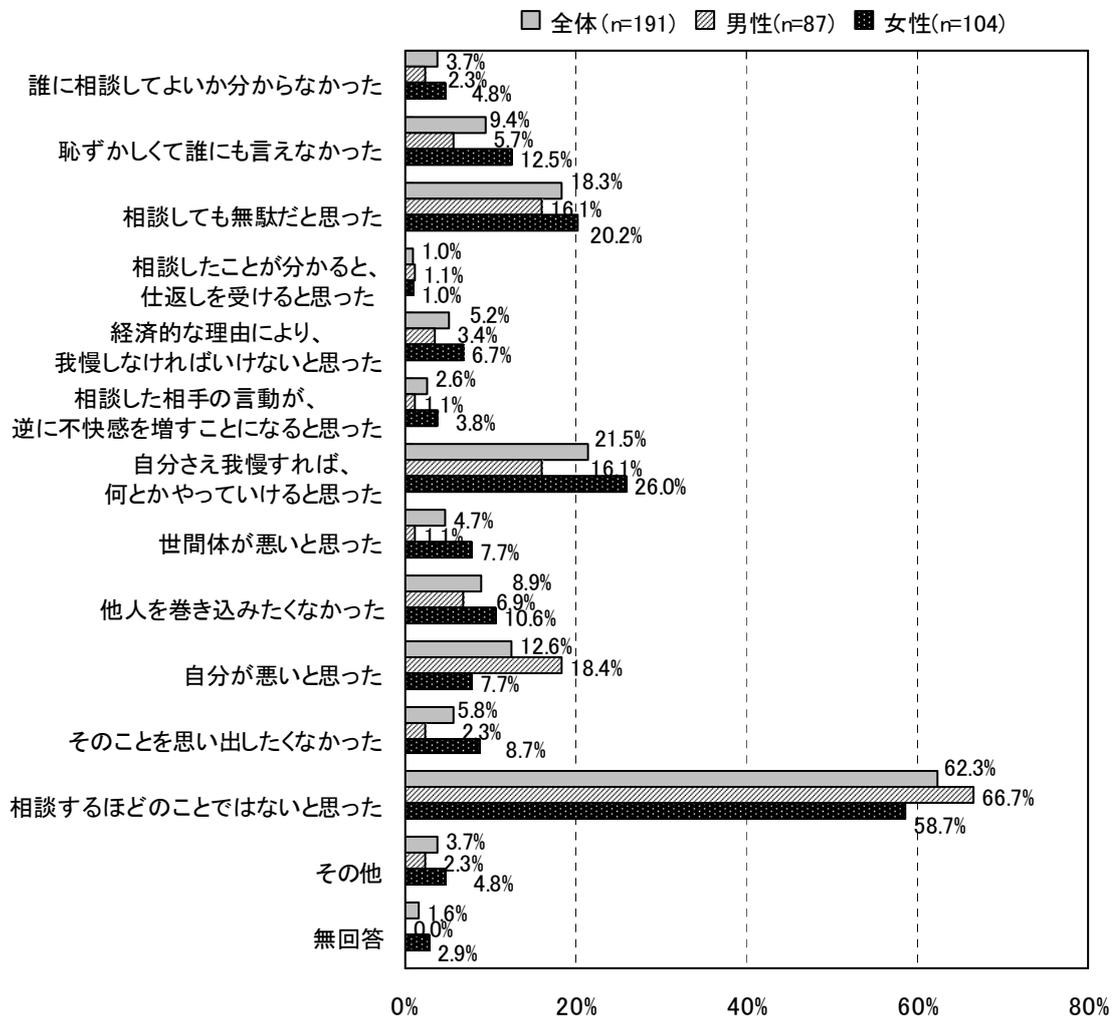
問 29-2. DVを受けて相談できなかった理由

問 29-1 で「7. 何もしなかった」と回答された方のみお答えください。

あなたが、打ち明けたり、相談しなかった理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1. 誰（どこ）に相談してよいか分からなかった
- 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 3. 相談しても無駄だと思った
- 4. 相談したことが分かって、仕返しを受けると思った
- 5. 経済的な理由により、我慢しなければいけないと思った
- 6. 相談した相手の言動が、逆に不快感を増すことになると思った
- 7. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った
- 8. 世間体が悪いと思った
- 9. 他人を巻き込みたくなかった
- 10. 自分が悪いと思った
- 11. そのことを思い出したくなかった
- 12. 相談するほどのことではないと思った
- 13. その他（ ）



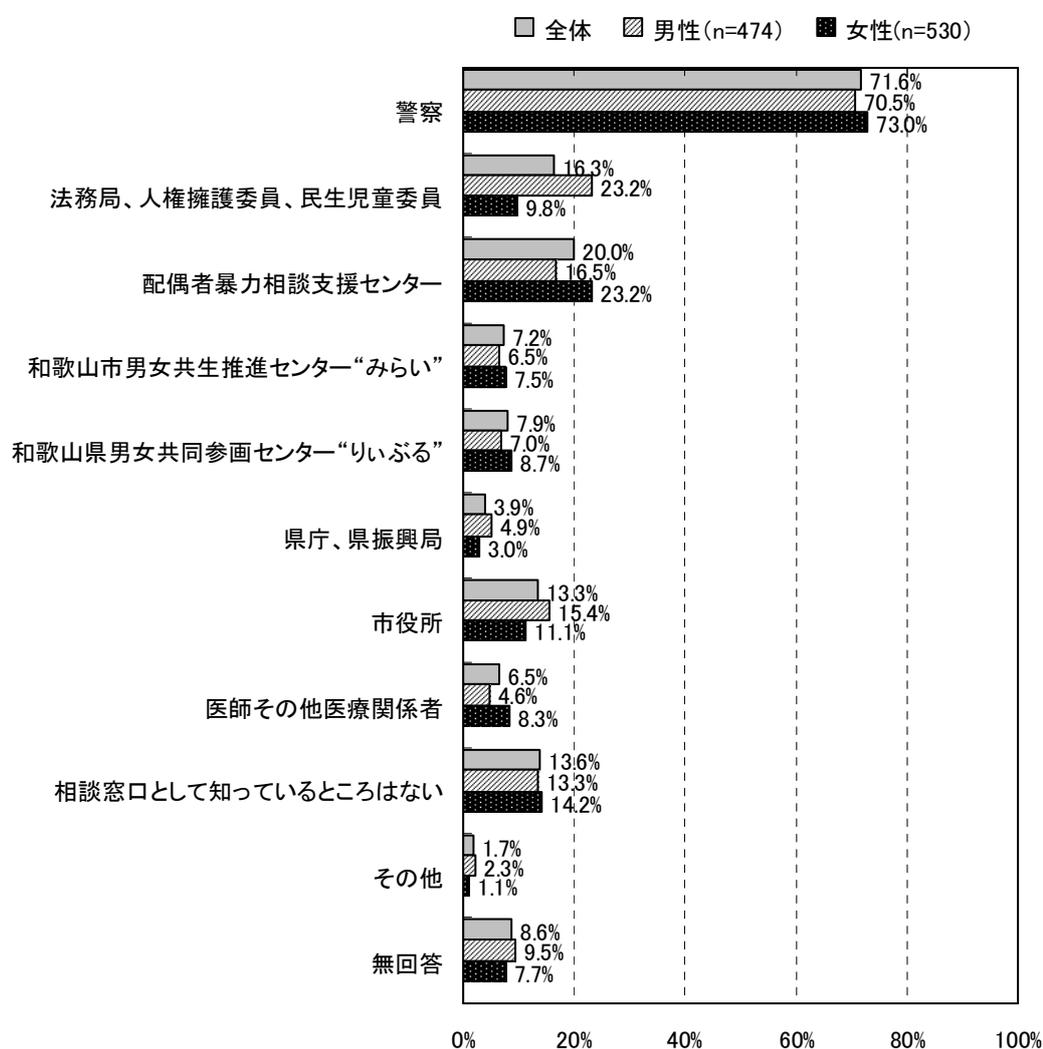
問 29-1 で「何もしなかった」と回答した 191 人について、理由として「相談するほどのことではないと思った」の割合が 62.3%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」(21.5%) の順となっている。

性別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も高くなっている。男性は、「自分が悪いと思った」が 18.4%と女性 (7.7%) よりも 10.7 ポイント上回っている。女性は、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」が 26.0%と男性 (16.1%) よりも 9.9 ポイント上回っている。

問 30. 相談窓口の認知度

配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けた時に相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。(あてはまるものすべてに○印)

1. 警察
2. 法務局、人権擁護委員、民生児童委員
3. 配偶者暴力相談支援センター（県子ども・女性・障害者相談センター）
4. 和歌山市男女共生推進センター“みらい”
5. 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”
6. 県庁、県振興局
7. 市役所
8. 医師その他医療関係者
9. 相談窓口として知っているところはない
10. その他（ ）



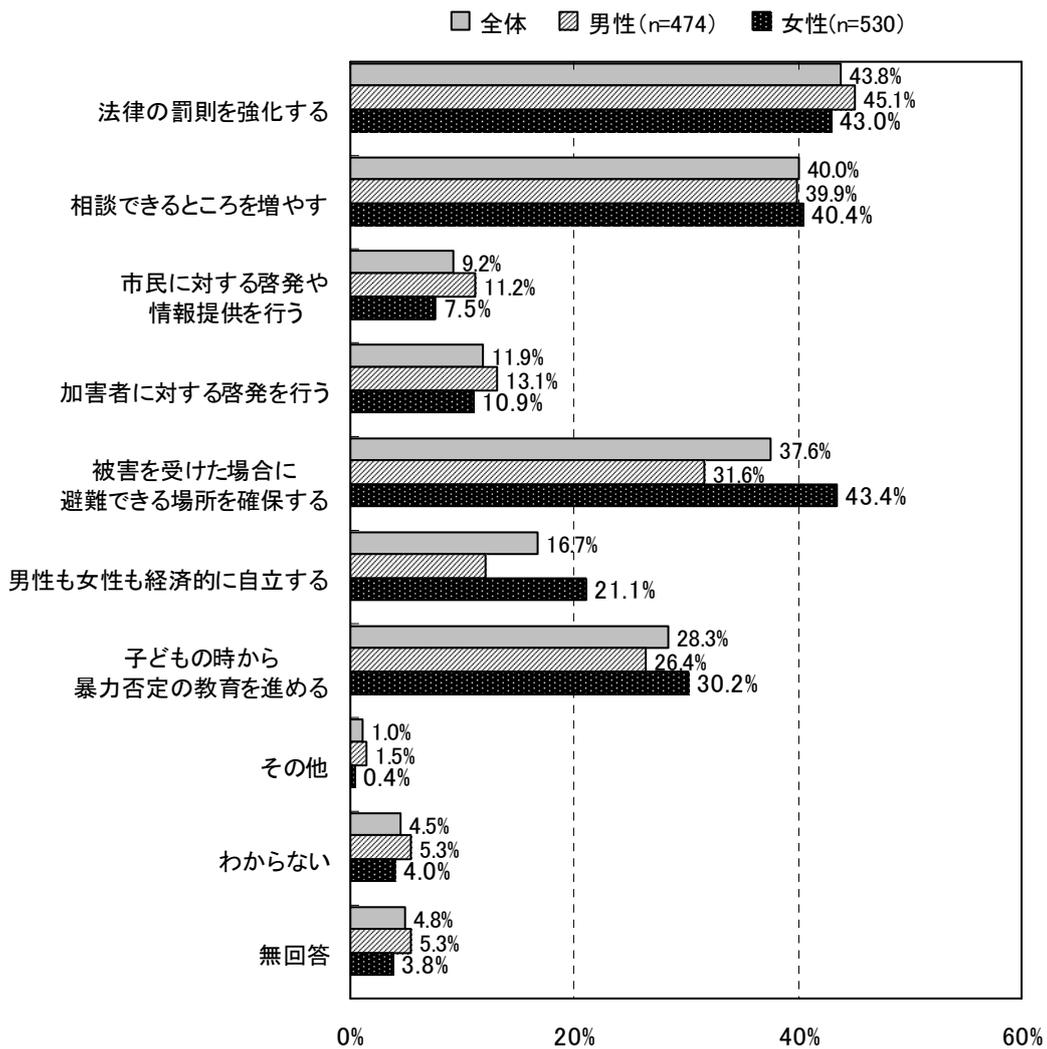
相談窓口としての認知度は、「警察」の割合が71.6%と最も高く、次いで「配偶者暴力相談支援センター」(20.0%)、「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」(16.3%)の順となり、「相談窓口として知っているところはない」は13.6%である。

性別にみると、男性は「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」と「市役所」、「県庁、県振興局」が女性より認知度が高く、その他の項目は女性が男性よりも認知度が高い。

問 32. DV防止のための取組み

男女間の暴力を防ぐために、もっと取組みを進める必要があると思うことは何ですか。
 (2つまでに○印)

- 1. 法律の罰則を強化する
- 2. 相談できるところを増やす
- 3. 市民に対する啓発や情報提供を行う
- 4. 加害者に対する啓発を行う
- 5. 被害を受けた場合に避難できる場所(シェルター)を確保する
- 6. 男性も女性も経済的に自立する
- 7. 子どもの時から暴力否定の教育を進める
- 8. その他()
- 9. わからない



暴力を防ぐために必要な取組について、「法律の罰則を強化する」の割合が43.8%と最も高く、次いで「相談できるところを増やす」(40.0%)、「被害を受けた場合に避難できる場所を確保する」(37.6%)の順となっている。

性別にみると、女性は「被害を受けた場合に避難できる場所を確保する」の割合が43.4%と最も高く、男性は「法律の罰則を強化する」が45.1%と最も高くなっている。

9. 男女共生社会について

問 33. 男女共生に関する認知度

あなたは、男女共生に関する言葉を知っていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

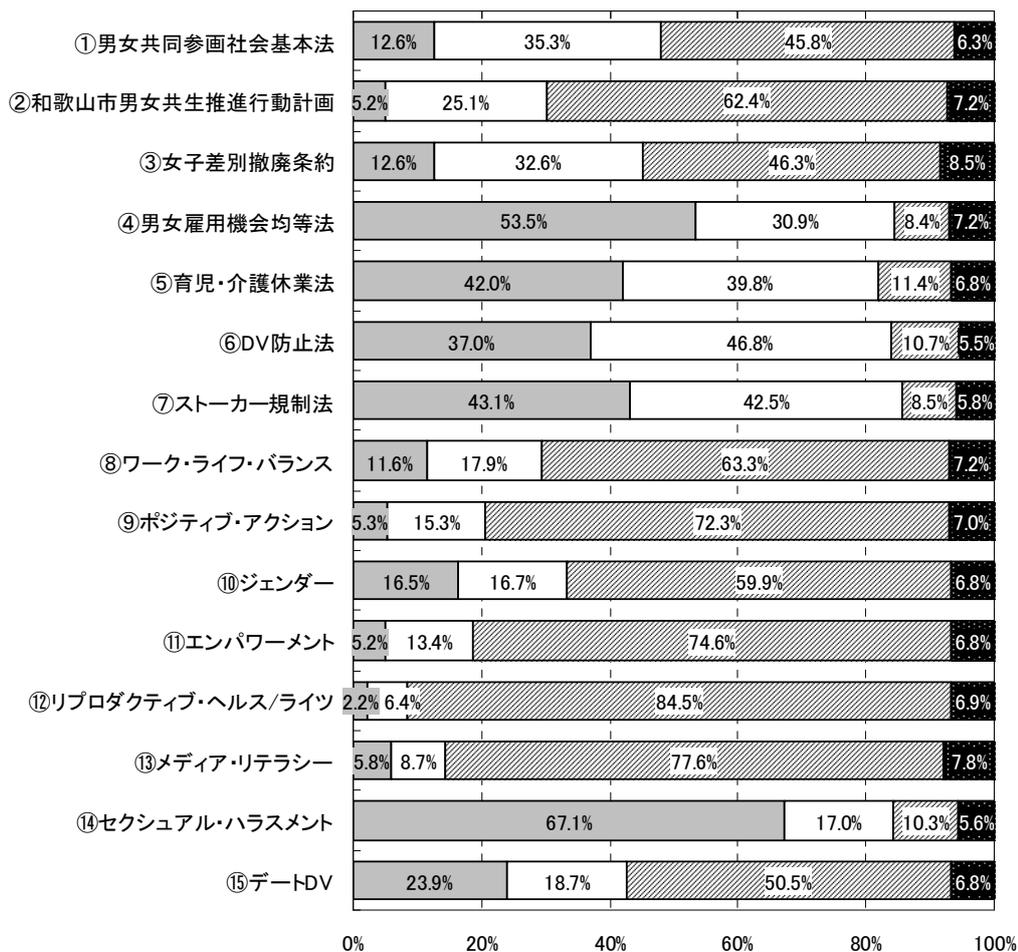
- | | | |
|---------------|-------------------|-----------|
| ①男女共同参画社会基本法 | ②和歌山市男女共生推進行動計画 | |
| ③女子差別撤廃条約 | ④男女雇用機会均等法 | |
| ⑤育児・介護休業法 | ⑥DV防止法 | ⑦ストーカー規制法 |
| ⑧ワーク・ライフ・バランス | ⑨ポジティブ・アクション | ⑩ジェンダー |
| ⑪エンパワーメント | ⑫リプロダクティブ・ヘルス/ライツ | |
| ⑬メディア・リテラシー | ⑭セクシュアル・ハラスメント | ⑮デートDV |

<選択肢>

言葉も内容も知っている
言葉も内容も知らない

言葉は知っているが内容は知らない

- | | |
|---------------|--------------------|
| ■ 言葉も内容も知っている | □ 言葉は知っているが内容は知らない |
| ▨ 言葉も内容も知らない | ■ 無回答 |

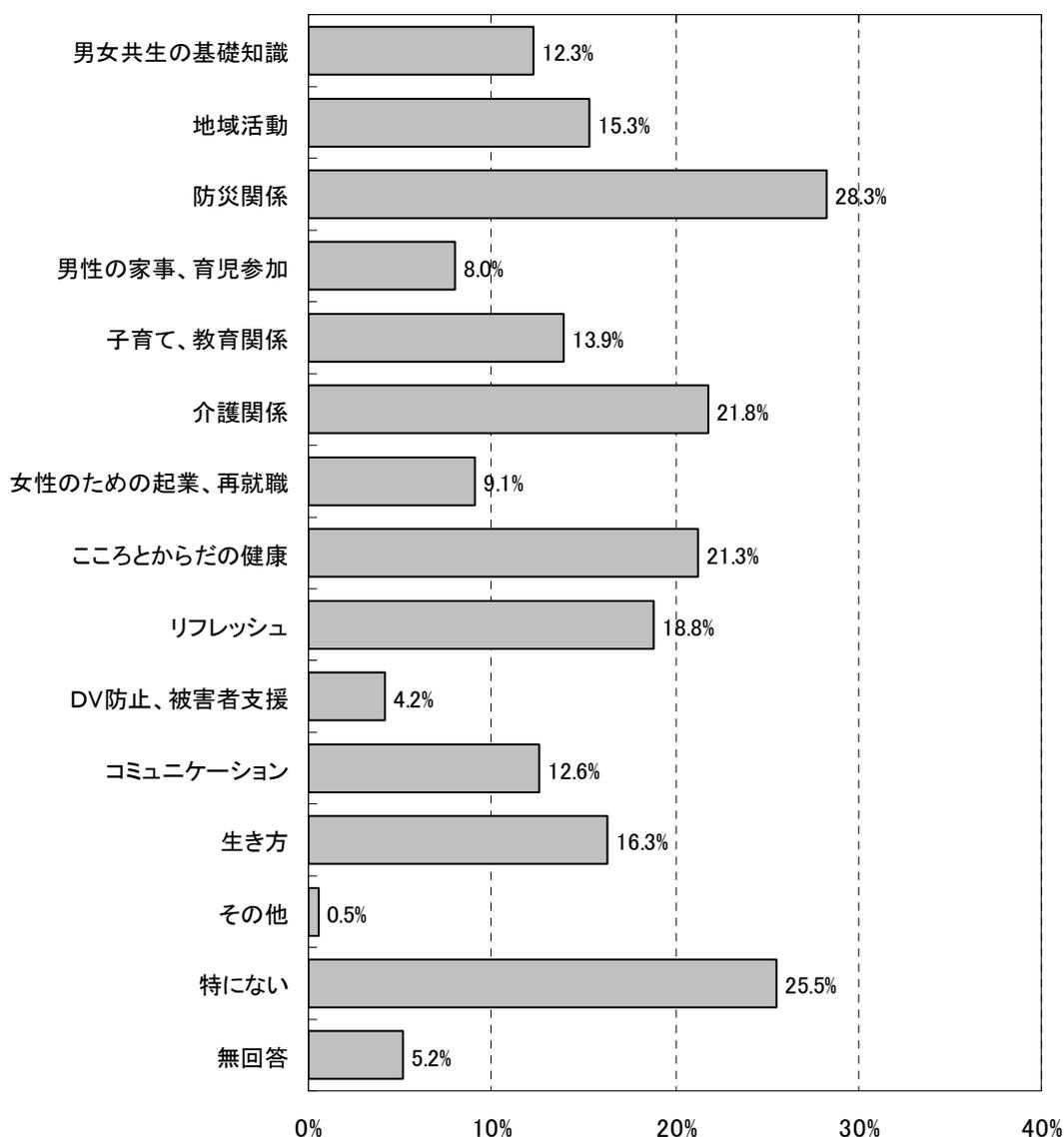


男女共生に関する言葉の認知度（「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」の計）は、「ストーカー規制法」の割合が85.6%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」（84.4%）、「セクシュアル・ハラスメント」（84.1%）の順となっている。

問 34. 男女共生社会に関する講座への興味

本市では、男女共生社会に関する各種講座を行っています。今後、学習・参加してみたい講座のテーマは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 男女共生の基礎知識 | 2. 地域活動 |
| 3. 防災関係 | 4. 男性の家事、育児参加 |
| 5. 子育て、教育関係 | 6. 介護関係 |
| 7. 女性のための起業、再就職 | 8. ころとからだの健康 |
| 9. リフレッシュ | 10. DV防止、被害者支援 |
| 11. コミュニケーション | 12. 生き方 |
| 13. その他 () | 14. 特にない |



市で行う男女共生社会に関する講座のうち興味があるテーマについて、「防災関係」の割合が28.3%と最も高く、次いで「介護関係」(21.8%)、「ころとからだの健康」(21.3%)となっている。「特にない」は25.5%であった。

○性別・年齢別表

		男女共生の基礎知識	地域活動	防災関係	男性の家事・育児参加	子育て、教育関係	介護関係	女性のための起業、再就職	こころとからだの健康
男性・年齢別	20～29歳	21.2	15.2	27.3	33.3	21.2	15.2	6.1	9.1
	30～39歳	15.4	9.2	33.8	18.5	30.8	16.9	6.2	7.7
	40～49歳	8.7	15.9	30.4	7.2	11.6	13.0	0.0	11.6
	50～59歳	14.9	20.7	35.6	10.3	2.3	28.7	0.0	19.5
	60～69歳	17.1	24.3	32.4	9.0	4.5	24.3	1.8	27.0
	70歳以上	18.5	18.5	23.1	6.5	0.9	23.1	0.0	16.7
女性・年齢別	20～29歳	11.9	14.9	31.3	10.4	47.8	14.9	29.9	14.9
	30～39歳	4.5	10.2	34.1	10.2	45.5	17.0	21.6	21.6
	40～49歳	8.4	14.5	36.1	1.2	18.1	27.7	19.3	22.9
	50～59歳	6.0	11.0	21.0	2.0	4.0	26.0	17.0	23.0
	60～69歳	14.5	15.5	19.1	3.6	4.5	20.0	7.3	31.8
	70歳以上	8.5	8.5	22.0	3.7	1.2	25.6	1.2	32.9
		リフレッシュ	DV防止、被害者支援	コミュニケーション	生き方	その他	特にない	無回答	
男性・年齢別	20～29歳	15.2	12.1	18.2	24.2	0.0	36.4	0.0	
	30～39歳	23.1	4.6	7.7	16.9	3.1	24.6	3.1	
	40～49歳	20.3	1.4	11.6	8.7	0.0	44.9	0.0	
	50～59歳	12.6	4.6	9.2	17.2	0.0	23.0	3.4	
	60～69歳	14.4	2.7	10.8	11.7	0.9	27.9	6.3	
	70歳以上	7.4	2.8	11.1	15.7	0.0	28.7	13.0	
女性・年齢別	20～29歳	31.3	7.5	29.9	9.0	0.0	14.9	0.0	
	30～39歳	33.0	4.5	15.9	10.2	0.0	18.2	1.1	
	40～49歳	32.5	3.6	20.5	21.7	1.2	19.3	3.6	
	50～59歳	26.0	2.0	5.0	23.0	0.0	25.0	3.0	
	60～69歳	10.0	3.6	10.9	21.8	0.9	27.3	4.5	
	70歳以上	8.5	6.1	8.5	18.3	0.0	24.4	13.4	

男性の20歳代は「男性の家事・育児参加」(33.3%)、30歳代から60歳代は「防災関係」の割合が高い。40歳代と70歳以上は「特にない」が最も高くなっている。

女性の20歳代と30歳代は「子育て、教育関係」が4割を超え、最も高い。60歳代以上は「こころとからだの健康」が3割を超えている。「特にない」の回答は、各年齢層とも女性より男性の割合が高くなっている。

○性別・年齢別

		配偶者ととも に家事、育 児など	社会活動、 地域活動に 担う	経済的に 自立する	自分の身の 回りのこと ができるよ う生活面で 自立する	仕事と生活 の時間のバ ランスをう まく取る	社会の一員 としての自 覚と責任を 持つ
男性・ 年齢別	20～29歳	72.7	36.4	54.5	57.6	57.6	42.4
	30～39歳	80.0	27.7	33.8	41.5	60.0	33.8
	40～49歳	79.7	36.2	23.2	39.1	59.4	27.5
	50～59歳	67.8	35.6	17.2	36.8	50.6	31.0
	60～69歳	45.9	33.3	21.6	53.2	28.8	42.3
	70歳以上	42.6	27.8	27.8	59.3	16.7	43.5
女性・ 年齢別	20～29歳	79.1	35.8	44.8	52.2	67.2	50.7
	30～39歳	79.5	35.2	46.6	34.1	56.8	27.3
	40～49歳	68.7	42.2	37.3	34.9	54.2	44.6
	50～59歳	57.0	24.0	36.0	37.0	44.0	45.0
	60～69歳	40.0	30.0	36.4	57.3	29.1	48.2
	70歳以上	37.8	20.7	24.4	58.5	24.4	34.1
		子育ての場 合、介護 など、配 偶者の必 要	人権を平 等にする ための努 め	配偶者 とのコミ ュニケー ションを 深める	その他	無回答	
男性・ 年齢別	20～29歳	45.5	36.4	54.5	3.0	3.0	
	30～39歳	26.2	21.5	50.8	1.5	6.2	
	40～49歳	20.3	11.6	49.3	1.4	4.3	
	50～59歳	14.9	20.7	41.4	2.3	4.6	
	60～69歳	10.8	24.3	52.3	0.0	11.7	
	70歳以上	13.0	24.1	47.2	1.9	13.0	
女性・ 年齢別	20～29歳	44.8	17.9	62.7	0.0	1.5	
	30～39歳	37.5	19.3	55.7	0.0	3.4	
	40～49歳	32.5	19.3	53.0	0.0	8.4	
	50～59歳	22.0	24.0	41.0	3.0	4.0	
	60～69歳	12.7	19.1	40.9	2.7	7.3	
	70歳以上	9.8	17.1	45.1	1.2	18.3	

性別・年齢別にみると、男女ともに20歳代から50歳代は「仕事、家事、育児などを配偶者とともに担う」の割合が最も高く、60歳代以上は「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」が最も高くなっている。

問 36. 男女共生社会を推進するための重点的な取組み

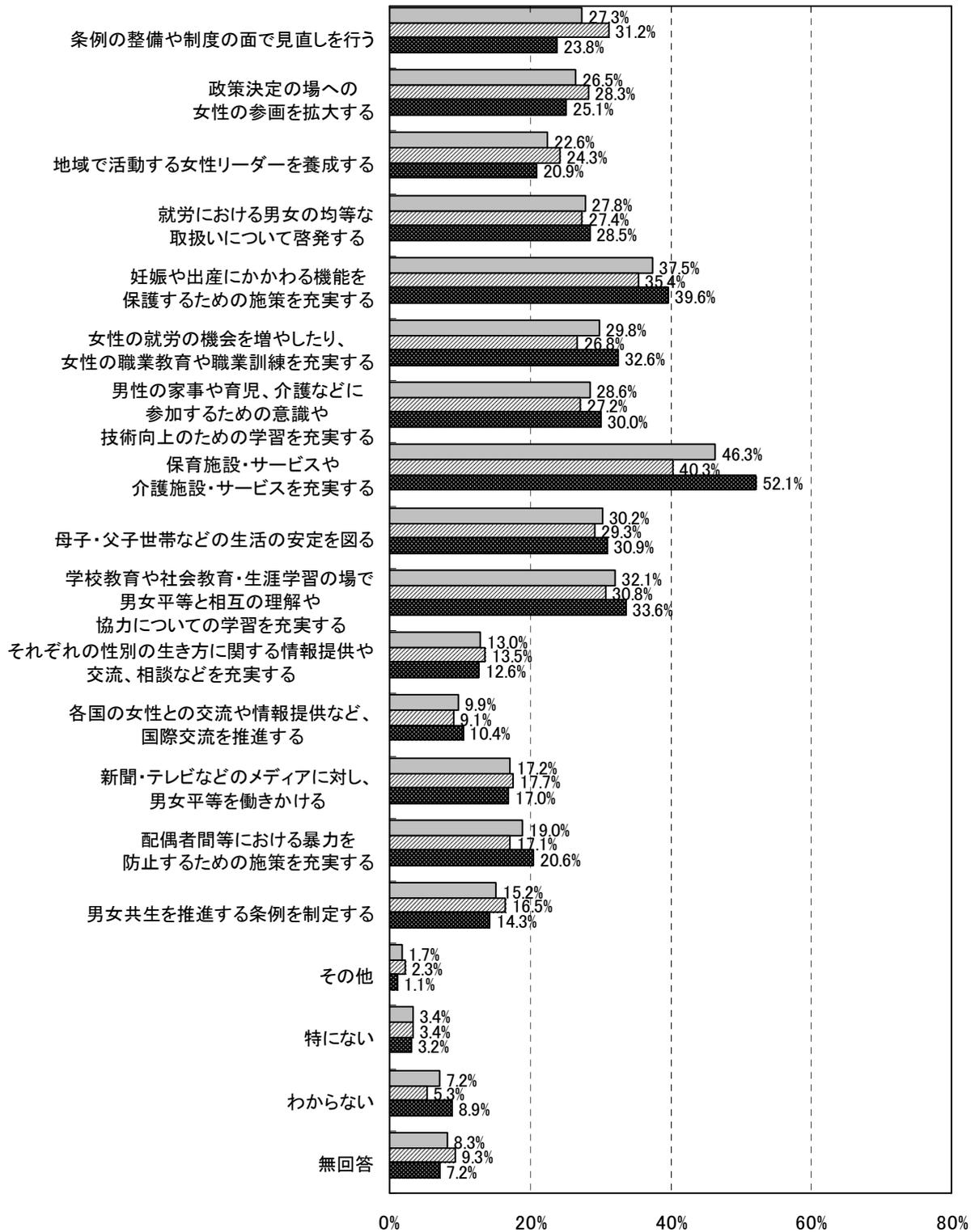
男女共生社会を推進するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

1. 条例の整備や制度の面で見直しを行う
2. 政策決定の場への女性の参画を拡大する
3. 地域で活動する女性リーダーを養成する
4. 就労における男女の均等な取扱いについて啓発する
5. 妊娠や出産にかかわる機能を保護するための施策を充実する
6. 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する
7. 男性の家事や育児、介護などに参加するための意識や技能向上のための学習を充実する
8. 保育施設・サービスや介護施設・サービスを充実する
9. 母子・父子世帯などの生活の安定を図る
10. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
11. それぞれの性別の生き方に関する情報提供や交流、相談などを充実する
12. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
13. 新聞・テレビなどのメディアに対し、男女平等を働きかける
14. 配偶者間等における暴力を防止するための施策を充実する
15. 男女共生を推進する条例を制定する
16. その他 ()
17. 特にない
18. わからない

男女共生社会を推進するための重点的な取り組みとして、「保育施設・サービスや介護施設・サービスを充実する」の割合が 46.3%と最も高く、次いで「妊娠や出産にかかわる機能を保護するための施策を充実する」(37.5%)、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(32.1%)の順となっている。

性別にみると、「保育施設・サービスや介護施設・サービスを充実する」の割合は、男性(40.3%)より女性(52.1%)が11.8ポイント上回っている。「条例の整備や制度の面で見直しを行う」は女性(23.8%)より男性(31.2%)が7.4ポイント上回っている。

□ 全体 □ 男性(n=474) ■ 女性(n=530)



10. 男女共生社会をさらに推進していくためのご意見（自由意見）

「男女共生社会をさらに推進していくため」の意見は、134人の回答者が134件あった。以下のとおり、男女共生社会の施策方針に分類した。

1. 男女共同参画社会に向けた施策
2. 政策・方針決定過程への女性の参画
3. 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革
4. 男性、子どもにとっての男女共同参画
5. 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保
6. 男女の仕事と生活の調和
7. 様々な状況により生活上の困難に直面する男女への支援
8. 生涯を通じた女性の健康支援
9. 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実
10. アンケートについて

1. 男女共同参画社会に向けた施策

○相談窓口の充実をお願いします。ネットやメールを含め、和歌山市でも休日や夜間でも相談を受け付けがあれば良いと思います。

[類似意見3件、女性からのご意見]

○和歌山市は県庁所在地としては、他県と比較して、男女共生参画政策は遅れていると思います。

[類似意見3件、主に女性からのご意見]

○男女共生推進センターに市民が集まる工夫（男女共生の総合窓口として市民への周知も含む）をし、より一層啓発を進めていく必要があると思います。

[類似意見5件、主に男性からのご意見]

2. 政策・方針決定過程への女性の参画

○女性の意見をよく聞き、政策を立案すべきと考えます。

[類似意見5件、男性からのご意見]

○和歌山市の場合、これまで女性の市長、助役等の前例がありません。知事にしても同じです。前例にとらわれず、今後、幹部、市議会議員等に女性を登用してはいかがですか。

[70歳以上、女性からのご意見]

3. 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革

○男女ともに、互いに尊重し、思いやることが大事だと思います。

[類似意見 15 件]

○男女の良いところを生かし、平等になっても同じになる必要はないと思います。

[40 歳代、男性からのご意見]

○法的には平等でも、男女の今までの考え方や意識革命が必要です。職場、地域が一体となって取り組んでいく課題だと思います。

[類似意見 12 件、主に女性からのご意見]

○昔は男女共生社会など考えられませんでした。今は素晴らしいと思います。さらに推進して欲しいと思います。

[類似意見 2 件、60 歳代以上からのご意見]

○男女平等にこだわりすぎないのが大切だと思います。

[類似意見 6 件、主に男性からのご意見]

○最近男女の差はほとんどなく、女性の方が優遇されている面も多々あると思います。

[類似意見 4 件、20 歳代・30 歳代からのご意見]

○すべての事に男は男らしく、女は女らしく、いいところを性的に認め合い暮していければいいとおもいます。

[類似意見 4 件、主に女性からのご意見]

4. 男性、子どもにとっての男女共同参画

○男性も子育てや家事にもっと係わるべきだと思います。

[類似意見 2 件]

○男性が子育てしやすい社会、職場をつくっていくべきだと思います。

[類似意見 4 件、主に男性からのご意見]

5. 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保

○女性が社会に進出している外国から学ぶべきことがあると思います。

[類似意見 3 件、主に 60 歳代からのご意見]

○職場での各休業制度を取得できるよう推進していくことが重要です。

[類似意見 5 件]

○女性が出産や子育てで仕事を退職せずに、多様な働き方ができるということが重要だと思います。

[類似意見 7 件、主に女性からのご意見]

○国、市が率先して企業へ男女が平等に仕事を続けることができるよう仕組みづくりをお願いします。

[類似意見 5 件、主に男性からのご意見]

○男女ともに雇用の充実と賃金の引き上げを図って欲しいです。

[類似意見 3 件、男性からのご意見]

○制度面の見直しは、時代に合わせて変革していくべきだが、男女それぞれの職・生活に対する自覚と責任が根本であり、ジェンダーという言葉にとらわれすぎない方がいいと思います。

[類似意見 2 件]

6. 男女の仕事と生活の調和

○仕事と家事・育児の両立をしていくには、保育料が高く負担となっています。

[類似意見 2 件]

○仕事と子育ての両立のために支援をお願いします。

[類似意見 5 件]

○子どもが5歳くらいまでは、どちらかの親が一日中、一緒にいることが望ましいと思います。

[40歳代、男性からのご意見]

○家庭では家族を思いやり、社会においても自分たちのことだけでなく、助け合いの気持があればいいと思います。

[類似意見 2 件、女性からのご意見]

7. 様々な状況により、生活上の困難に直面する男女への支援

○男女共生計画よりも、社会保障に頼らないよう市民が元気で働いていくことが重要だと思います。

[類似意見 2 件]

8. 生涯を通じた女性の健康支援

○妊婦のための医療保障の充実を少子化対策として取り組んで欲しいです。

[類似意見 2 件、女性からのご意見]

9. 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実

○子どもの頃から男女平等についての教育をすることが大切だと思います。

[類似意見 11 件、主に女性からのご意見]

○男女共生ばかりにとらわれず、小さいときからコミュニケーション能力を高める教育が必要だと思います。

[40歳代、女性からのご意見]

10. アンケートについて

○アンケートの回答が難しく、内容の検討をお願いします。

[類似意見 9 件]

○男女共生に関する言葉の設問は、横文字ばかりで難しく思いました。

[類似意見 2 件]

○この調査をもとに第 3 次計画が、より多くの女性に役立つ計画となるようお願いします。

[類似意見 5 件、主に女性からのご意見]

Ⅲ. 調査結果の概要

1. 男女平等について

男女の地位の平等については、女性は「男性が優遇されている」と思う割合が高いが、男性は「平等である」と思う割合が女性よりも高く、女性より男性の平等意識が高い傾向にある。

男女の性別役割分担意識として、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、女性は賛成の割合より反対の割合が上回っているが、男性は反対の割合より賛成の割合が上回っている。社会的に離婚をすると男性よりも女性の方が不利であるとする割合が高い。「女性の仕事と家事・育児をすべきである」と思う割合（55.4%）より「男女とも仕事と家事・育児・介護などを両立すべきである」と思う割合（79.8%）が上回り、男性は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の賛成の割合は高いが、「男女ともに仕事と家事等への両立すべき」にも賛成の割合が高く、男性の家事等への参加意識がみられる。

ワーク・ライフ・バランスの理想としては、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活」を優先の割合が高く、現実には「仕事」を優先している結果となっている。現実の「仕事と家庭」を優先している男女の割合はほぼ変わらない。また、男性のワーク・ライフ・バランスを図るために必要なこととして「家族と過ごす時間を大切にする」の割合が最も高いことから、男女ともに家庭を中心とした生活を意識していると思われる。

《まとめ》

現状を、男性は「男女平等である」と思っている人が多いが、女性は「男女平等でない」と思っている人が多く、男女の意識に差があることがうかがえる。

男性は「男性は仕事、女性は家庭」という考え方が多く、また、女性が仕事を持つことは賛成するが、家事・育児もするべきと思っている。女性は「男性は仕事、女性は家庭」という考え方が少ない。このことから、男性は女性に比べ、固定的性別役割分担意識が高い傾向であるため、男性の固定的性別役割分担意識を解消していくことが必要と思われる。

男女ともに、理想は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」したいとしているが、現実では「仕事を優先」している人が多いなど、理想に反して現実との差が生じている。そのため、男女ともに理想の生活を実現していくためには、ワーク・ライフ・バランスについて考えることが必要である。

2. 高齢期について

高齢期への不安として、健康面と経済的な不安の割合が高く、「健康で過ごせるか」では50歳代以上、「経済的にやっていけるか」では40歳代以下の割合が高い。社会的背景にある少子高齢化や終身雇用制度、社会保障制度への不安を反映しているとみられる。

高齢期の過ごし方としては、女性より男性が「働くこと」の意識が高く、「学習や教養を高めるための活動」は男性より女性が高いものの、「趣味の活動やスポーツ、旅行」は男女ともに高い。「孫など家族との団らん」や「夫婦・カップルでの団らん」より「趣味の活動やスポーツ、旅行」の過ごし方の意識が高く、高齢期を外向的に過ごす傾向となっている。

介護が必要になった場合の介護者については、「配偶者（『夫・妻』の計 38.3%）」と親族以外の介護関連事業者（『介護施設に入所・ホームヘルパー等』の計 37.9%）」が高い。また、親族については男性（『父・兄弟・夫・息子』の計 14.8%）より女性（『母・姉妹・妻・娘・息子の妻』の 43.4%）を希望している。介護者は女性が望まれているが、介護関連事業者への希望も高いことから、核家族化による高齢者の孤立が考えられる。

《まとめ》

高齢期の問題として、少子高齢化による社会保障問題や晩婚による出生率の低下などにより、これまでは家族で介護をすることが当然のようにされてきたが、回答では「介護関連事業者」による介護の希望も高く、家族への依存が減少している傾向となっており、高齢期においても自立した生活への意識が高くなっている。

今後、自立した生活を送るためには、介護制度だけでなく、高齢期を迎えるまでに地域活動や社会活動に参加するなど、地域でのコミュニティづくりをすることが重要となっている。

3. 家庭生活、子育てについて

男性が積極的に家事等へ参加していくために必要なこととして、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」と「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」の意識が高くなっていることから、まずは、男性の意識改革が必要であると考えられる。

女性が子どもを産むことについて、全体的には「夫婦・パートナー同士がよく話し合って決めるべきである」意向が高く、「女性の意向を尊重すべきである」意向は女性より男性が高い。男性より女性の方が「夫婦・パートナー同士がよく話し合って決めるべきである」意向は高くみられるが、60歳代以上は「自然のなりゆきにまかせるのがよい」意向も高い。

子どもの育て方について、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」の考え方は賛成の割合が高いものの、男女ともに「経済的自立や家事・育児をできるように育てる」、「性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい」の考え方にも賛成の割合が高い。男女ともに性別役割分担は平等にできるように育てる考え方に賛成する割合が高い。

《まとめ》

女性の就業人口が増加傾向にある中、子育てだけでなく、子どもを産むことも男女ともに話し合うことが必要である。また、子どもの育て方については、性別にこだわらず、経済的自立や家事育児をできるように育てていく意向が高くなっていると考えられる。

4. 就労について

女性が職業をもつことへの理想と現実では、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事」の割合がともに高くなっている。理想としてフルタイム（「仕事は定年まで続ける」と「子育ての時期に一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」の計）で仕事を続ける割合は 46.4%となっているが、現実には 26.6%と 19.8 ポイント下回っている。仕事をもたない割合（「結婚したら仕事はやめる（やめた）」と「仕事はもたない（もっていない）」の計）は、理想（5.4%）より現実（21.4%）は 16.0 ポイント上回っている。フルタイムで仕事をもち続けることが難しいことがうかがえる。

女性の職業をもち続けていく上での問題として、「家事や育児・介護の両立は難しい」、「産前産後休業や育児・介護休業、再雇用などの制度の浸透が不十分である」と思う割合は男女ともに高い。また、「配偶者や家族の支援がない」と思う割合は男性より女性の割合が高く、「保育施設・介護施設の数や内容が不十分」と思う割合は女性より男性の割合が高い。女性が職業を持ち続けていく問題の「家事や育児・介護の両立は難しい」と思われる原因として、制度や施設の充実が求められていると考えられる。

進路や職業を選択する際の性別の意識について、「性別を意識せずに選択した」割合は高くなっているが、男性より女性は「性別を意識して選択した」割合が高くなっている。「性別をほとんど意識せずに選択した」割合は30歳代以下の女性が高く、男女雇用機会均等法（1986年4月）の施行以降に教育を受けている世代は、性別への意識が低いことがみられる。

就労について性別による差があると思うこととして、「女性が優遇されている」割合は「育児・介護休業などの休暇が取得しやすい」のみで、その他の項目は「男性が優遇されている」割合が高い。性別にみると女性より男性が「平等である」割合が高い。就労について、女性は男性が優遇されているという意識が高く、男性は女性より平等意識が高い結果となっている。

男女が対等に働くために必要なこととして、「男女ともに能力を發揮できる配置を行う」と「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」、「男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする」の割合が高い。また、男性の休業や休暇の取得については、男性より女性が「取得した方がよい」とする割合が高い。男性が「取得しない方がよい」に賛成した理由として、「職場の理解が得られない」と「仕事の評価や配属に影響する」の割合が高くなっている。男女が対等に働くためには、男性はもとより、男女ともに休業や休暇を取得しやすくなる職場の理解が課題と考えられる。

《まとめ》

就労における男女の格差は、男性より女性のほうが格差を感じている意識が高い。女性は結婚や出産等により、男性に比べ離職率が高いため、女性が仕事を持ち続けていくためには、育児休暇や介護休暇等が取得しやすい職場環境や法制度の整備が必要である。男性の休業・休暇制度の取得についても職場の理解が課題となっている。

5. 防災意識について

東日本大震災後の防災活動への参加率は、女性より男性の割合が高く、参加した防災活動は「防災訓練」が最も高い。「防災訓練」は男性より女性の割合が高いが、「防災関係の講座や研修会」、「消防団・防火クラブ等」、「市民防災大学」は女性より男性が高い。

避難所においての性別に配慮した取り組みに必要なこととして、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」と「性別に配慮した備蓄品の備え」の割合が高い。避難所の運営面の項目より設備面の充実を図ることが必要とされている。

《まとめ》

東日本大震災後、防災活動や避難所の運営面などへの女性の参加が必要とされている中、防災訓練以外の女性の参加の割合は低い。また、避難所の運営面の女性の参加も高いとはいえ、今後は、女性の防災意識を高めていくことが必要となっている。

6. 地域活動について

ボランティア・NPOなどの社会活動、自治会・PTAなどの地域活動への参加については、「参加したことがある」割合（「現在、参加している」と「以前、参加したことがある」の計）は「自治会・町内会の活動」（43.0%）と「PTA・子ども会の活動」（38.6%）が高い。「今後は参加したい」割合は、「ボランティア活動」や「趣味・スポーツ・教養等のグループ活動」が高い。現在は、地域活動への参加は高く、今後の意向としては社会活動への参加を希望している割合が高い。

参加するときの問題として、4割が「仕事」と回答しており、女性は「家事」や「子育て」の割合が男性より高い。また、「どんな活動があるのか分からない」の割合も高い。

《まとめ》

地域活動よりも社会活動に参加の意向が高いことから、地域活動への理解を広めていくことや活動内容の周知が必要と考えられる。

社会活動や地域活動に参加できない理由は、男性は仕事が5割を超え、女性は家事・子育て・介護で4割を超えていることから、男女ともに参加できるようワーク・ライフ・バランスの推進が課題となっている。

7. DV（ドメスティック・バイオレンス）について

配偶者や交際相手からの行為で暴力だと思うことについて、「なぐったり、けったりする」や「物をぶつける」など身体的な暴力行為の割合は高いが、「人と会うことや外出などを制限する」や「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」などの社会的・精神的・経済的な暴力行為は低い。

配偶者や交際相手から受けた暴力行為について、「暴力行為があった」割合は男性より女性が高い。また、暴力行為があったと答えた回答者の相談先は、「家族・親戚」、「友人」の割合が高くなっているが、「何もしなかった」の割合は5割を超えている。「何もしなかった」理由は、「誰に相談すればよいか分からなかった」は少なく、「相談するほどのことではないと思った」が最も多い。「相談するほどのことではないと思った」の回答は、社会的・精神的・経済的な暴力行為を受けている回答者が多い。

配偶者や交際相手から暴力を受けたときの相談窓口としては、「警察」の認知度が最も高く7割を占めている。その他の窓口は2割以下となり「相談窓口として知っているところはない」は1割を超えている。警察以外の窓口の周知が必要となっている。

配偶者や交際相手から暴力を受けたときの必要な助けは、「一時的に加害者から逃れる場所の提供」と「親身になって、相談に応じてくれるところ」の割合が高い。

男女間の暴力を防止するために進める取り組みの必要なこととして、「法律の罰則を強化する」の割合が高い。女性は「被害を受けた場合に避難できる場所を確保する」や「相談できるところを増やす」の割合も高く、暴力を受けたときの必要な助けの回答と求められているものが同じ傾向となっている。

《まとめ》

配偶者や交際相手からの暴力行為として身体的なものの認識はあるが、社会的・精神的・経済的なものの認識が低い。

DVの被害が身体的暴力だけでなく、社会的・精神的・経済的なことでも暴力に含まれるという意識付けが必要であり、幼少期からの家庭や学校等での教育が重要と思われる。

また、DV被害を受けたときの支援として、一時避難所や相談窓口の充実が求められていることから、早期発見、早期対処できる体制づくりが必要となっている。

8. 男女共生社会について

男女共生に関する言葉の認知度は、「ストーカー規制法」や「男女雇用機会均等法」など法律にかかわる言葉は高く、法律に関わる言葉以外の言葉は「セクシュアル・ハラスメント」以外は低い。

男女共生社会に関する講座で興味のあるテーマとして、「子育て、教育関係」は30歳代以下、「防災関係」は40歳代と50歳代、「こころとからだの健康」は60歳代で割合が高く、70歳以上は「特になし」が高い。年齢層により興味のある講座のテーマの偏りがみられる。

男女共生を推進するために個人として取り組めることで、50歳代以下は「仕事、家事、育児など配偶者とともに担う」、60歳代以上は「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」が女性より男性の割合がやや高くなっている。男性自身が家事等への参加や配偶者に頼らずに高齢期を過ごそうとする意識も高い。

男女共生社会を推進するために力を入れていくべきこととして、「保育施設・サービスや介護施設・サービスを充実する」や「妊娠や出産にかかわる機能を保護するため施策を充実する」の割合が高く、男女ともに就労を継続していくために必要なことが求められている。また、「学校や社会教育等の場で、男女平等についての理解や協力を学ぶ機会を充実する」と「母子、父子家庭の生活の安定」が男女ともに3割の回答があり、男女平等意識の啓発とともに社会保障面での平等が求められている。

《まとめ》

男女共生社会への取り組みの意識は男女ともに高く、子育て、介護、健康、教育、母子・父子家庭対策、女性の就労など多岐にわたる分野の関連部署と連携し、施策の展開を図っていくことが必要と考えられる。男女共生社会を推進するためには、庁内の関連各課と連携することが重要となっている。

IV. 語句の解説

問 22. 男性の休業や休暇の取得について(P37)

少子化の流れを変え、男女ともに子育てや介護をしながら、働き続けることができる社会を目指して、**育児・介護休業法が改正**されました。

育児休業制度：育児のために一定期間休業できる制度

子の看護休暇制度：病気等の子どもの看護のために年 5 日程度の休暇を取得することができる制度

介護休業制度：介護のための一定期間休業できる制度

介護休暇制度：短期の介護のための年 5 日程度の休暇を取得することができる制度

問 29～32. DV（ドメスティック・バイオレンス）について（P46～56）

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

配偶者等の親しい間でふるわれる暴力のことをいいます。「なぐる」、「ける」といったような身体的暴力だけではなく、「外出をさせない」「無視する」「暴言をはく」「望まない性行為を強要する」など様々な暴力があります。

DVは、力の差を背景に、相手を思い通りに支配するものです。

平成 23 年度内閣府の「男女間における暴力に関する調査」では、配偶者からの「身体的暴行」、「心理的攻撃」、「性的強要」のいずれかを一つでも受けたことのある割合は、女性が 32.9%、男性は 18.3%の結果となっています。

問 33. 男女共生に関する認知度（P57）

ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和、一人ひとりがやりがいや充実感をもちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できること。

ポジティブ・アクション

雇用の場における事実上の男女格差の解消を目指して、女性の能力発揮を促進し、その活用をはかる積極的な取り組みのこと。

ジェンダー

「女らしさ、男らしさ」といった社会的・文化的側面から見た性別のこと。

エンパワーメント

直訳すると「力をつけること」。女性が自分自身の生活と人生を決定する権利と能力をもち、さまざまなレベルの意思決定過程に参画し、また主体的な立場で、社会的・経済的・政治的な状況を変えていく力を持つこと。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

性と生殖において、人間が生涯にわたって自分の健康を主体的に確保することをめざそうという概念のこと。

メディア・リテラシー

メディアの内容を読み解き・活用し、メディアを使って表現する能力のこと。

セクシュアル・ハラスメント

職場または教育現場において、相手の望まない性的な言動または性差別的な意識に基づく行動によって、相手方に不利益を与えたり、不快感を与えて、就学就労や教育研究環境を悪化させること。

デートDV

主に恋人間でおこるDVのこと。

V. 調査票

●あなたご自身についておたずねします

※以下の問いにあてはまるものを1つだけ○印

問1. 性別

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2. 年齢

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 | 4. 50～59歳 |
| 5. 60～69歳 | 6. 70歳以上 | | |

問3. 現在の職業、勤務形態

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| 1. 会社員（正社員） | 2. 自営業 |
| 3. 農林水産業 | 4. 公務員（正職員） |
| 5. パート・アルバイト、派遣等の非正規社員（職員） | |
| 6. 専業主婦・主夫 | 7. 学生 |
| 8. 無職 | 9. その他（ ） |

問4. 結婚について

- | |
|----------------------------------------------|
| 1. 結婚している又は※パートナーがいる ※パートナー：事実婚の状態と共に暮らしている方 |
| 2. 配偶者と離・死別した |
| 3. 結婚していない |

問4-1. 問4で「1」と回答された方のみお答えください。2人とも働いていますか。

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 共働きである | 2. 自分のみ働いている |
| 3. 配偶者・パートナーのみ働いている | 4. どちらも働いていない |

問5. 現在同居している家族構成

- | | |
|--------------------------------|---------------|
| 1. 単身（ひとり暮らし） | 2. 1世代（夫婦だけ） |
| 3. 2世代（親と子） | 4. 3世代（親と子と孫） |
| 5. その他（ ） | |



●男女共生についておたずねします

問6. 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
④自治会などの地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体では	1	2	3	4	5	6

問7. 「結婚」や「家庭」についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	思う	どちらかといえば思う	どちらかと思わない	思わない	わからない
①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
②結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
③結婚しても相手に満足できないときは、離婚すればよい	1	2	3	4	5
④社会的に、離婚すると女性の方が不利である	1	2	3	4	5
⑤社会的に、離婚すると男性の方が不利である	1	2	3	4	5
⑥女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をすべきである	1	2	3	4	5
⑦男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである	1	2	3	4	5

問 11. 高齢期について特に不安に思うことはどのようなことですか。

(2つまでに○印)

1. 生きがいを見つけられるか	2. 健康で過ごせるか
3. 一人になったときの孤独	4. 経済的にやっていけるか
5. 病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか	
6. 介護保険・社会保険制度が不十分	
7. 何となく不安がある	8. その他 ()
9. 特に不安はない	10. 今は考えていない

問 12. 高齢期をいきいきと送るためにやってみたいことはありますか。(高齢者の方は、現在行っていること)(あてはまるものすべてに○印)

1. 働くこと	2. 学習や教養を高めるための活動
3. 趣味の活動やスポーツ、旅行	4. 世代間交流(若い世代との交流)
5. ボランティア活動	6. 地域の老人クラブ活動
7. 自治会・町内会の活動	8. 孫など家族との団らん
9. 夫婦・カップルでの団らん	10. その他 ()
11. 特にない	

問 13. もし、介護が必要になった場合、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。

(1つだけに○印)

1. 父	2. 母	3. 兄弟	4. 姉妹	5. 夫
6. 妻	7. 息子	8. 娘	9. 息子の妻	10. 娘の夫
11. ホームヘルパー等	12. 介護施設に入所			
13. その他 ()				

問 14. 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

1. 男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性の家事・地域活動などへの参加に対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する
5. 社会の中で、男性による家事・地域活動などへの参加に対する評価を高める
6. 労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
7. 男性の家事・地域活動に対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行う
8. 研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高める
9. 男性が家事・地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめる
10. 男性が、家庭や地域活動と仕事の両立等の問題を相談しやすい窓口を設ける
11. その他 ()
12. 特に必要なことはない

問 15. 女性が子どもを産むことについて、どのように思いますか。

(1 つだけに○印)

1. 女性の意向を尊重すべきである	
2. 男性の意向を尊重すべきである	
3. 夫婦・パートナー同士がよく話し合って決めるべきである	
4. 夫婦・パートナー以外の家族の意向も取り入れて決めるべきである	
5. 自然のなりゆきにまかせるのがよい	
6. わからない	
7. その他 ()	

問 16. 子どもの育て方についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に 1 つだけ○印)

	思 う	思 う ど ち ら か と い え ば	思 わ な い ど ち ら か と い え ば	思 わ な い	わ か ら な い
①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい	1	2	3	4	5
②女の子は経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
③女の子は家事・育児ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
④男の子は経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑤男の子は家事・育児ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
⑥性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい	1	2	3	4	5
⑦3歳までは母親が子育てに専念した方がよい	1	2	3	4	5
⑧親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい	1	2	3	4	5



問 19. 進路や職業を選択する際に、あなた自身は性別を意識しましたか。

(1 つだけ○印)

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 性別をかなり意識して選択した 2. どちらかといえば性別を意識して選択した 3. どちらかといえば性別を意識せずに選択した 4. 性別をほとんど（全く）意識せずに選択した 5. わからない |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問 20. 就労について、性別による差があると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に 1 つだけ○印)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①募集・採用	1	2	3	4	5	6
②賃金	1	2	3	4	5	6
③仕事の内容	1	2	3	4	5	6
④昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
⑤管理職への登用	1	2	3	4	5	6
⑥能力評価（業績評価・人事考課など）	1	2	3	4	5	6
⑦研修の機会や内容	1	2	3	4	5	6
⑧育児・介護休業などの休暇が取得しやすい	1	2	3	4	5	6

問 21. 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の雇用機会を拡大する 2. 賃金、昇給の男女の格差をなくす 3. 男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める 4. 男女ともに、能力を発揮できる配置を行う 5. 男女ともに、教育・研修の機会を充実する 6. 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる 7. 男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする 8. 職場におけるセクシュアル・ハラスメントをなくす 9. 職場において男女が対等であるという意識を普及させる 10. 女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める 11. その他（) 12. わからない |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

問 22. 男性が、休業や休暇を取得することについてどう思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に 1 つだけ○印)

	よ い 取 得 し た 方 が	ど ち ら か と い え ば 取 得 し た 方 が よ い	ど ち ら か と い え ば 取 得 し な い 方 が よ い	取 得 し な い 方 が よ い
①育児休業	1	2	3	4
②子の看護休暇	1	2	3	4
③介護休業	1	2	3	4
④介護休暇	1	2	3	4



少子化の流れを変え、男女ともに子育てや介護をしながら、働き続けることができる社会を目指して、**育児・介護休業法が改正**されました。

育児休業制度：育児のために一定期間休業できる制度

子の看護休暇制度：病気等の子どもの看護のために年 5 日程度の休暇を取得することができる制度

介護休業制度：介護のための一定期間休業できる制度

介護休暇制度：短期の介護のための年 5 日程度の休暇を取得することができる制度

問 22-1. 問 22 で 1 つでも「3」、または「4」と回答された方のみお答えください。

「取得しない方がよい」と思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1. 経済的に苦しくなる	2. 職場の理解が得られない
3. 仕事の評価や配属に影響する	4. 育児や介護は女性がするべきである
5. 男性が育児や介護の地域ネットワークに参加しにくい	
6. 男性は育児・介護になれていない	7. 周囲に取得した男性がいない
8. その他 ()	

問 23. 社会的に、多様な分野で女性の参画を増やすことが重要な課題となっています。

今後、女性の採用や登用で増やした方がよいと思う職業や役職は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1. 都道府県、市(区)町村の首長	
2. 国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員	
3. 国家公務員・地方公務員の管理職	4. 裁判官、検察官、弁護士
5. 大学教授	6. 学校長
7. 国連などの国際機関の管理職	8. 企業の管理職
9. 起業者・経営者	10. 労働組合の幹部
11. 自治会長、町内会長等	12. 特にない
13. わからない	14. その他 ()

問 24. 東日本大震災（平成 23 年 3 月 11 日）後、防災活動に参加したことがありますか。

1. 参加したことがある	2. 参加したことがない
--------------	--------------

問 24-1. 問 24 で「1.参加したことがある」と回答された方のみお答えください。

参加したことの防災活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

1. 防災訓練 2. 防災関係の講座や研修会 3. 消防団・防火クラブ等 4. 市民防災大学 5. その他（	）
--------------------------------------------------------------------	---

問 25. 避難所において、男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。

（あてはまるものすべてに○印）

1. 避難所の運営に、男女の責任者の配置 2. 男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置 3. 性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品等）の備え 4. 備蓄品（下着・生理用品等）の配布時に配慮した担当者の配置 5. 性別に配慮した交流の場の設置 6. 男女のニーズに配慮した相談体制 7. 女性や子どもへの暴力を防止するための防犯対策 8. その他（	）
9. 特にない 10. わからない	

問 26. 社会活動、地域活動への参加についてお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に 1 つだけ○印）

	している 現在、参加	したい 今後は参加	ない 参加したく	ある 以前、参加
①県・市の審議会・委員会の委員	1	2	3	4
②自治会・町内会の活動	1	2	3	4
③PTA・子ども会の活動	1	2	3	4
④青年団体・女性団体・高齢者団体等の活動	1	2	3	4
⑤消費者団体等の活動	1	2	3	4
⑥趣味・スポーツ・教養等のグループ活動	1	2	3	4
⑦国際交流に関する活動	1	2	3	4
⑧自然環境保護に関する活動	1	2	3	4
⑨まちづくり等の市民活動	1	2	3	4
⑩社会福祉に関する活動	1	2	3	4
⑪ボランティア活動	1	2	3	4

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

配偶者等の親しい間でふるわれる暴力のことをいいます。「なぐる」、「ける」といったような身体的暴力だけではなく、「外出をさせない」「無視する」「暴言をはく」「望まない性行為を強要する」など様々な暴力があります。

DVは、力の差を背景に、相手を思い通りに支配するものです。

平成23年度内閣府の「男女間における暴力に関する調査」では、配偶者からの「身体的暴行」、「心理的攻撃」、「性的強要」のいずれかを一つでも受けたことのある割合は、女性が32.9%、男性は18.3%の結果となっています。

問29-1. 問29で1つでも「1」、または「2」と回答された方のみお答えください。

あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|------------|--------------|-----------|
| 1. 家族・親戚 | 2. 友人 | 3. 警察 |
| 4. 弁護士 | 5. 医師・カウンセラー | 6. 市や県の窓口 |
| 7. 何もしなかった | 8. その他 () | |

問29-2. 問29-1で「7. 何もしなかった」と回答された方のみお答えください。

あなたが、打ち明けたり、相談しなかった理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1. 誰(どこ)に相談してよいか分からなかった | |
| 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった | |
| 3. 相談しても無駄だと思った | |
| 4. 相談したことが分ると、仕返しを受けると思った | |
| 5. 経済的な理由により、我慢しなければいけないと思った | |
| 6. 相談した相手の言動が、逆に不快感を増すことになると思った | |
| 7. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った | |
| 8. 世間体が悪いと思った | 9. 他人を巻き込みたくなかった |
| 10. 自分が悪いと思った | |
| 11. そのことを思い出したくなかった | 12. 相談するほどのことではないと思った |
| 13. その他 () | |

問30. 配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けた時に相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------|
| 1. 警察 | 2. 法務局、人権擁護委員、民生児童委員 |
| 3. 配偶者暴力相談支援センター(県子ども・女性・障害者相談センター) | |
| 4. 和歌山市男女共生推進センター“みらい” | |
| 5. 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる” | |
| 6. 県庁、県振興局 | 7. 市役所 |
| 8. 医師その他医療関係者 | 9. 相談窓口として知っているところはない |
| 10. その他 () | |

問 31. 男女間で、相手から暴力を受けた時にどのような助けが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | | |
|--------------------------------|---|-----------|
| 1. 一時的に加害者から逃れる場所の提供 | | |
| 2. 警察官などによる介入 | | |
| 3. 親身になって、相談に応じてくれるところ | | |
| 4. 経済的自立のための就職の斡旋 | | |
| 5. 加害者から離れて暮らすため、とりあえず必要なお金の貸与 | | |
| 6. 自分自身・自分と子どもの心のケア | | |
| 7. 同じような悩みを抱えた人たちとの対話 | | |
| 8. 加害者に対する責任追及（損害賠償など） | | |
| 9. 加害者への教育（暴力防止など） | | |
| 10. その他（ | ） | 11. わからない |

問 32. 男女間の暴力を防ぐために、もっと取り組みを進める必要があると思うことは何ですか。

(2つまでに○印)

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1. 法律の罰則を強化する | 2. 相談できるところを増やす |
| 3. 市民に対する啓発や情報提供を行う | 4. 加害者に対する啓発を行う |
| 5. 被害を受けた場合に避難できる場所（シェルター）を確保する | |
| 6. 男性も女性も経済的に自立する | 7. 子どもの時から暴力否定の教育を進める |
| 8. その他（ | 9. わからない |

問 33. あなたは、男女共生に関する言葉を知っていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	るも言 知っも て内 い容	い容て言 はいるは 知らが知 な内っ	も言 知らも ない内 容
①男女共同参画社会基本法	1	2	3
②和歌山市男女共生推進行動計画	1	2	3
③女子差別撤廃条約	1	2	3
④男女雇用機会均等法	1	2	3
⑤育児・介護休業法	1	2	3
⑥DV防止法	1	2	3
⑦ストーカー規制法	1	2	3
⑧ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
⑨ポジティブ・アクション	1	2	3
⑩ジェンダー	1	2	3
⑪エンパワーメント	1	2	3
⑫リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3
⑬メディア・リテラシー	1	2	3
⑭セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
⑮デートDV	1	2	3

この機会に、男女共生に関する言葉を少し、勉強・・・

ワーク・ライフ・バランス：仕事と生活の調和、一人ひとりがやりがいや充実感をもちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できること。

ポジティブ・アクション：雇用の場における事実上の男女格差の解消を目指して、女性の能力発揮を促進し、その活用をはかる積極的な取り組みのこと。

ジェンダー：「女らしさ、男らしさ」といった社会的・文化的側面から見た性別のこと。

エンパワーメント：直訳すると「力をつけること」。女性が自分自身の生活と人生を決定する権利と能力をもち、さまざまなレベルの意思決定過程に参画し、また主体的な立場で、社会的・経済的・政治的な状況を変えていく力を持つこと。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：性と生殖において、人間が生涯にわたって自分の健康を主体的に確保することをめざそうという概念のこと。

メディア・リテラシー：メディアの内容を読み解き・活用し、メディアを使って表現する能力のこと。

セクシュアル・ハラスメント：職場または教育現場において、相手の望まない性的な言動または性差別的な意識に基づく行動によって、相手方に不利益を与えたり、不快感を与えて、就学就労や教育研究環境を悪化させること。

デートDV：主に恋人間でおこるDVのこと。



問 34. 本市では、男女共生社会に関する各種講座を行っています。今後、学習・参加してみたい講座のテーマは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 男女共生の基礎知識 | 2. 地域活動 |
| 3. 防災関係 | 4. 男性の家事、育児参加 |
| 5. 子育て、教育関係 | 6. 介護関係 |
| 7. 女性のための起業、再就職 | 8. ころとからだの健康 |
| 9. リフレッシュ | 10. DV 防止、被害者支援 |
| 11. コミュニケーション | 12. 生き方 |
| 13. その他 () | |
| 14. 特にない | |

